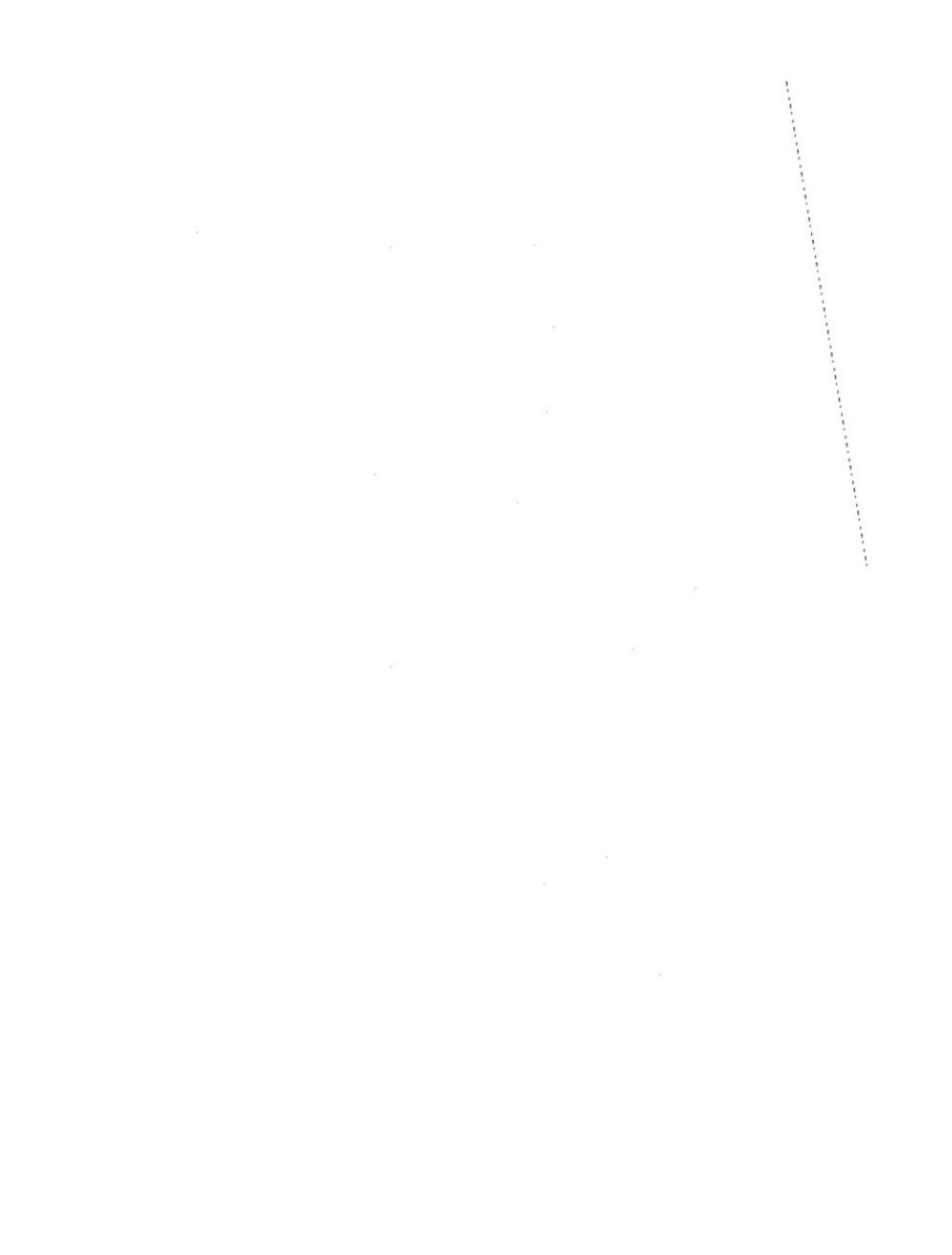


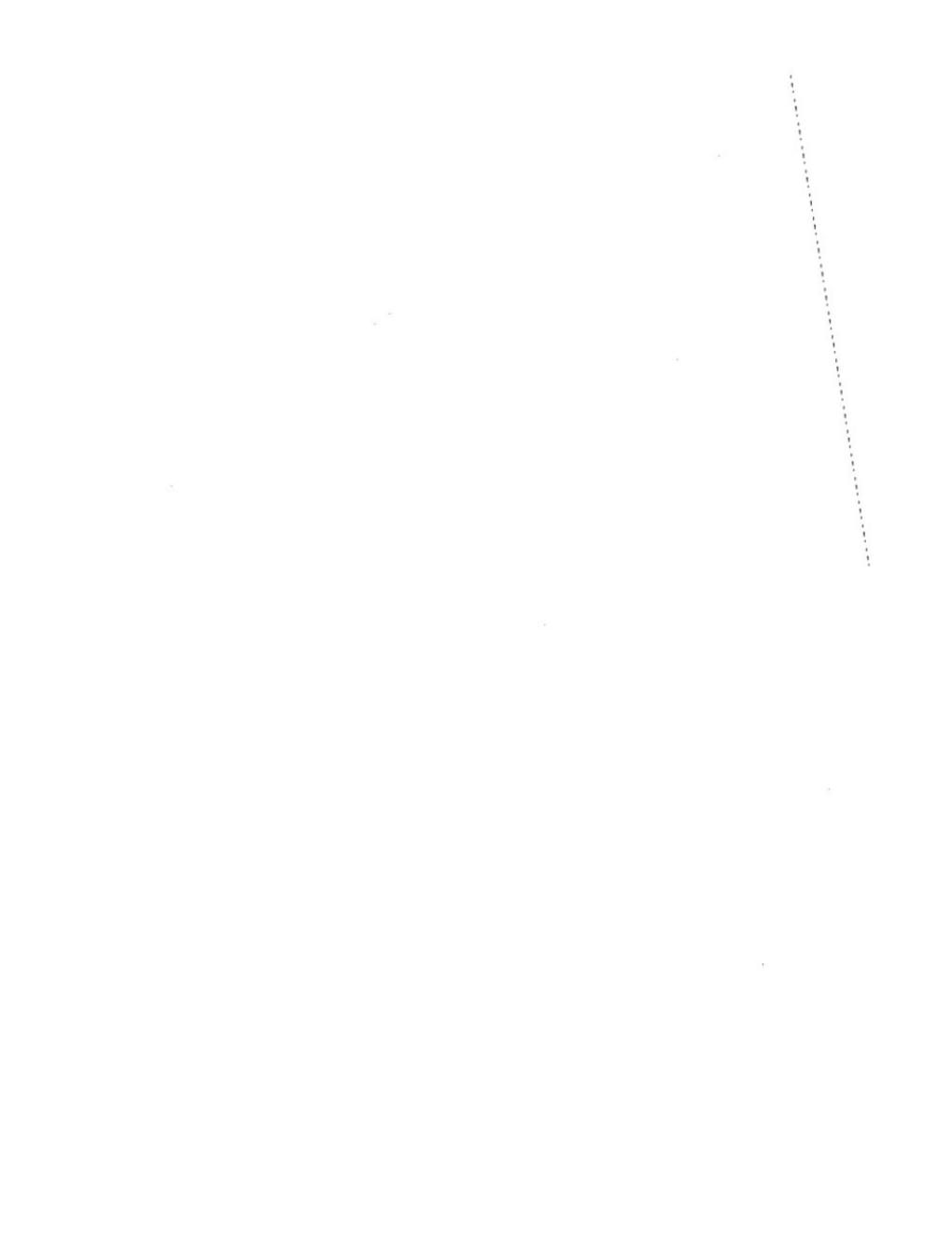
毛森山横穴群

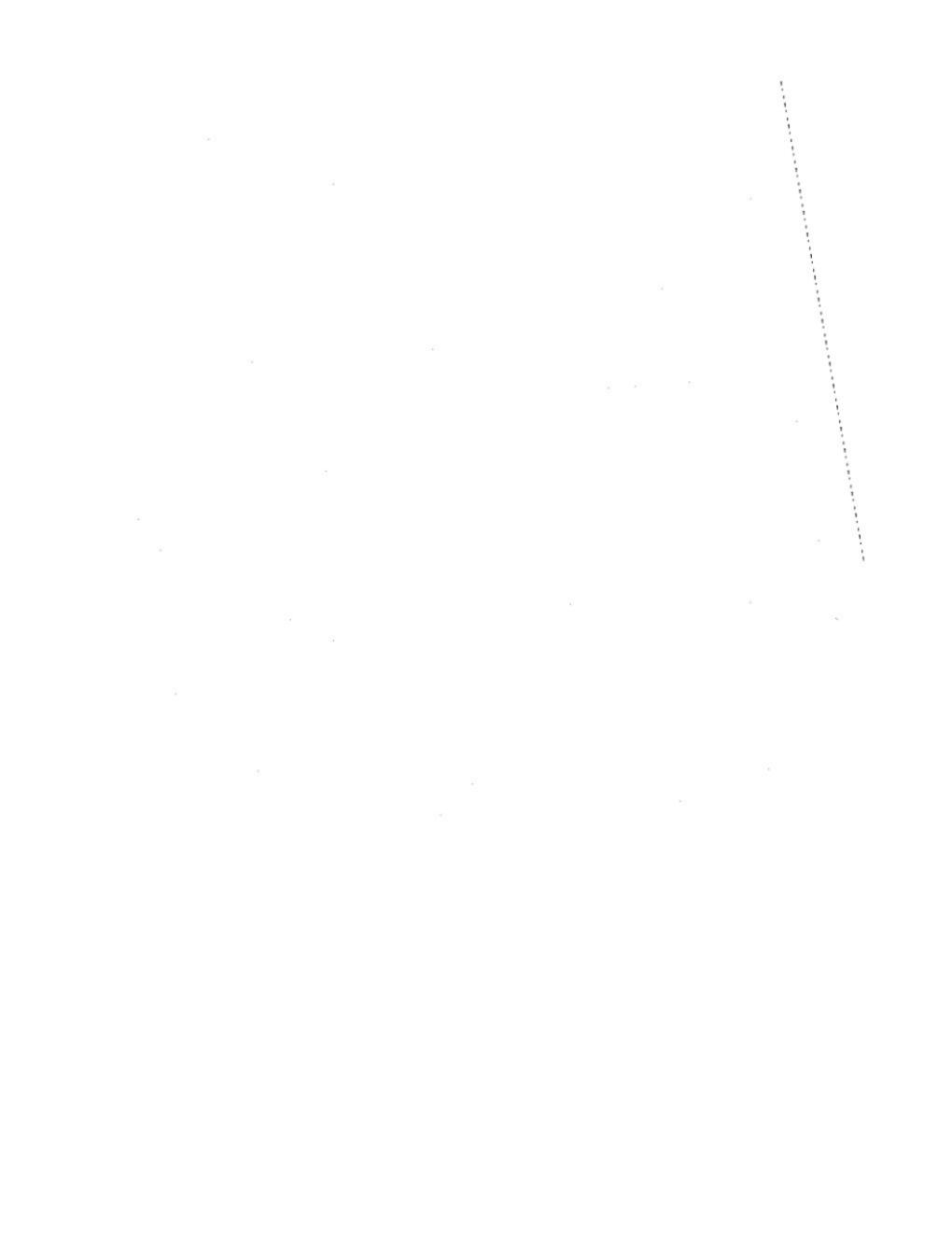
発掘調査報告書

2004

静岡県大東町教育委員会







序

静岡県小笠郡大東町は、昭和48年に町村合併で誕生した新しい町でしたが、この度の平成の大合併により新しい市となり、平成17年3月末にその歴史に幕を閉じようとしています。

しかし、この土地の“歴史”は、もっと古くから始まり、これからも永遠に続いていくものであります。こうした中のほんの一角に“大東町”が存在したのであって、律令体制下への組み入れ、藩幕体制下や行政区割りなどの変更があっても、長い歴史の中では常に人々の暮らしが続いているものであります。

当地は気候温暖に恵まれ、古から人々が生活していたことが、発掘調査によって明らかにされています。特に近年の開発事業等により、多くの遺跡の調査が行なわれ、少しずつではありますが、当時の様子が解明されつつあります。こうした調査の終了後には、発掘調査報告書が刊行され、消滅する遺跡の記録保存を行ってきました。

ここにお届けする「毛森山横穴群」も、農地造成事業の計画により、昭和51年に記録保存のための発掘調査が行なわれた横穴群です。広大な区域の中で多くの横穴群が存在したことが記録されています。

しかし、様々な事情から報告書が作成されず、月日が流れました。このことは、当地の古墳時代の歴史解明に支障をきたすことにもなりかねません。さらに、調査終了から長い時間の経過の中、失われた資料やデータも多く、その詳細が不明な点も多くなりつつあります。そこで、関係各位のご努力とご協力により、散逸しつつある資料を取りまとめて整理し、ようやく“報告書”という形で、発刊の運びとなりました。“発掘調査”とは、報告書の発行をもって、はじめて“終了する”といわれております。本書は“概報”的な内容であり、完全なる報告書ではないかも知れません。しかし、本報告書が大東町の古墳時代解明への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、当時の発掘調査に携わった多くの関係者の方々、そして、本書作成のためにご指導やご尽力を賜った皆様方に、心より感謝申し上げ、「毛森山横穴群」の発掘調査を終了いたします。

平成16年12月

大東町教育委員会
教育長 中谷 孝彦

例 言

- 本書は静岡県小笠郡大東町西之谷・中・田ヶ谷に所在した「毛森山横穴群」の発掘調査報告書である。
- 発掘調査は、大東町毛森山地区農地造成事業に先立つ記録保存のため、昭和51年3月に実施された。
- 調査は大東町教育委員会が主体となり、調査員として故 鈴木規夫氏の指揮の下で実施され、遺構の実測図面は松下利康、松下修、松下幸広、渡辺悟が担当している。しかし、調査日誌や詳細な記録、その他の調査に関わる資料が無く、経過等発掘調査の様相は不明である。
- 調査後の資料整理も鈴木氏が行なっていたが、諸般の事情により中断した。このため報告書は刊行されず、出土遺物のみが教育委員会に保存されてきた。
- 今般、鈴木氏のご家族のご理解により、鈴木宅に大切に保存されていた当時の遺構実測図等が町教育委員会に移管されたため、本書の作成が図られた。
- 本書の作成については、町教育委員会が事業主体となり、 静岡人類史研究所に図面・遺物の整理作業を委託した。
- 報告書作成にあたっては、町教委にも当時の記録が無く、調査終了から長い空白期間が生じたためデータの消失があり、実測図面には標高の記載が無い。したがって、限られた資料に基づき、ここに報告書としてまとめたものである。なお、毛森山横穴群に隣接する田ヶ谷B横穴群も3基が調査されているので、その調査結果も掲載した。
- 本書の執筆と編集は大東町教育委員会 社会教育課 鬼澤勝人が行い、 静岡人類史研究所 森威史が補佐した。
- 本報告書をまとめるにあたり、当時の調査現場を訪れ遺物の実測を手掛けた足立順司氏から、出土遺物の実測図の提供を受け編集指導を得たほか、鈴木宅から遺構実測図等が移管される際には、塚本和弘氏のご尽力を賜った。ここに記して謝意を表したい。
- 本書に記載されている実測図面、出土遺物は大東町教育委員会が保管している。

毛森山横穴群遺構番号対照表

調査時の番号	現在の遺跡番号・名称・横穴番号	調査時の番号	現在の遺跡番号・名称・横穴番号
1号	45 借込横穴群	2号	17-1号
2号	45 借込横穴群	3号	17号
3号	47 大恒A横穴群	1号	18号
4号	47 大恒A横穴群	2号	19-1号
5号	47 大恒A横穴群	3号	19号
6号	47 大恒A横穴群	4号	20号
7号	47 大恒A横穴群	5号	21号
8号	46 大恒B横穴群	1号	22号
9-1号	49 一の谷A横穴群	1号	23号
9号	49 一の谷A横穴群	2号	24号
10号	49 一の谷A横穴群	3号	25号
11号	49 一の谷A横穴群	4号	26号
12号	49 一の谷A横穴群	5号	27号
13号	39 一の谷C横穴群	1号	28号
14号	39 一の谷C横穴群	2号	田ヶ谷中1号
15号	39 一の谷C横穴群	3号	田ヶ谷中2号
16号	39 一の谷C横穴群	4号	田ヶ谷 2号
			42 欠下跡B横穴群
			42 欠下跡B横穴群
			40 一の谷D横穴群
			40 一の谷D横穴群
			40 一の谷D横穴群
			41 欠下跡A横穴群
			40 一の谷D横穴群
			36 薬師横穴群
			43 欠下跡C横穴群
			48 勝田ヶ谷横穴群
			53 田ヶ谷B横穴群

目 次

例言
目次
挿図目次
挿表目次
写真図版目次

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の立地と歴史的環境	
1. 遺跡の立地	1
2. 歴史的環境	1
III 調査結果	
1. 横穴群の概要	4
2. 各横穴群の構造と遺物	
① 僧込横穴群	
1号横穴・2号横穴・3号横穴	4
② 大恒A横穴群	
1号横穴・2号横穴・3号横穴・4号横穴・5号横穴	7
③ 大恒B横穴群	
1号横穴	12
④ 一の谷A横穴群	
1号横穴・2号横穴・3号横穴・4号横穴・5号横穴	13
⑤ 一の谷C横穴群	
1号横穴・2号横穴・3号横穴・4号横穴	16
⑥ 一の谷D横穴群	
1号横穴・2号横穴・3号横穴・4号横穴	19
⑦ 欠下峰A横穴群	
1号横穴	21
⑧ 欠下峰B横穴群	
1号横穴・2号横穴	22
⑨ 欠下峰C横穴群	
1号横穴	27
⑩ 薬師横穴群	
1号横穴・2号横穴・3号横穴・4号横穴・5号横穴	29
⑪ 勝田ヶ谷横穴群	
1号横穴	32
⑫ 田ヶ谷B横穴群	
1号横穴・2号横穴・3号横穴	34
3. 遺構計測表	37
4. 出土土器観察表	41
IV まとめ	53
写真図版	

挿図目次

第 1 図	毛森山横穴群の位置と周辺の遺跡分布図	2
第 2 図	毛森山横穴群の分布状況	3
第 3 図	借込横穴群 1 号横穴平面・断面図	4
第 4 図	借込横穴群 2 号横穴平面・断面図	5
第 5 図	借込横穴群 2 分横穴出土遺物	5
第 6 図	借込横穴群 3 号横穴平面・断面図	6
第 7 図	借込横穴群 3 号横穴出土遺物	6
第 8 図	大恒 A 横穴群 1 号横穴平面・断面図	7
第 9 図	大恒 A 横穴群 1 号横穴出土遺物	8
第 10 図	大恒 A 横穴群 2 号横穴平面・断面図	8
第 11 図	大恒 A 横穴群 2 号横穴出土遺物	9
第 12 図	大恒 A 横穴群 3 号横穴平面・断面図	9
第 13 図	大恒 A 横穴群 3 号横穴出土遺物	10
第 14 図	大恒 A 横穴群 4 号横穴平面・断面図	10
第 15 図	大恒 A 横穴群 4 号横穴出土遺物	11
第 16 図	大恒 A 横穴群 5 号横穴平面・断面図	11
第 17 図	大恒 A 横穴群 5 号横穴出土遺物	12
第 18 図	大恒 B 横穴群 1 号横穴平面・断面図	12
第 19 図	一の谷 A 横穴群 1 号横穴平面・断面図	13
第 20 図	一の谷 A 横穴群 2 号横穴平面・断面図	14
第 21 図	一の谷 A 横穴群 2 分横穴出土遺物	13
第 22 図	一の谷 A 横穴群 3 号横穴平面・断面図	14
第 23 図	一の谷 A 横穴群 3 号横穴出土遺物	15
第 24 図	一の谷 A 横穴群 4 号横穴平面・断面図	15
第 25 図	一の谷 A 横穴群 5 号横穴平面・断面図	16
第 26 図	一の谷 C 横穴群 1 号横穴平面・断面図	17
第 27 図	一の谷 C 横穴群 1 号横穴出土遺物	17
第 28 図	一の谷 C 横穴群 2 号横穴平面・断面図	17
第 29 図	一の谷 C 横穴群 2 号横穴出土遺物	17
第 30 図	一の谷 C 横穴群 3 号横穴平面・断面図	18
第 31 図	一の谷 C 横穴群 3 号横穴出土遺物	18
第 32 図	一の谷 C 横穴群 4 号横穴平面・断面図	19
第 33 図	一の谷 D 横穴群 1 号横穴平面・断面図	19
第 34 図	一の谷 D 横穴群 1 号横穴出土遺物	20
第 35 図	一の谷 D 横穴群 2 号横穴平面・断面図	20
第 36 図	一の谷 D 横穴群 3 号横穴平面・断面図	20
第 37 図	一の谷 D 横穴群 4 号横穴平面・断面図	21
第 38 図	欠下岬 A 横穴群 1 号横穴平面・断面図	21
第 39 図	欠下岬 B 横穴群 1 号横穴平面・断面図	22
第 40 図	欠下岬 B 横穴群 1 号横穴出土遺物 (1)	23
第 41 図	欠下岬 B 横穴群 1 号横穴出土遺物 (2)	24
第 42 図	欠下岬 B 横穴群 1 号横穴出土遺物 (3)	25
第 43 図	欠下岬 B 横穴群 1 号横穴出土遺物 (4)	26
第 44 図	欠下岬 B 横穴群 2 号横穴平面・断面図	27
第 45 図	欠下岬 B 横穴群 2 号横穴出土遺物	27
第 46 図	欠下岬 C 横穴群 1 号横穴平面・断面図	28
第 47 図	欠下岬 C 横穴群 1 号横穴出土遺物	28
第 48 図	栗原横穴群 1 号横穴平面・断面図	29
第 49 図	栗原横穴群 1 号横穴出土遺物	29

第50図	薦師横穴群2号横穴平面・断面図	30
第51図	薦師横穴群3号横穴平面・断面図	30
第52図	薦師横穴群3号横穴出土遺物	31
第53図	薦師横穴群4号横穴平面・断面図	31
第54図	薦師横穴群4号横穴出土遺物	32
第55図	薦師横穴群5号横穴平面・断面図	32
第56図	勝田ヶ谷横穴群1号横穴平面・断面図	33
第57図	勝田ヶ谷横穴群1号横穴出土遺物	33
第58図	Hヶ谷B横穴群1分横穴平面・断面図	34
第59図	田ヶ谷B横穴群1号出土遺物(1)	34
第60図	田ヶ谷B横穴群1号出土遺物(2)	35
第61図	Hヶ谷B横穴群2分横穴平面・断面図	36
第62図	田ヶ谷B横穴群3号横穴平面・断面図	36
第63図	田ヶ谷B横穴群3号出土遺物	36

摂表目次

第1表	周辺の遺跡	3
第2表	遺構計測表	37
第3表	出土土器観察表	41

写真図版目次

写真図版1 1. 借込横穴群1号横穴(左上)・2号横穴(右下) 2. 借込横穴群1号横穴
3. 借込横穴群2号横穴 4. 借込横穴群3号横穴

写真図版2 1. 大恒A横穴群 左から5号・4号・3号・2号・1号横穴
2. 大恒A横穴群 1号横穴
3. 大恒A横穴群1号横穴玄室 4. 大恒A横穴群2号横穴
5. 大恒A横穴群2号横穴玄室

写真図版3 1. 大恒A横穴群 5号横穴(左)・4号横穴(中)・3号横穴(右)
2. 大恒A横穴群3号横穴 3. 大恒A横穴群3号横穴玄室
4. 大恒A横穴群4号横穴 5. 大恒A横穴群5号横穴
6. 大恒A横穴群5号横穴玄室

写真図版4 1. 大恒B横穴群1号横穴
2. 一の谷A横穴群 左から1号・2号・3号・4号・5号横穴
3. 一の谷A横穴群1号横穴 4. 一の谷A横穴群2号横穴
5. 一の谷A横穴群3号横穴

写真図版5 1. 一の谷A横穴群3号横穴玄室 2. 一の谷A横穴群4号横穴
3. 一の谷A横穴群5号横穴 4. 一の谷C横穴群 左から4号・3号・2号横穴
5. 一の谷C横穴群1号横穴 6. 一の谷C横穴群2号横穴

写真図版6 1. 一の谷C横穴群3号横穴 2. 一の谷C横穴群4号横穴
3. 一の谷D横穴群1号横穴(右下)・2号横穴(左上)
4. 一の谷D横穴群1号横穴 5. 一の谷D横穴群2号横穴

写真図版7 1. 一の谷D横穴群3号横穴 2. 一の谷D横穴群4号横穴
3. 欠下鉢A横穴群1号横穴 4. 欠下鉢B横穴群1号横穴
5. 欠下鉢B横穴群1号横穴玄室 6. 欠下鉢B横穴群2号横穴

写真図版8 1. 欠下鉢C横穴群1号横穴
2. 薦師横穴群 左から5号・4号・3号・2号・1号横穴
3. 薦師横穴群1号横穴 4. 薦師横穴群2号横穴

写真図版9 1. 薦師横穴群4号横穴 2. 薦師横穴群4号横穴玄室
3. 薦師横穴群5号横穴 4. 田ヶ谷横穴群3号横穴玄室

- 写真図版10 出土遺物** 1. 僊込3号 土師器壺 2. 大恒A1号 鉄錐 3. 大恒A2号 須恵器壺蓋
4. 大恒A2号 須恵器坏身 5. 大恒A2号 土師器坏身 6. 大恒A3号 耳環 7. 大恒A5号
須恵器広口壺 8. 一の谷C2号 土師器皿 9. 一の谷C3号 土師器小型壺 10. 欠下峠B1号
須恵器壺蓋 11. 欠下峠B1号 須恵器壺蓋 12. 欠下峠B1号 須恵器壺蓋
- 写真図版11 出土遺物** 1. 欠下峠B1号 須恵器壺蓋 2. 欠下峠B1号 須恵器坏身 3. 欠下峠B1号 須恵
器坏身 4. 欠下峠B1号 須恵器坏身 5. 欠下峠B1号 須恵器高坏 6. 欠下峠B1号 須恵器高坏
7. 欠下峠B1号 須恵器高坏 8. 欠下峠B1号 須恵器脚付壺 9. 欠下峠B1号 須恵器提瓶 10. 欠下峠B1号 須恵器横瓶 11. 欠下峠B1号 土師器坏蓋
12. 欠下峠B1号 土師器坏身
- 写真図版12 出土遺物** 1. 欠下峠B1号 土師器高坏 2. 欠下峠B1号 土師器高坏 3. 欠下峠B1号 土師
器壺 4. 欠下峠B1号 土師器壺 5. 欠下峠B1号 鉄錐 6. 欠下峠B2号 須恵器壺 7. 欠
下峠C1号 管玉 8. 薬師1号 須恵器壺蓋 9. 薬師1号 須恵器壺蓋 10. 薬師1号 須恵器
坏身 11. 薬師1号 山茶碗小皿 12. 薬師1号 山茶碗 小皿
- 写真図版13 出土遺物** 1. 薬師3号 山茶碗碗 2. 薬師3号 山茶碗皿 3. 薬師3号 山茶碗小皿
4. 薬師4号 須恵器壺蓋 5. 薬師4号 須恵器坏蓋 6. 薬師4号 須恵器壺蓋 7. 薬師4号
須恵器坏身 8. 薬師4号 山茶碗小皿 9. 勝田ヶ谷1号 須恵器壺蓋 10. 勝田ヶ谷1号 ガラス
小玉 11. 田ヶ谷B1号 須恵器壺蓋 12. 田ヶ谷B1号 須恵器壺蓋
- 写真図版14 出土遺物** 1. 田ヶ谷B1号 須恵器壺蓋 2. 田ヶ谷B1号 須恵器坏身 3. 田ヶ谷B1号 須恵
器坏身 4. 田ヶ谷B1号 須恵器坏身 5. 田ヶ谷B1号 須恵器坏身 6. 田ヶ谷B1号 須恵器
高坏 7. 田ヶ谷B1号 須恵器高坏 8. 田ヶ谷B1号 須恵器高坏 9. 田ヶ谷B1号 須恵器高坏
10. 田ヶ谷B1号 須恵器高坏 11. 田ヶ谷B1号 須恵器蓋付長頸壺

I 調査に至る経緯

毛森山横穴群は、静岡県内では、その分布状況から“遠江の横穴群”という範疇の中のさらに、“菊川流域の横穴群”に属し、横穴群が密集して所在する地域に存在する。

そもそも“毛森山横穴群”とは一つの群をなす横穴群ではなく、大東町中・西之谷、田ヶ谷という広大な地域にまたがって存するそれぞれの横穴群を総称して一般的に“毛森山横穴群”と言っており、中地区の内、この地域が古くは“毛森村”と呼ばれる地域に属し、小字名が毛森であるために呼称された名称である。

ここに大東町毛森山地区農地造成事業（茶園造成）が計画され、工事に先立つ記録保存のための発掘調査が、昭和51年3月に実施された。当時の町教育委員会では発掘調査が実施できる体制になかったため、当地域の考古学的発掘調査に精通していた鈴木規夫氏を調査員として依頼し、その指導の下で計画区域に存する横穴群の発掘調査を実施した。

その後、鈴木氏は自らの手元で遺構実図等の記録を整理し、報告書作成の作業が進められたが、諸般の事情で報告書が刊行されなかった。そして、出土遺物の一部のみが教育委員会に保存されてきた。こうして長い間、“毛森山横穴群”的詳細については不明であったが、一時に多くの基數を調査した当横穴群の存在は、知る人ぞ知る横穴群であり、当地域の古墳時代の墓制を語る上で貴重な存在であることが考えられてきた。

このようにして長い空白期間が生じたため、当時、この一連の作業に関係した人も少なくなり、その記憶の薄れと共に資料など失われた記録もあるらしく、また、こうした経緯も人づての聞き取りによる部分も多く、その実状に差異があるかも知れない。

II 遺跡の立地と歴史的環境

1. 遺跡の立地

毛森山横穴群は菊川の支川である佐東川と亀惣川の流域に存在する。横穴群が構築された丘陵部は浸食が進みやすい地層で、緩やかな地形になり、丘陵の裾部には河川によるU字谷が形成されており、その谷毎に横穴群が分布している。横穴群の分布域は泥層や砂泥互層、あるいは凝灰岩層のように軟らかく、横穴を構築し易い地層の分布域でもある。このような地層は掛川層群や蘇我層群に相当する。横穴は尾根筋の直下で、東～南～南西の斜面に構築されているもの多い。

2. 歴史的環境

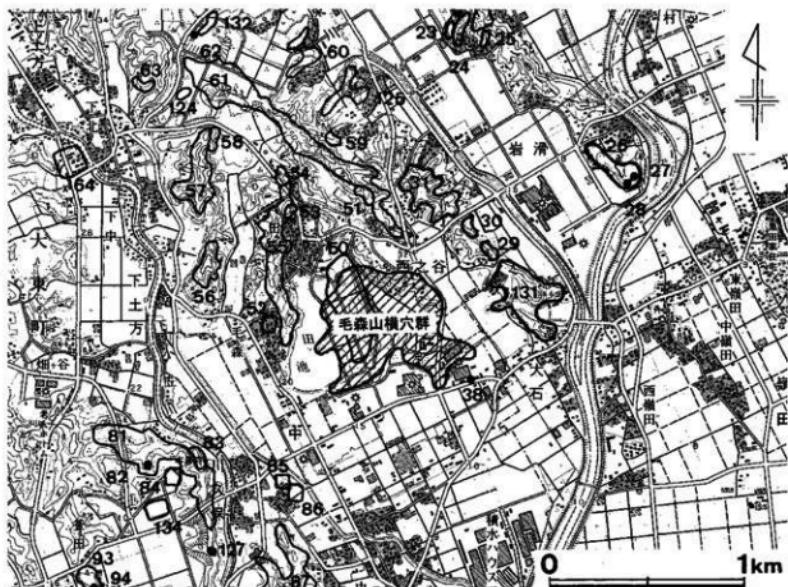
大東町には縄文時代から近世にかけての遺跡が134ヶ所確認されている。

縄文時代の遺跡は大坂の三井山Ⅱ遺跡・山王遺跡、千浜の糸縄遺跡の3遺跡があり、発掘調査の行われた糸縄遺跡からは縄文土器片・石錘・打製石器・磨石などが出土している。

弥生時代の遺跡は高瀬の高瀬遺跡、中方の中方遺跡、大坂の三井山Ⅰ遺跡・神田遺跡・報地遺跡、海戸の兼情遺跡、千浜の糸縄遺跡の7遺跡があり、発掘調査の行われた兼情遺跡からは弥生時代後期後半の土器を伴う周溝墓が16基確認されたほか、溝状遺構が40条、穴状遺構が30基、弥生土器片が10,871点、石器が4点出土しており、近くに集落が存在していたことが推測できる。

古墳時代の遺跡としては、古墳が17基、横穴群が45ヶ所、遺物散布地が14ヶ所、窯跡が1ヶ所の計77ヶ所が知られており、特に横穴群が多いことが特徴として挙げられる。毛森山横穴群の周辺に分布する横穴群は、北東方向に在る山脇横穴群・興津庵横穴群・北方向に在る猫田横穴群・田ヶ谷A横穴群・火ヶ峰横穴群・玉体横穴群・明僧横穴群・北東方向に田ヶ谷C横穴群・下土方青谷横穴群・笹ヶ谷横穴群・近江ヶ谷横穴群など、流域が異なる横穴群もあるが密集している。

中世から近世にかけての城館跡は49ヶ所が知られている。中世の地方豪族は平地や低丘陵の緩斜面に館を構えていたが、ひとたび戦が起こると館は城の機能を果さなければならず、防御施設として館の四方を囲む堀と土塁を備えた。大東町域に在る館跡は入山瀬三郎館・八相寺館・長嶋河内守館・雑賀館・土方氏館・国安館の6ヶ所が知られているが、八相寺館・土方氏館・国安館以外の館は消滅している。武士団の活動が活発化すると平地の館から山城に移行していく。大東町域に在る山城は国指定史跡の高天神城をはじめ、高天神城の攻防に関する砦が27ヶ所在る。中でも小笠山砦・火ヶ峰砦・能ヶ坂砦・中村砦（中村城山）・三井山砦（大坂砦・相坂砦）・獅子ヶ鼻砦の6砦は、武田氏の拠点であった高天神城を攻撃するために徳川家康が造らせたと言われる砦である。毛森山横穴群の東に獅子ヶ鼻砦が在り、南に中村砦が在る。また、当時の武将の屋敷跡が10ヶ所、刀鍛冶の屋敷跡が3ヶ所、代官屋敷や八官宿などが2ヶ所在る。



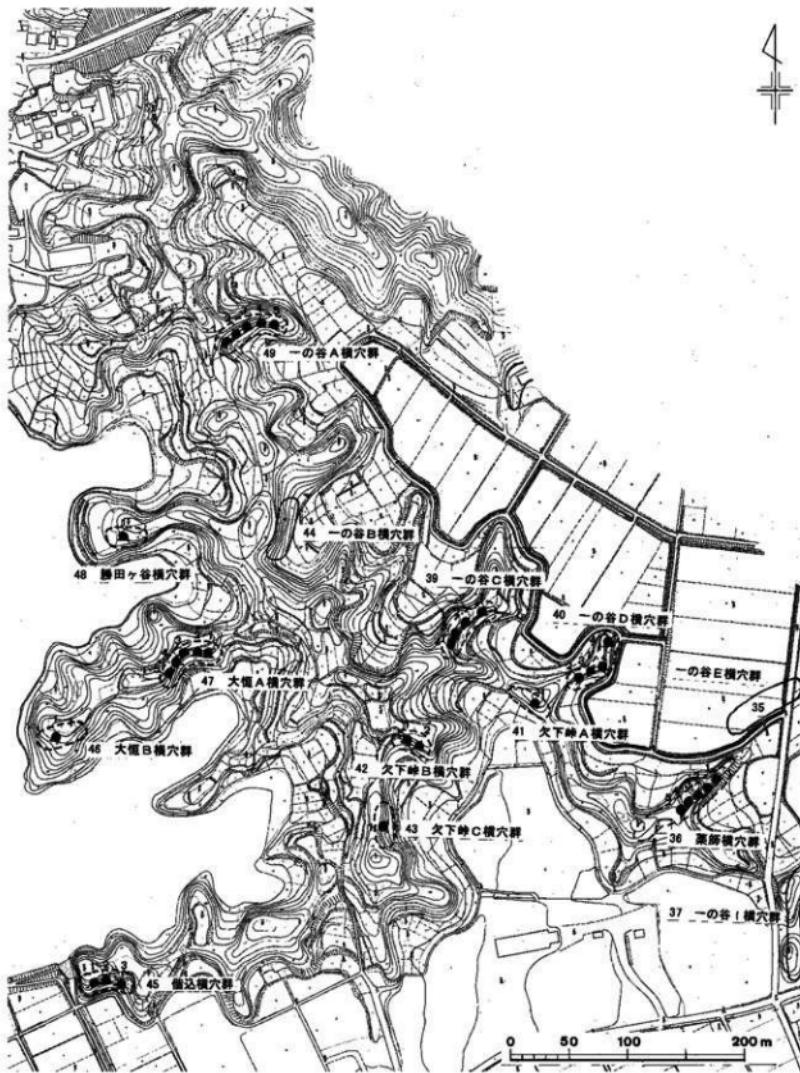
第1図 毛森山横穴群の位置と周辺の遺跡分布図

出典：「大東町文化財地名表・分布図」 大東町教育委員会 2001年

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代	所在地	番号	遺跡名	時代	所在地
23	城山遺跡	古墳	岩滑	60	玉体横穴群	古墳後期	中方
24	八ヶ谷横穴群	古墳後期	岩滑字八ヶ谷	61	火ヶ峰砦	中世	下土方、中
25	穴口横穴群	古墳後期	岩滑	62	丸山古墳	古墳	中方字近江ヶ谷
26	青木前遺跡	古墳	岩滑字青木前	63	笠ヶ谷横穴群	古墳後期	土方字笠ヶ谷
27	青木前2号墳	古墳	岩滑字青木前	64	土方石館	近世	土方字掘之内
28	青木前1号墳	古墳	岩滑字青木前	81	鎌田砦	中世	大坂
29	山脇横穴群	古墳後期	岩滑字山脇	82	鎌田古墳	古墳	三井
30	興穂檜横穴群	古墳後期	岩滑字山脇	83	本勝寺裏横穴群	古墳後期	大坂
31	毛森山砦	中世	中	84	岡部丹波屋敷	中世	大坂
38	国京塚遺跡	中世	西之谷	85	宝庭敷	中世	川久保
50	西ノ谷砦	中世	西之谷	86	高天神兼明尾敷	中世	中
51	猫田横穴群	古墳後期	西之谷	87	帝釈山砦	中世	中
52	池田鍬平屋敷	中世	中	93	山王山遺跡	绳文	大阪
53	田ヶ谷B横穴群	古墳後期	田ヶ谷	94	山王山古墳	古墳	大阪
54	田ヶ谷A横穴群	古墳後期	田ヶ谷	124	下土方青谷横穴群	古墳後期	下土方
55	田ヶ谷砦	中世	中	125	明僧横穴群	古墳後期	岩滑
56	惣勢山砦	中世	中	127	五塚山古墳	古墳	大坂
57	安成砦	中世	下土方	131	獅子ヶ鼻砦	中世	岩滑、小笠町大石
58	田ヶ谷C横穴群	中世	田ヶ谷	134	鎌田遺跡	古墳～近世	
59	火ヶ峰横穴群	古墳後期	田ヶ谷		毛森山横穴群		

出典：「大東町文化財地名表・分布図」 大東町教育委員会 2001年



第2図 毛森山横穴群の分布状況図

III 調査の結果

1. 横穴群の概要

遺跡地名表によれば、毛森山横穴群は17支群137基からなる。すなわち、傍込横穴群（3基）、大恒A・Bの2支群（9基）、一の谷A～Iまでの9支群（97基）、欠下畔A・B・Cの3支群（4基）、薬師横穴群（11基）、勝田ヶ谷横穴群（1基）である。

今回調査した横穴は傍込横穴群が3基、大恒A横穴群が5基、大恒B横穴群が1基、一の谷A横穴群が5基、一の谷C横穴群が4基、一の谷D横穴群が4基、欠下畔A横穴群が1基、欠下畔B横穴群が2基、欠下畔C横穴群が1基、薬師横穴群が5基、勝田ヶ谷横穴群が1基の合計32基である。

なお、毛森山横穴群に隣接する田ヶ谷B横穴群も3基が調査されているので、その調査結果も掲載した。

2. 各横穴群の構造と遺物

各横穴の構造と遺物は以下に示す通りである。なお、出土遺物の内、土器類の詳細については土器観察表を参照して頂きたい。

①傍込横穴群（第2図の45）

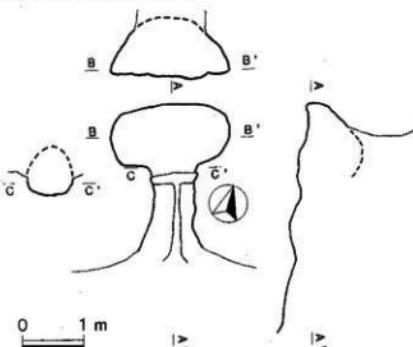
本横穴群は西南西に伸びる丘陵の南斜面に構築され、3基からなる。

1号横穴（第3図）

遺構 本横穴は3基の中でも西に位置する。玄室の主軸はN-16°-Eを指し、長さは1.05m、最大幅は1.96m、高さは残存高が0.68mを測る。平面形は横長の精円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は後世の擾乱を受けており、埋葬施設は確認されていない。

羨道部は短く、羨門部に向かって幅を減じている。長さ0.32m、玄門部の幅0.83m、羨門部の幅0.68mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。閉塞施設は残存していない。幕道は長さ1.08m、最大幅0.68mが残存し、中央に浅い排水溝がある。

遺物 遺物は出土していない。



第3図 傍込横穴群1号横穴平面・断面図

2号横穴（第4図）

遺構 本横穴は3基の中、中央に位置する。玄室の主軸はN-28°-Wを指し、長さは2.31m、最大幅は3.32m、高さは1.59mを測る。平面形は三角フラスコ形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は後世の擾乱を受けており、埋葬施設は確認されていない。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.53m、玄門部幅1.39m、羨門部幅0.75mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。中央に浅い排水溝がある。閉塞施設は残存していない。幕道は長さ3.26m、最大幅1.62mが残存し、中央に羨道部から続く浅い排水溝がある。

遺物 遺物は須恵器の壺身が1点出土しているのみで、その壺身を図示した（第5図）。

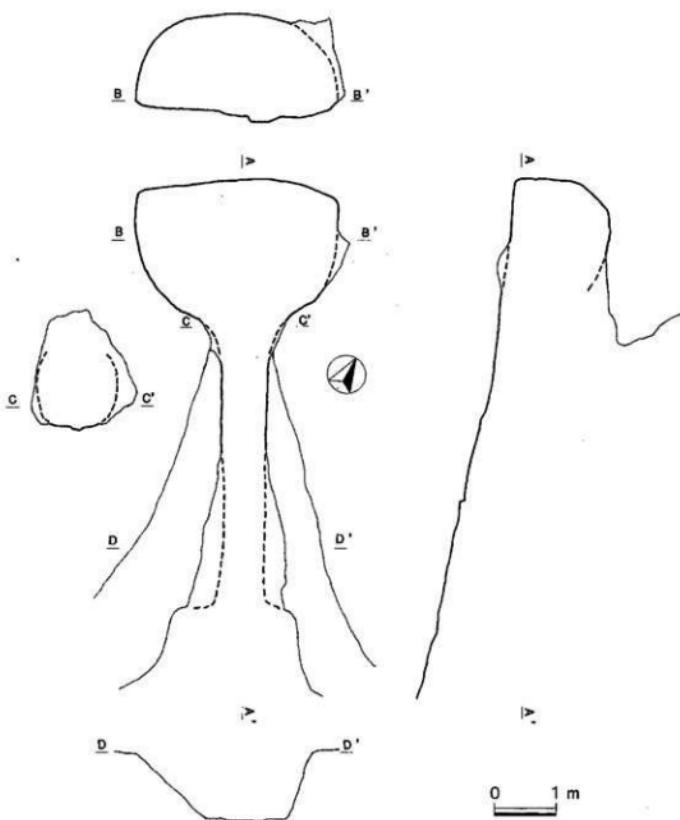
3号横穴（第6図）

遺構 本横穴は3基の中、最も東に位置する。玄室の主軸はN-12°-Wを指し、長さは3.89m、最大幅は2.32m、高さは残存高が1.53mを測る。平面形は丸底のフラスコ形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は後世の擾乱を受けており、埋葬施設は確認されていない。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じていない。長さ2.16m、玄門部幅0.86m、羨門部幅1.02mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下3段が残存している。残存する封鎖石の高さは0.53m、範囲は0.83m×1.84mである。

幕道は長さ3.23m、最大幅2.58mが残存する。排水溝は無い。

遺物 遺物は土器器の壺が1点出土しているのみで、その壺を図示した（第7図）。

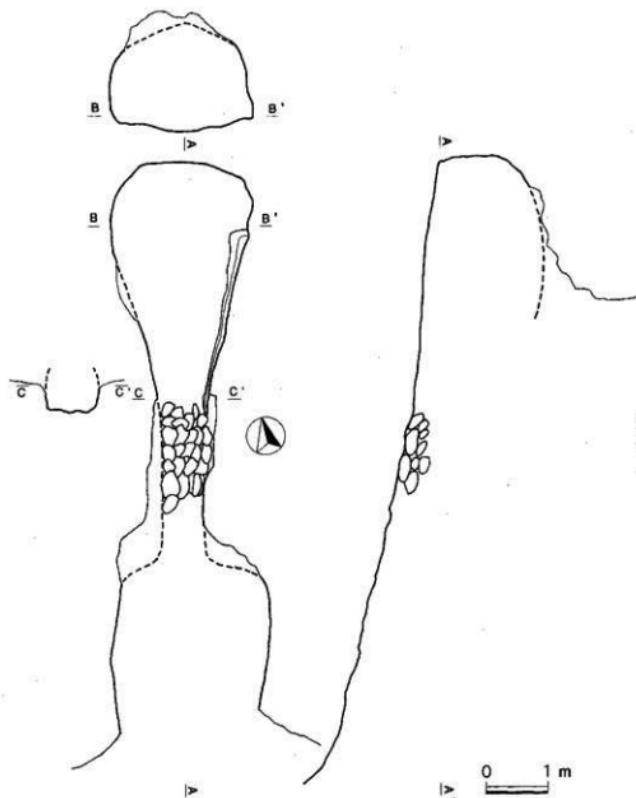


第4図 備込横穴群2号横穴平面・断面図

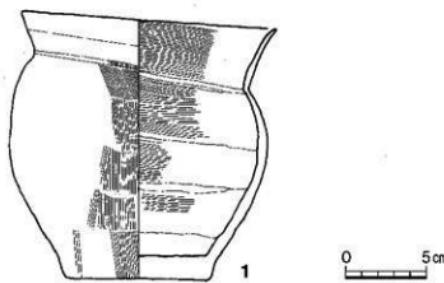


第5図 備込横穴群2号横穴出土遺物
1 須恵器 壊身

III 調査結果 2. 各横穴群の構造と遺物



第6図 倭込横穴群3号横穴平面・断面図



第7図 倭込横穴群3号横穴出土遺物
1 土師器 瓦

②大恒A横穴群（第2図の47）

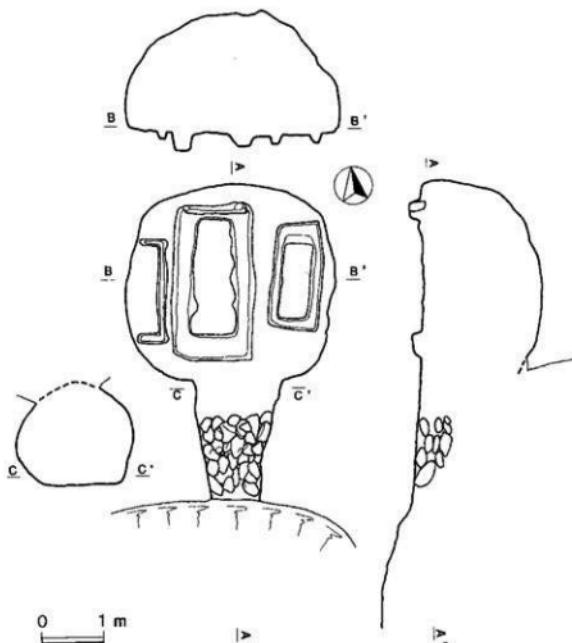
本横穴群は南西に伸びる丘陵の南東斜面に構築され、5基からなる。

1号横穴（第8図）

遺構 本横穴は5基の内、最も東に位置する。玄室の主軸はN-6°-Wを指し、長さは3.21m、最大幅は3.40m、高さは最大高が1.92mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。

埋葬施設は玄室の主軸に並行した長軸をもつ3基の組合式石棺の壙方が残存している。主たる壙方は中央に在る壙方で、内法は幅0.56m～0.71m、長さ1.92mあり、北側の幅が狭い。壙方には長さ1.04m、高さ0.26mの板状棺材が残っている。東側に位置する壙方は、中央に在る壙方より規模が小さく、内法は幅0.46m～0.50m、長さ1.36mある。西側に位置する壙方は、西側壁に付く「コ」の字状の壙方で、中央に在る壙方より規模が小さく、内法は幅0.36m～0.48m、長さ1.45mある。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.96m、玄門部幅1.45m、羨門部幅0.78mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下4段が残存している。封鎖石の高さは0.63m、範囲は1.14m×1.82mである。

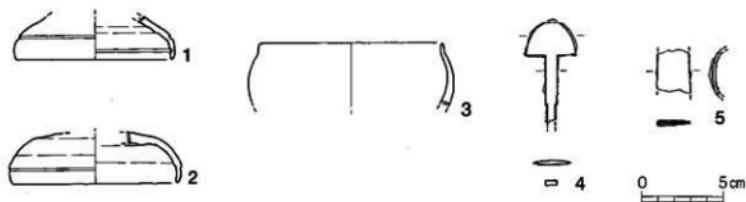


第8図 大恒A横穴群1号横穴平面・断面図

遺物 遺物は須恵器片が22点（壺蓋片2点、口縁部片7点、体部片9点、底部片4点）、土師器片が21点（口縁部片3点、体部片17点、底部片1点）、鉄製品（大刀片4点、刀装金具片1点、鐵錐2点、鐵器片4点）が11点の合計54点出土している。なお、鐵錐は羨道部で出土している。このうち、実測が可能な須恵器の壺蓋2点、土師器の壺1点、鐵錐1点、刀装金具（鑑）片1点の5点を図示した（第9図）。第9図4の鐵錐は笠被広鋒平造三角形式で、僅かに先端を欠いているが錐身部の平面形状は三角形、開は角

III 調査結果 2. 各横穴群の遺構と遺物

関である。残存長は6.65cmある。錐身部の残存長は2.15cm、残存幅は3.20cm、笠被部の長さ3.30cm、幅0.70cm、基部の残存長は1.20cmある。5の鉗片は鉄製で、残存長2.75cm、幅2.10cm、重ね0.18cmある。

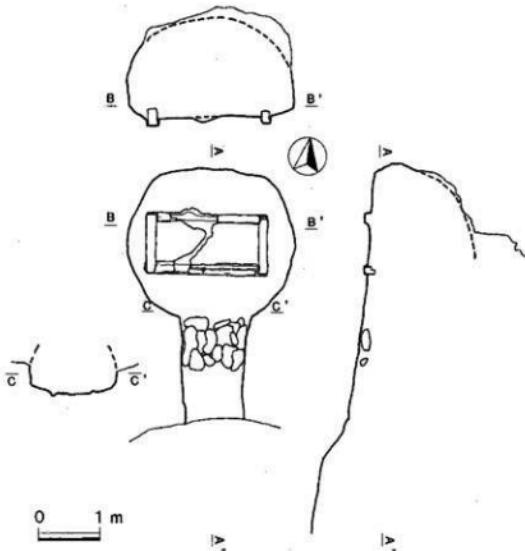


第9図 大恒A横穴群1号横穴出土遺物
1・2 須恵器 壺蓋、3 土師器 壶、4 鉄錠、5 鉗片

2号横穴 (第10図)

遺構 本横穴は1号の西隣に位置する。玄室の主軸はN-7°-Eを指し、長さは2.44m、最大幅は2.75m、高さは残存高が1.72mを測る。平面形は円形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。

埋葬施設は玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺の堀方が1基残存している。堀方の内法は幅0.66m、長さ1.87mあり、中央より西側が搅乱を受けているが、長さ0.32m~1.16m、高さ0.16m~0.32mの板状棺材が堀方の中に残っている。

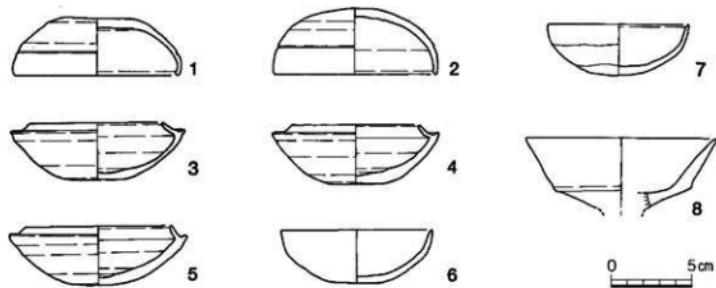


第10図 大恒A横穴群2号横穴平面・断面図

羨道部は羨門部に向かって僅かに幅を減じている。長さ1.77m、玄門部幅1.18m、羨門部幅0.94mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下2段が残存している。残存する封鎖石の高さは0.25m、範囲は1.03m×0.88mである。

III 調査結果 2. 各横穴群の遺構と遺物

遺物 遺物は須恵器片が19点（坏身3点、坏蓋2点、坏蓋片5点、短頸壺の口縁部片2点、壺の体部片4点、口縁部片1点、体部片2点）、土師器片が9点（坏身2点、坏身片3点、高坏の坏部片1点、口縁部片3点）の合計28点出土している。このうち、実測が可能な須恵器5点（坏蓋2点、坏身3点）、土師器3点（坏身2点、高坏の坏部片1点）の8点を図示した（第11図）。

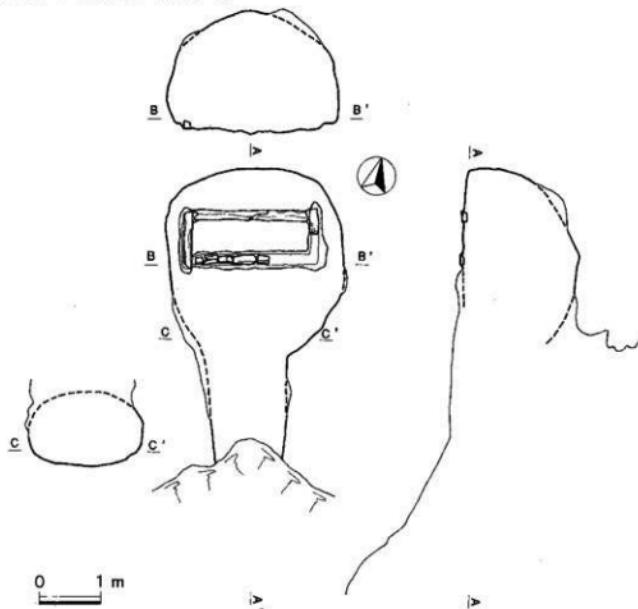


第11図 大恒A横穴群2号横穴出土遺物

1・2 須恵器 壊蓋、3・4・5 須恵器 壊身、6・7 土師器 壊身、8 土師器 高坏

3号横穴（第12図）

遺構 本横穴は2号の西側上位に位置する。玄室の主軸はN-12°-Eを指し、長さは3.08m、最大幅は2.90m、高さは最大高が1.90mを測る。平面形は縦長橢円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は狭道部に向かって緩やかに傾斜する。



第12図 大恒A横穴群3号横穴平面・断面図

III 調査結果 2. 各横穴群の構造と遺物

埋葬施設は玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺の壠方が1基残存している。壠方の内法は幅0.56m、長さ1.93mあり、西側と南側が擾乱を受けているが、長さ0.25m~1.86m、高さ0.05m~0.10mの板状棺材の基部が壠方の中に残っている。人骨・歯や耳環が棺の壠方と奥壁との間から出土しており、擾乱を受けていることが判る。

羨道部は後門部に向かって幅を減じている。残存する長さ1.73m、玄門部幅1.48mを測る。高さは大井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖されていたと思われ、川原石が1個残存しているのみである。

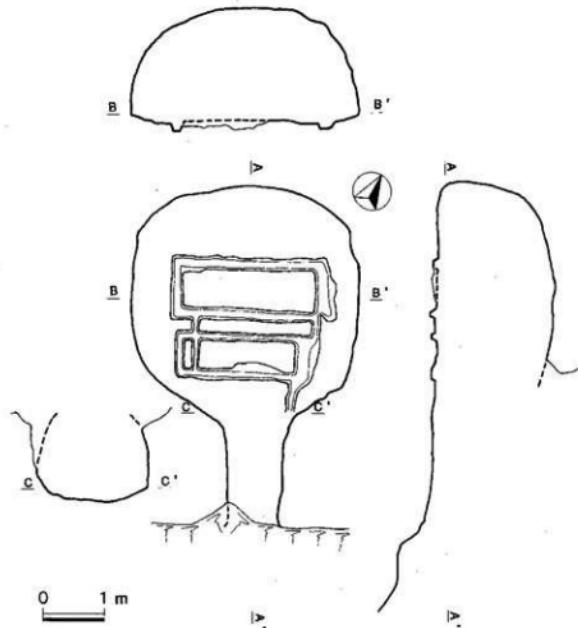
遺物 遺物は須恵器片が14点（大甕の体部片10点、頸部片1点、体部片1点、底部片2点）、土師器片が13点（环身1点、环身の口縁部片2点、口縁部片7点、体部片2点、底部片1点）、耳環が1点、鉄器片が1点、歯が2点（門歯1本、犬歯1本）、人骨片2点の合計33点出土している。このうち、実測が可能な土師器の环身1点、耳環1点の2点を図示した（第13図）。2の耳環は外径2.90cm、内径1.45cmを測る。



第13図 大恒A横穴群3号横穴出土遺物
1 土師器 环身、2 耳環

4号横穴（第14図）

構造 本横穴は3号の西隣に位置する。玄室の主軸はN-32°-Eを指し、長さは3.80m、最大幅は3.76m、高さは最大高が2.00mを測る。平面形は円形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。

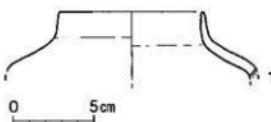


第14図 大恒A横穴群4号横穴平面・断面図

埋葬施設は玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺の壠方が2基分残存している。北側の壠方の内法は幅0.64m～0.68m、長さ2.17mある。南側の壠方の内法は幅0.48m～0.50m、長さ1.82mあり、北側に比べ規模が小さい。西側に両者を繋ぐ排水溝があり、東側には羨道部に向かう排水溝が掘られていている。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。残存する長さ1.69m、玄門部幅1.38mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。玄室に繋がる排水溝は無い。閉塞施設は残存していない。

遺物 遺物は須恵器片が3点（短頸壺の口縁部片1点、体部片2点）、土師器片が2点（口縁部片1点、体部片1点）鐵器片が1点の合計6点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の短頸壺の口縁部片1点を図示した。



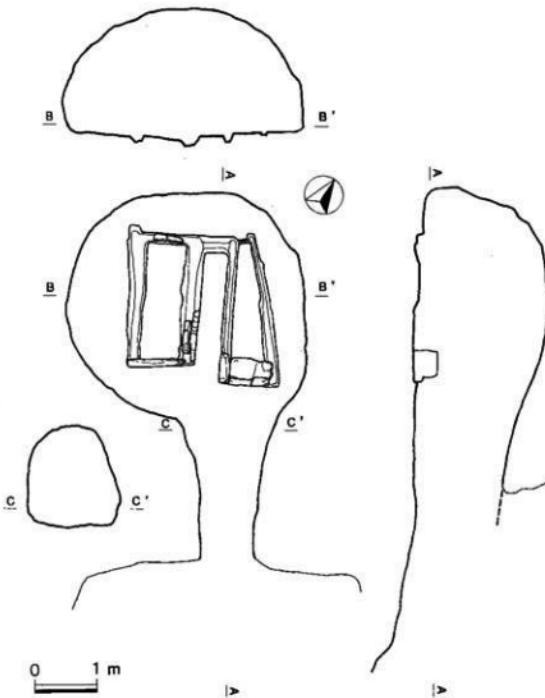
第15図 4号横穴出土遺物
1 須恵器 短頸壺口縁部

5号横穴（第16図）

遺構 本横穴は4号の西隣で、5基の内、最も西に位置する。玄室の主軸はN-35°-Eを指し、長さは3.73m、最大幅は3.92m、高さは最大高が2.19mを測る。平面形は円形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。玄門が玄室の東側に寄っており、片袖式の玄室を思わせる。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。

埋葬施設は玄室の主軸に並行した長軸をもつ、2基の組合式石棺の壠方が残存している。主たる壠方は西側に在る壠方で、内法は幅0.63m、長さ1.94mある。壠方の中に長さ0.48m、高さ0.36mの板状棺材が残っている。東側に位置する壠方の内法は幅0.18m～0.56m、長さ2.24mあり、北側の幅が極端に狭い。南側に側石と床石の一部が残っている。排水溝は見られない。

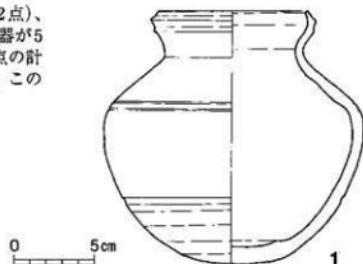
羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ2.30m、玄門部幅1.65m、羨門部幅0.86mを測る。高さは中央で1.45mある。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖されていたと思われ、石が2個残存している。



第16図 大恒A横穴群5号横穴平面・断面図

III 調査結果 2. 奈良穴群の遺構と遺物

遺物 遺物は須恵器片が3点（口縁部片1点、肩部片2点）、人骨片が2点、鉄器片が2点の計7点、羨道部から須恵器が5点（口縁部片4点、体部片1点）、土器器の体部片が1点の計6点、前庭部から広口壺1点の合計14点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の広口壺1点を図示した。



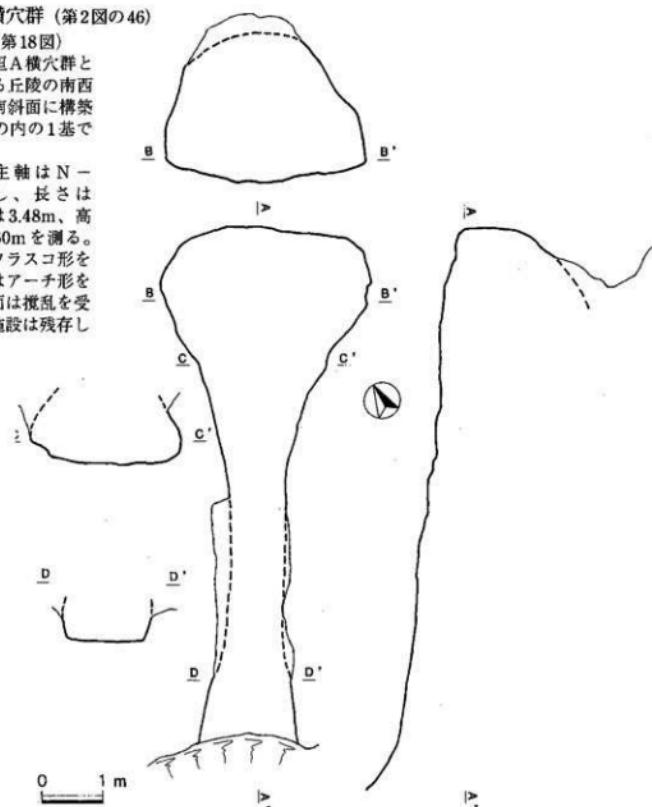
第17図 5号横穴出土遺物
1 須恵器 広口壺

③大恒B横穴群（第2図の46）

1号横穴（第18図）

本横穴群は大恒A横穴群と同じ南西に伸びる丘陵の南西方向に位置し、南斜面に構築されている横穴の内の1基である。

遺構 玄室の主軸はN- 29° -Wを指し、長さは4.45m、最大幅は3.48m、高さは残存高が1.60mを測る。平面形は丸底のフラスコ形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は擾乱を受けており、埋葬施設は残存していない。



第18図 大恒B横穴群1号横穴平面・断面図

羨道部は羨門部に向かって開いている。長さ2.98m、玄門部幅0.95m、羨門部幅1.28mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖されていたと思われ、石が5個残存しているが、元の位置とは考えられない。

遺物 遺物は出土していない。

④一の谷A横穴群（第2図の49）

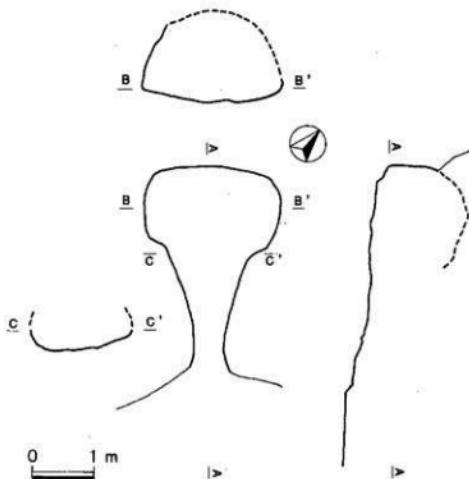
本横穴群は北東に伸びる丘陵の南東斜面に構築され、5基からなる。

1号横穴（第19図）

構造 本横穴は5基の内、最も南西に位置する。玄室の主軸はN-39°-Eを指し、長さは1.41m、最大幅は2.25m、高さは残存高が0.90mを測る。平面形は横長の楕円形を呈し、横断面はアーチ形を呈している。床面は擾乱を受けしており、埋葬施設は残存していない。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.10m、玄門部幅1.42m、羨門部幅0.62mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は残存していない。

遺物 遺物は出土していない。



第19図 一の谷A横穴群1号横穴平面・断面図

2号横穴（第20図）

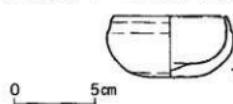
構造 本横穴は1号の北東隣に位置する。玄室の南東部は擾乱を受けている。主軸はN-37°-Eを指し、残存長は2.50m、最大幅は3.08m、高さは残存高が1.98mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、横断面形はアーチ形をしている。床面は前面部分に擾乱を受けているが、奥壁部分は残っており、そこから遺物が出土している。

埋葬施設は玄室の主軸に並行した長軸をもつ組合式石棺の壙方が半分残存している。壙方の内法は幅0.58m、残存長0.73mある。排水溝は見られない。

羨道部および閉塞施設は不明である。

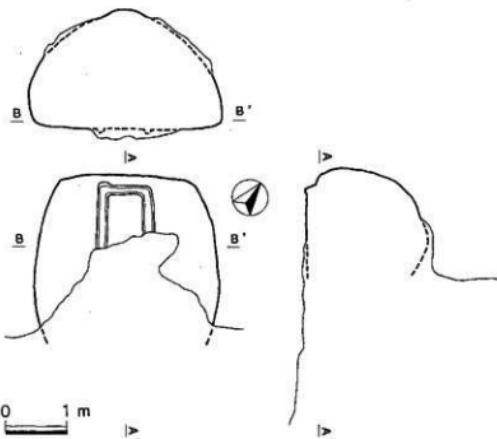
遺物 遺物は須恵器が9点（蓋1点、坏蓋の口縁部片1点、坏身の口縁部片1点、口縁部片2点、肩部片2点、体部片2点）、土師器の体部片が1点の合計10点出土している。

この他に人骨片も出土している。このうち、実測が可能な須恵器の蓋1点を図示した。



第21図 2号横穴出土遺物
1 須恵器 蓋

III 調査結果 2. 各横穴群の遺構と遺物



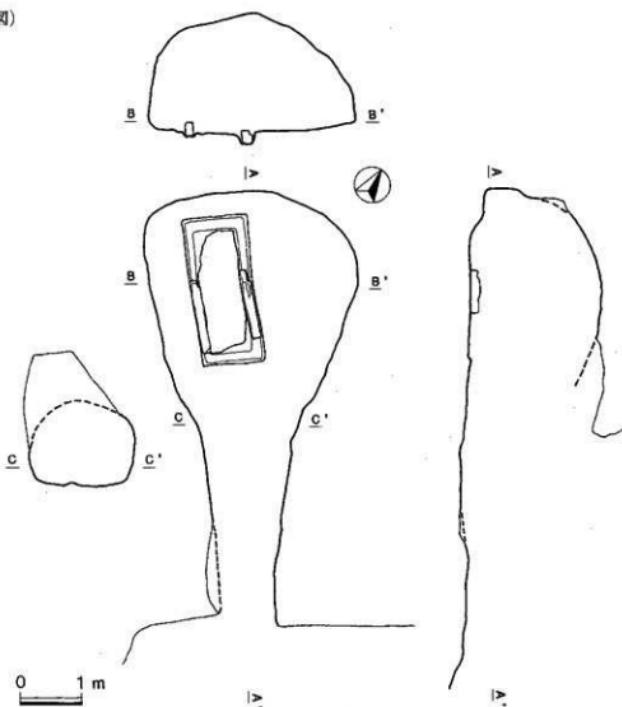
第20図 一の谷A横穴群2号横穴平面・断面図

3号横穴（第22図）

遺構 本横穴は2号の北東隣に位置する。玄室の主軸はN-31°-Eを指し、長さは4.18m、最大幅は3.45m、高さは最大高が2.12mを測る。平面形は丸底のプラスコ形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。

埋葬施設は玄室の主軸にほぼ並行した長軸をもつ組合式石棺の壠方が1基残存している。壠方の内法は幅0.65m～0.70m、長さ2.02mである。壠方の中に長さ1.20m～1.23m、高さ0.16mの板状棺材の基部が残っている。排水溝は見られない。

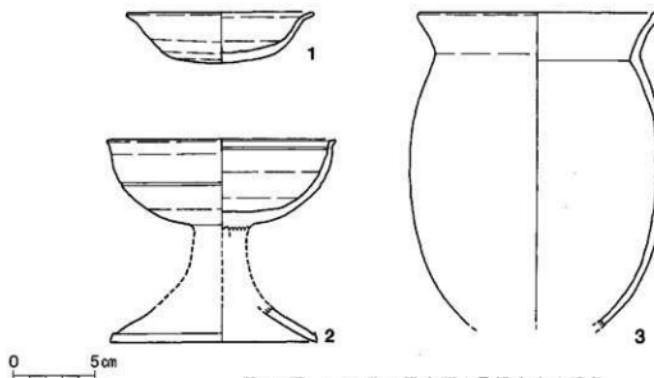
羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.42m、玄門部幅1.49m、羨門部幅1.10mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。



第22図 一の谷A横穴群3号横穴平面・断面図

排水溝は無い。閉塞施設は残存していない。

遺物 遺物は須恵器片7点（縁の体部片が1点、坏身1点、高坏1点、広口壺の口縁部片1点、口縁部片3点）、土師器が28点（壺の頸部片3点、壺1点、口縁部片6点、体部片16点、底部片2点）、鐵錠片4点、鐵器片5点の合計44点出土している。この他に古くに使用したと思われる亀甲片も出土している。このうち、実測が可能な須恵器2点（坏身1点、高坏1点）、土師器の壺1点を図示した（第23図）。



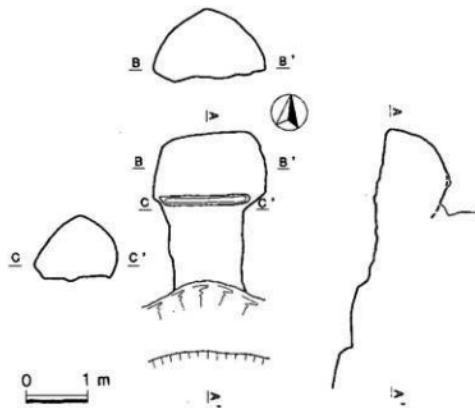
第23図 一の谷A横穴群3号横穴出土遺物
1 須恵器 壊身、2 須恵器 高坏、3 土師器 壺

4号横穴（第24図）

遺構 本横穴は3号の北東隣に位置する。玄室の主軸はN-7°-Eを指し、長さは1.18m、最大幅は1.81m、高さは最大高が1.22mを測る。平面形は横長の隅丸方形を呈し、横断面形は尖頭アーチ形を呈している。床面は搅乱を受けており、埋葬施設も残存していない。玄門部にある浅い溝は後世のものと思われる。

羨道部は羨門部に向かって僅かに幅を減じている。長さ1.40m、玄門部幅1.41m、羨門部幅1.12mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は残存していない。

遺物 遺物は出土していない。



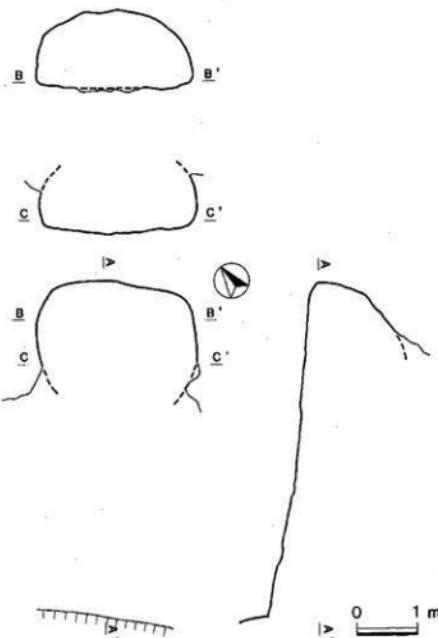
第24図 一の谷A横穴群4号横穴平面・断面図

5号横穴（第25図）

遺構 本横穴は5基の内、最も北東に位置する。玄室の主軸はN-35°-Wを指す。前面が崩壊しているため残存長は1.42m、最大幅は2.68m、高さは残存高が1.48mを測る。平面形は横長の梢円形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は搅乱を受けており、埋葬施設は残存していない。

羨道部および閉塞施設は不明である。

遺物 遺物は鉄器片が1点出土しているのみである。



第25図 一の谷A横穴群5号横穴平面・断面図

⑤一の谷C横穴群（第2図の39）

本横穴群は北東に伸びる丘陵の南東斜面に構築され、4基からなる。

1号横穴（第26図）

構造 本横穴は4基の内、最も北東に位置する。玄室の主軸はN-17°-Eを指し、長さは3.22m、最大幅は3.15m、高さは1.95mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は狭道部に向かって緩やかに傾斜する。

埋葬施設は玄室の主軸にはば並行した長軸をもつ組合式石棺の壠方が1基残存している。壠方の内法は幅0.75m～0.82m、長さ1.98mあり、北側の幅が狭い。排水溝は見られない。

狭道部は玄門部に向かって幅を減じている。長さ2.17m、玄門部幅1.74m、狭門部幅1.28mを測る。高さは中央部で1.25mある。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下段が残存している。残存する封鎖石の高さは0.19m、範囲は1.03m×1.52mである。

遺物 遺物は須恵器が47点（大甕の口縁部から体部片39点、体部片7点、底部片1点）出土している。このうち、実測が可能な須恵器の大甕の口縁部から体部片1点を図示した（第27図）。

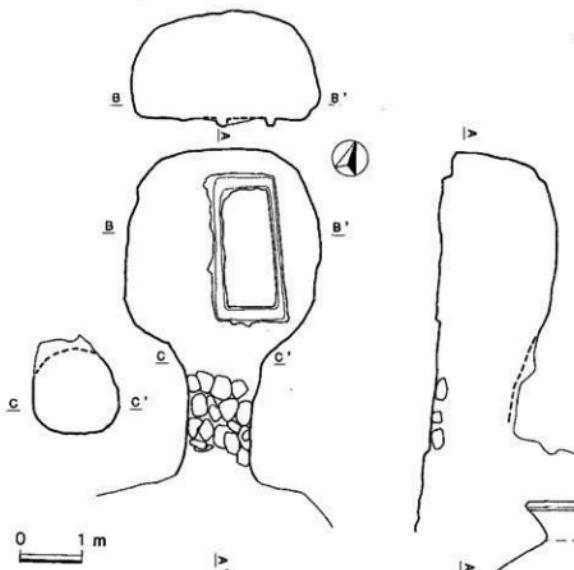
2号横穴（第28図）

構造 本横穴は1号の南西隣に位置する。玄室の主軸はN-44°-Eを指し、長さは1.05m、最大幅は1.66m、高さは最大高が0.90mを測る。平面形は横長の楕円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は平らで礫が柄鏡状に1.20m×0.80mの範囲で敷かれている。棺座となる礫石は不明である。排水溝は見られない。

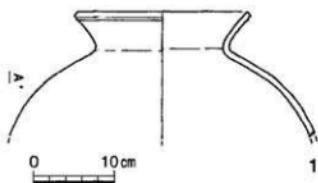
狭道部は玄門部に向かって幅を減じていない。玄室の床面より一段低く掘り込まれている。長さ1.38m、玄門部幅1.03m、狭門部幅1.05mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は残存していない。

遺物 遺物は土師器が6点（皿3点、体部片3点）、鉄器片1点の合計7点出土している。このうち、実測が可能な土師器の皿3点を図示した（第29図）。

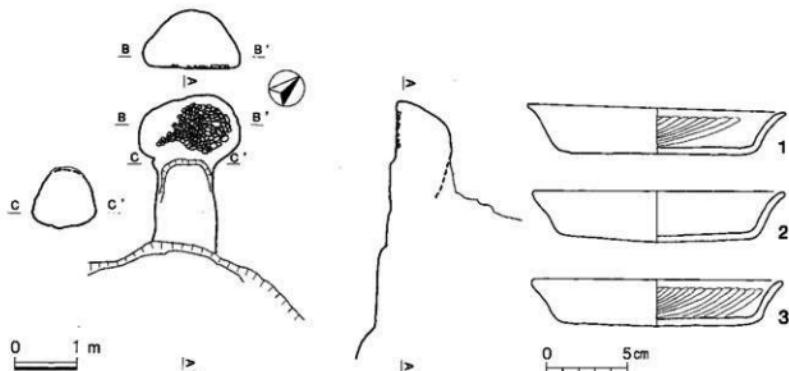
III 調査結果 2. 各横穴群の遺構と遺物



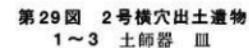
第26図 一の谷C横穴群1号横穴平面・断面図



第27図 1号横穴出土遺物
1 須恵器 大甕口縁部～体部片



第28図 一の谷C横穴群2号横穴平面・断面図



第29図 2号横穴出土遺物
1～3 土師器 皿

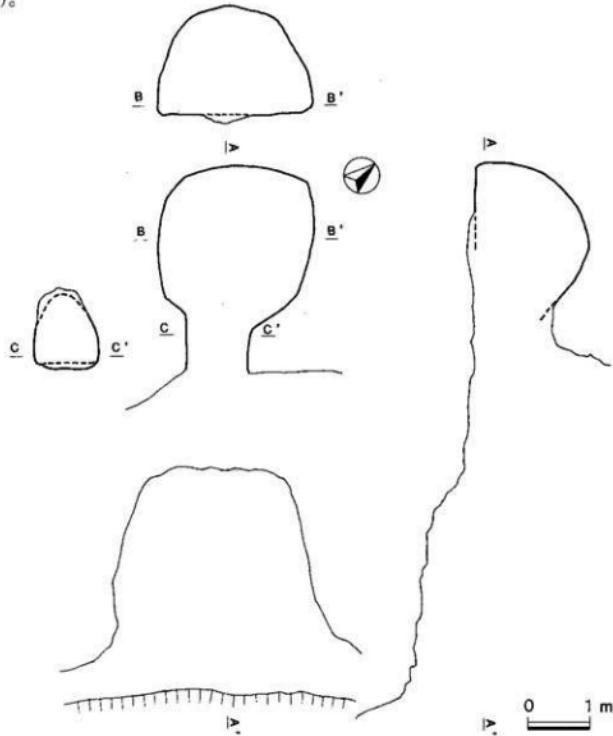
III 調査結果 2. 各横穴群の遺構と遺物

3号横穴（第30図）

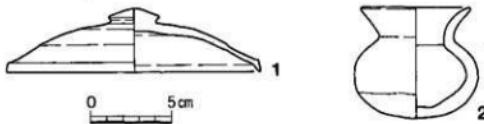
遺構 本横穴は2号の南西隣に位置する。玄室の主軸はN-46°-Eを指し、長さは2.54m、最大幅は2.55m、高さは最大高が1.98mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は擾乱を受け、組合式石棺の棺材が玄室の東側に散乱し、壙方も確認されていない。また、排水溝も不明である。

誤道部は誤門部に向かってやや幅を減じている。残存する長さ0.86m、玄門部幅1.26mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。閉塞施設は残存していない。

遺物 遺物は須恵器が4点（坏蓋1点、口縁部片1点、体部片2点）、土師器が1点（小型壺1点）の合計5点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の坏蓋1点、土師器の小型壺1点を図示した（第31図）。



第30図 一の谷C横穴群3号横穴平面・断面図



第31図 一の谷C横穴群3号横穴出土遺物

1 須恵器 壊蓋、2 土師器 小型壺

4号横穴（第32図）

遺構 本横穴は3号の南西隣で、4基の内、最も南西に位置する。玄室の主軸はN-55°-Eを指し、長さは1.86m、最大幅は1.25m、高さは最大高が1.12mを測る。平面形は縦長の隅丸方形を呈し、横断面形は尖頭アーチ形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜し、礫が0.90m×1.10mの範囲で敷かれている。床の前半分は一段低く掘り込まれ、川原石が3個散乱している。棺座となる礫石であるのか、封鎖石であるのかは不明である。排水溝は無い。

羨道部は羨門部に向かってやや幅を減じている。残存する長さ0.78m、玄門部幅0.82mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。玄門部には主軸に直交する溝があり、その溝に続く溝が羨道部の中央を開口部に向かって掘られている。

遺物 遺物は出土していない。

⑥一の谷D横穴群（第2図の40）

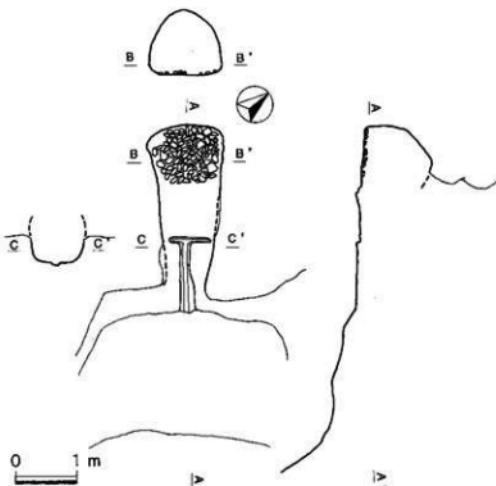
本横穴群は北東に伸びる丘陵の南東斜面に構築され、4基からなる。

1号横穴（第33図）

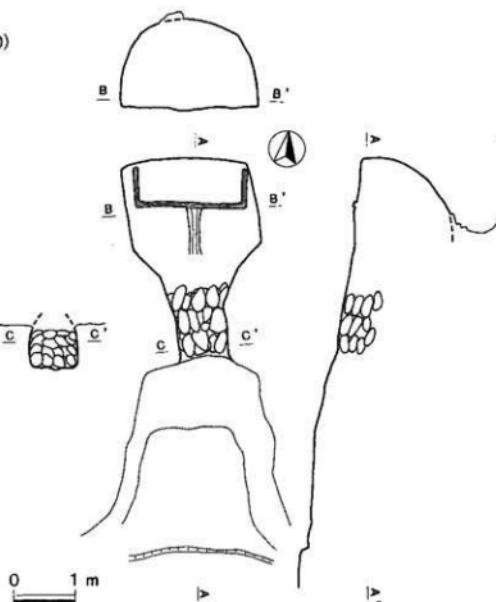
遺構 本横穴は4号の南西に位置する。玄室の主軸はN-7°-Eを指し、長さは1.87m、最大幅は2.13m、高さは残存高が1.56mを測る。平面形は方形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。

埋葬施設は玄室の主軸に直交した長軸をもち、奥壁に付く形の組合式石棺の側方が残存している。側方の内法は幅0.66m～0.73m、長さ1.72mある。中央に、羨道部に向かう排水溝が掘られている。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.43m、玄門部幅1.29m、羨門部幅0.84mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。玄室に繋がる排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下4段が残存している。残存する封鎖石の高さは0.64m、範囲は0.98m×1.12mである。

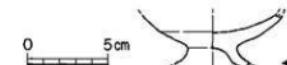


第32図 一の谷C横穴群4号横穴平面・断面図



第33図 一の谷D横穴群1号横穴平面・断面図

遺物 遺物は須恵器片が2点出土している。このうち、実測が可能な須恵器の高坏の接合部1点を図示した（第34図）。



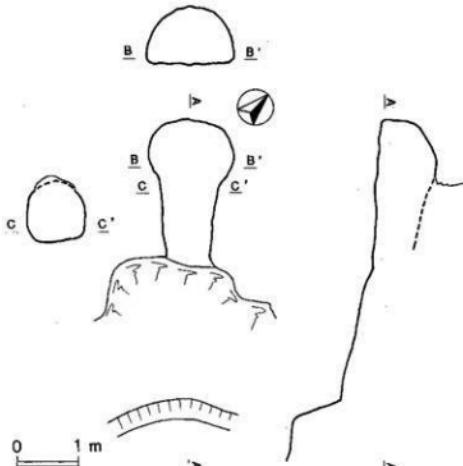
第34図 一の谷D横穴群1号横穴出土遺物
1 須恵器 高坏の接合部

2号横穴（第35図）

構造 本横穴は4基の内、最も南西に位置する。玄室の主軸はN-45°-Eを指し、長さは0.92m、最大幅は1.30m、高さは最大高が0.90mを測る。平面形は横長の楕円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。埋葬施設は残存していない。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.25m、玄門部幅0.88m、羨門部幅0.66mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は残存していない。

遺物 遺物は出土していない。



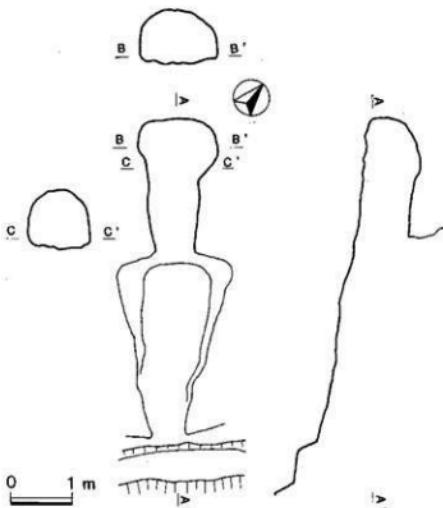
第35図 一の谷D横穴群2号横穴平面・断面図

3号横穴（第36図）

構造 本横穴は1号の南西に位置する。玄室の主軸はN-43°-Eを指し、長さは0.96m、最大幅は1.42m、高さは最大高が0.94mを測る。平面形は横長の楕円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。埋葬施設は残存していない。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.30m、玄門部幅1.08m、羨門部幅0.74mを測る。高さは中央部で0.83mある。排水溝は無い。閉塞施設は残存していない。羨道は長さ2.38m、最大幅2.22mある。

遺物 遺物は出土していない。



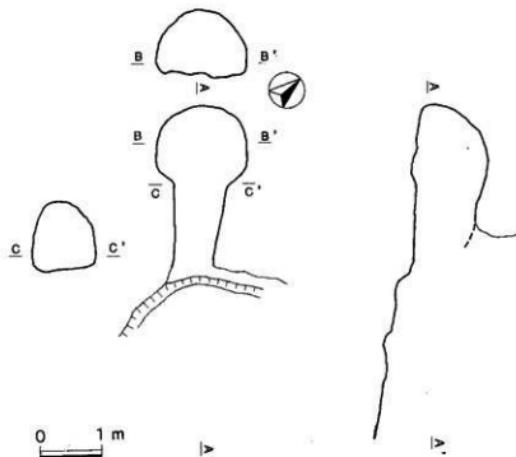
第36図 一の谷D横穴群3号横穴平面・断面図

4号横穴（第37図）

遺構 本横穴は1号より少し離れた北西に位置する。玄室の主軸はN-45°-Eを指し、長さは1.32m、最大幅は1.48m、高さは最大高が1.20mを測る。平面形は円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は搅乱を受けており、埋葬施設は残存していない。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.33m、玄門部幅0.89m、羨門部幅0.65mを測る。高さは中央部で0.97mある。排水溝は無い。閉塞施設は残存していない。

遺物 遺物は出土していない。



第37図 一の谷D横穴群4号横穴平面・断面図

⑦欠下峠A横穴群（第2図の41）

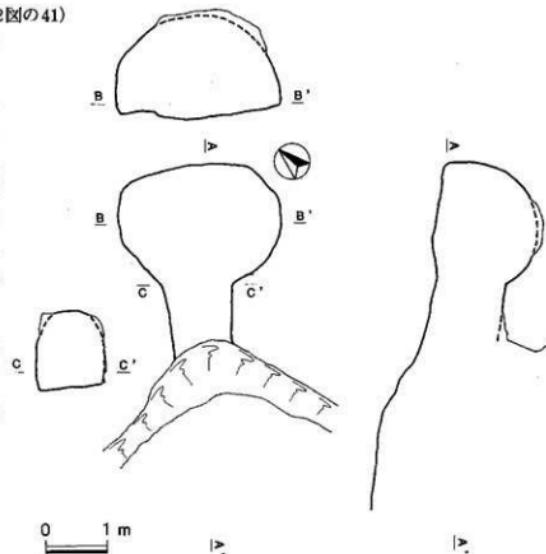
一の谷D横穴群の西に位置し、1基が調査された。

1号横穴（第38図）

遺構 本横穴は、一の谷D横穴群3号横穴の西に位置する。玄室の主軸はN-48°-Wを指し、長さは2.00m、最大幅は2.68m、高さは最大高が1.46mを測る。平面形は横長の橢円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は搅乱を受けており、埋葬施設は残存していない。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。残存する長さ0.94m、玄門部幅1.18m、高さは中央部で1.20mを測る。排水溝は無い。閉塞施設は残存していない。

遺物 遺物は出土していない。



第38図 欠下峠A横穴群1号横穴平面・断面図

⑧欠下峠B横穴群（第2図の42）

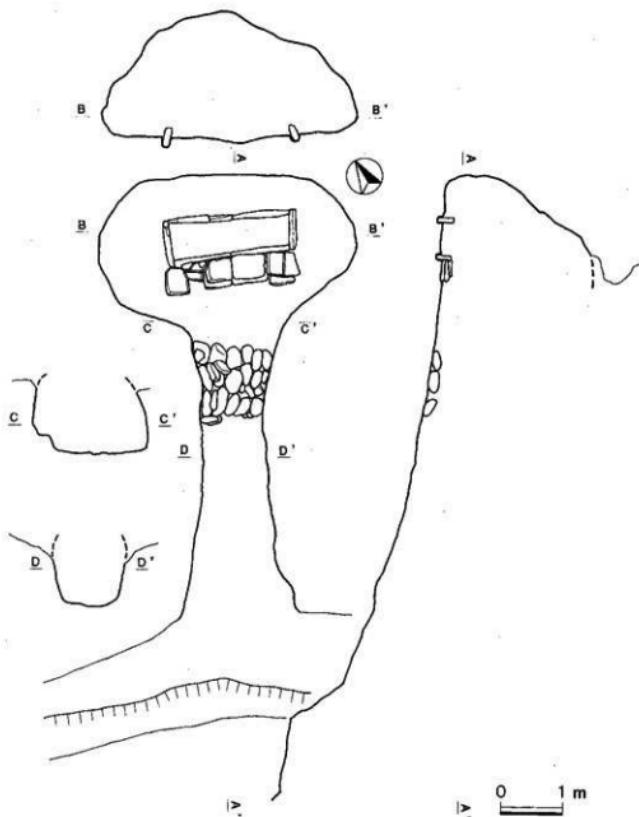
欠下峠A横穴群の西で、東に伸びる丘陵の南斜面に構築され、2基からなる。

1号横穴（第39図）

構造 本横穴は2基の内、東側に位置する。玄室の主軸はN-31°Wを指し、長さは2.61m、最大幅は4.25m、高さは残存高が2.44mを測る。平面形は横長の楕円形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は収道部に向かって緩やかに傾斜する。

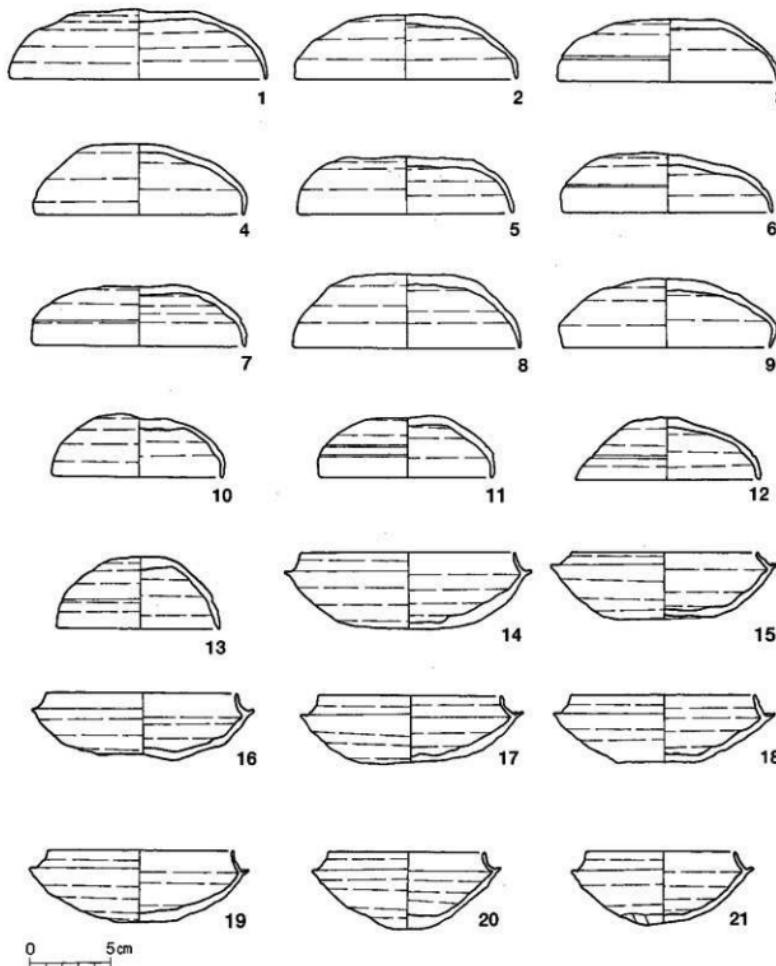
埋葬施設は玄室の上軸に直交した長軸をもち、組合式石棺が残存している。石棺の内法は幅0.46m～0.61m、長さ1.98m、残存する高さは0.28mある。東側の幅がやや狭くなっている。石棺の手前には板状の棺材が9枚重なって並んでいる。排水溝は無い。石棺の手前東側に土器類が一括して出土している。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.64m、玄門部幅1.55m、羨門部幅1.03mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下1段が残存している。残存する封鎖石の高さは0.20m、範囲は1.40m×1.38mである。幕道は3.08m、最大幅1.96mある。

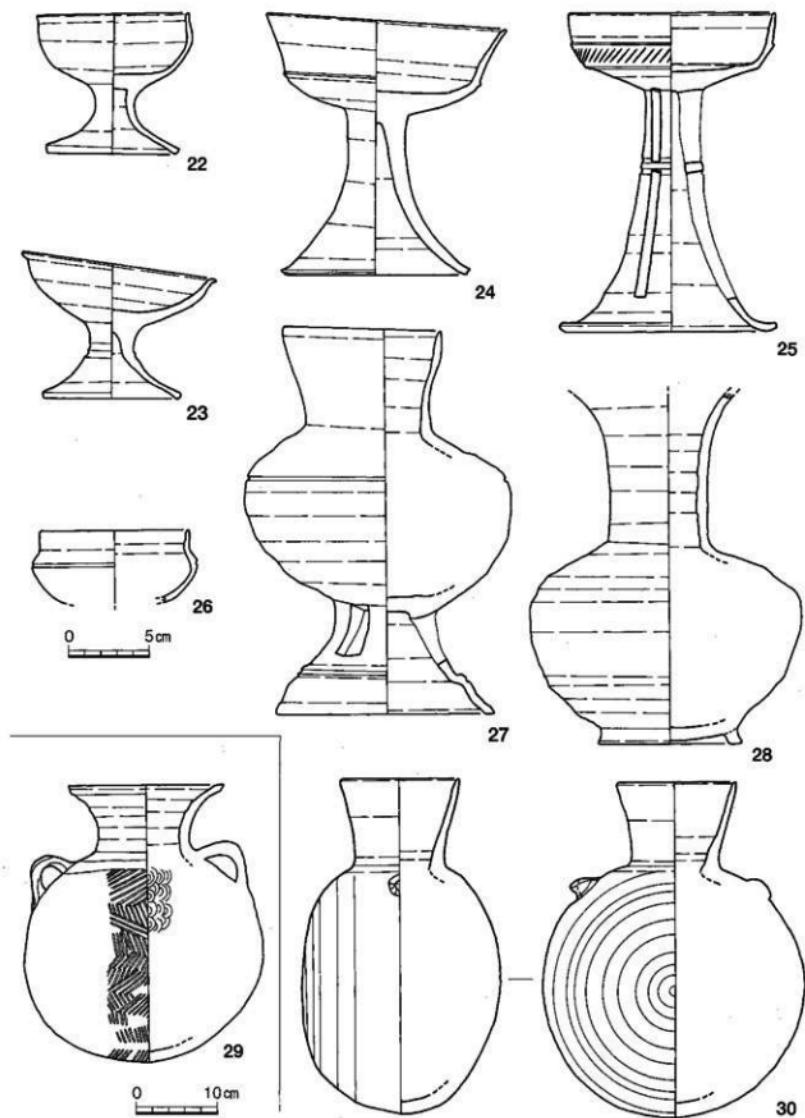


第39図 欠下峠B横穴群1号横穴平面・断面図

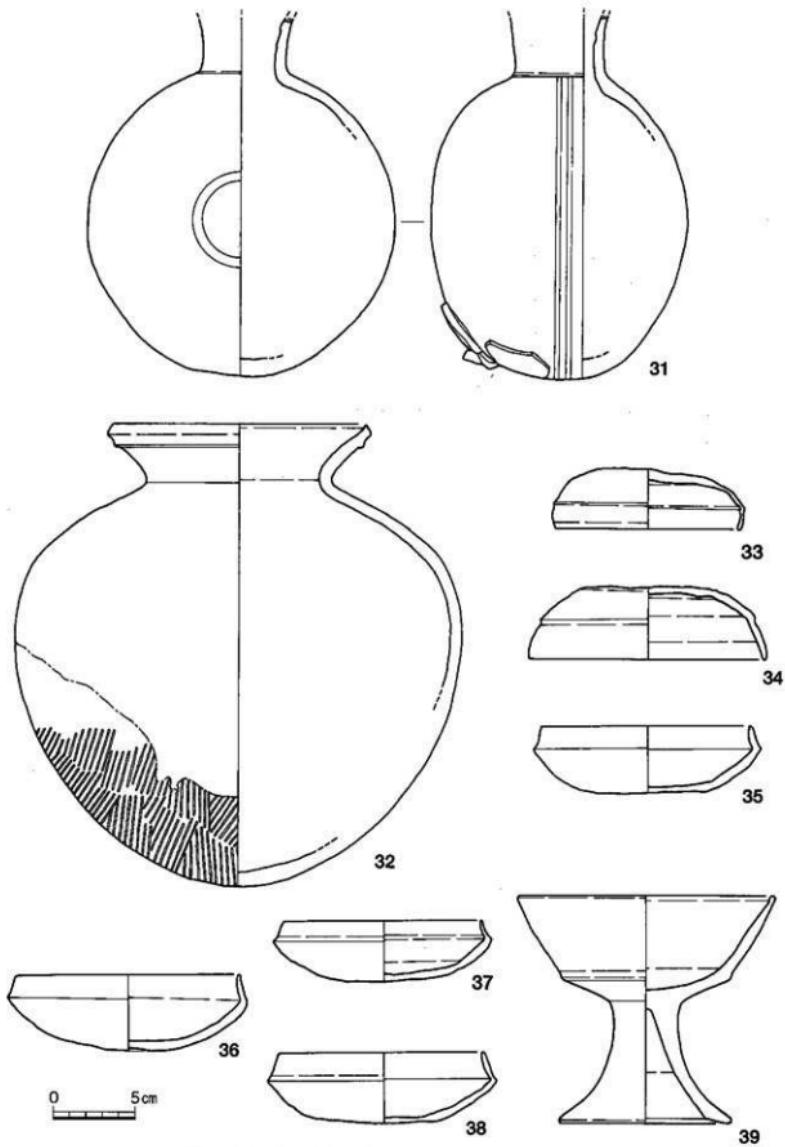
遺物 遺物は須恵器が32点（坏身8点、坏蓋13点、高坏4点、広口壺1点、提瓶2点、横瓶1点、脚付壺1点、長頸壺1点、埴1点）、土師器が16点（模倣坏身4点、模倣坏蓋2点、高坏4点、高坏の脚部1点、埴2点、壺2点、壺の口縁部片1点）、鐵錐1点、鉄器片が1点の合計50点出土している。このうち、実測が可能な須恵器32点（坏蓋13点、坏身8点、高坏4点、広口壺1点、提瓶2点、横瓶1点、脚付壺1点、長頸壺1点、埴1点）、土師器14点（模倣坏身4点、模倣坏蓋2点、高坏4点、埴2点、壺2点）、鐵錐1点を図示した（第40～43図）。



第40図 欠下峠B横穴群1号横穴出土遺物 (1)
1~13 穀恵器 壊蓋、14~21 穀恵器 壊身

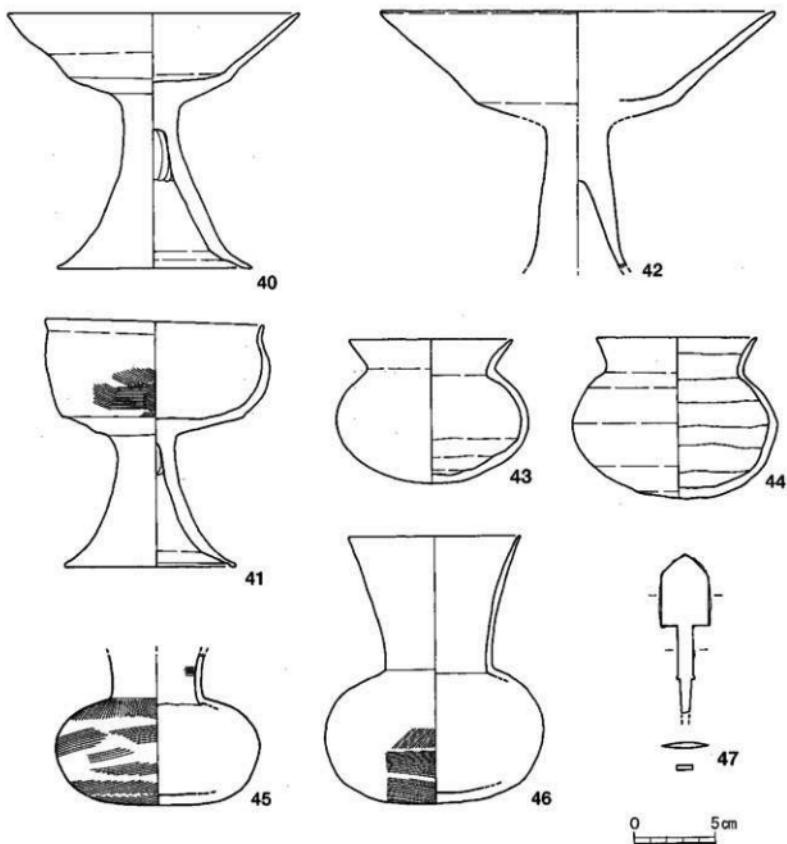


第41図 欠下峠B横穴群1号横穴出土遺物（2）
22～25 須恵器 高坏、26 須恵器 増、27 須恵器 脚付器、
28 須恵器 長頸壺、29・30 須恵器 提縊



第42図 欠下峠B横穴群1号横穴出土遺物(3)

31 須恵器 横瓶、32 須恵器 広口甌、33・34 土師器 模倣壺蓋、
35～38 土師器 模倣壺身、39 土師器 高壺



第43図 欠下峠B横穴群1号横穴出土遺物（4）
40～42 土師器 高坏、43・44 土師器 堆、45・46 土師器 壺、47 鉄鎌

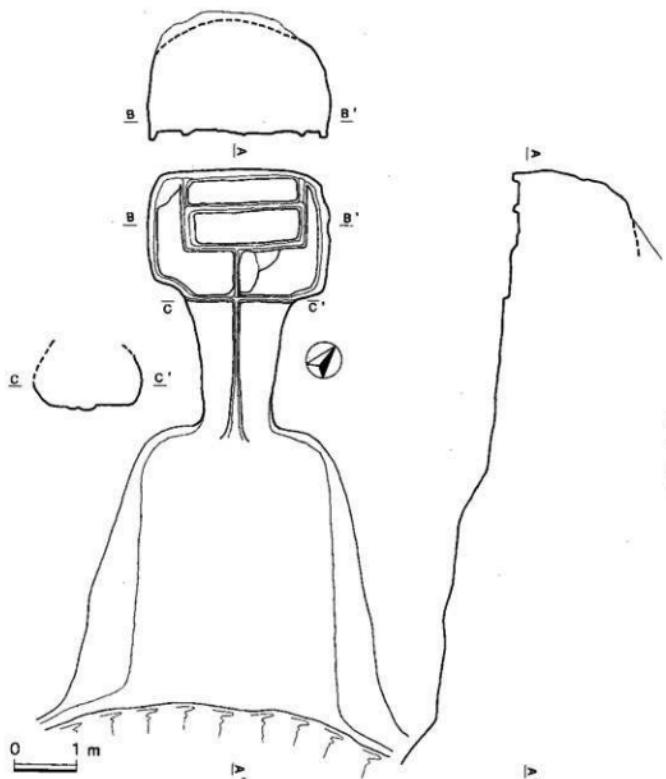
第43図47の鉄鎌は平根系の笠被広鋒平造三角形式で、鎌身部の平面形状は長三角形、関は角関である。残存長は9.95cmある。鎌身部の長は4.50cm、幅は3.00cm、笠被部の長さ3.30cm、幅0.90cm、茎部の残存長は2.15cmある。なお、笠被部の関は輪関である。

2号横穴（第44図）

遺構 本横穴は1号の西隣に位置する。玄室の主軸はN-38°-Eを指し、長さは2.20m、最大幅は2.94m、高さは残存高が1.85mを測る。平面形は横長の隅丸方形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は狭道部に向かって緩やかに傾斜する。

埋葬施設は玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺の壙方が2基残存している。玄室の中央に位置する壙方の内法は幅0.54m、長さ1.81mある。北側に位置する壙方は、中央に在る壙方の北側部分を共有し、奥壁に付く形に配置されている。内法は幅0.40m～0.46m、長さ1.78mある。排水溝は玄室を一周するものと、南側の壙方から狭道部に向かう排水溝が掘られている。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ2.02m、玄門部幅1.76m、羨門部幅1.12mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。玄室に繋がる排水溝は、羨道部の中央を開口部に向かって掘られている。閉塞施設は残存しない。羨道は長さ4.70m、最大幅5.38mある。



第44図 欠下峠B横穴群2号横穴平面・断面図

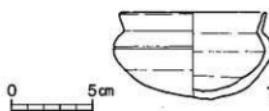
遺物 遺物は須恵器が7点（壙1点、坏身の口縁部片2点、口縁部片3点、体部片1点）、土師器の体部片が19点、大刀片が3点の合計29点出土している。この他に人骨片も出土している。このうち、実測が可能な須恵器の壙1点を図示した。

⑨欠下峠C横穴群（第2図の43）

欠下峠C横穴群は欠下峠B横穴群の南方で、南に伸びる丘陵の東斜面に構築され、1基が調査された。

1号横穴（第46図）

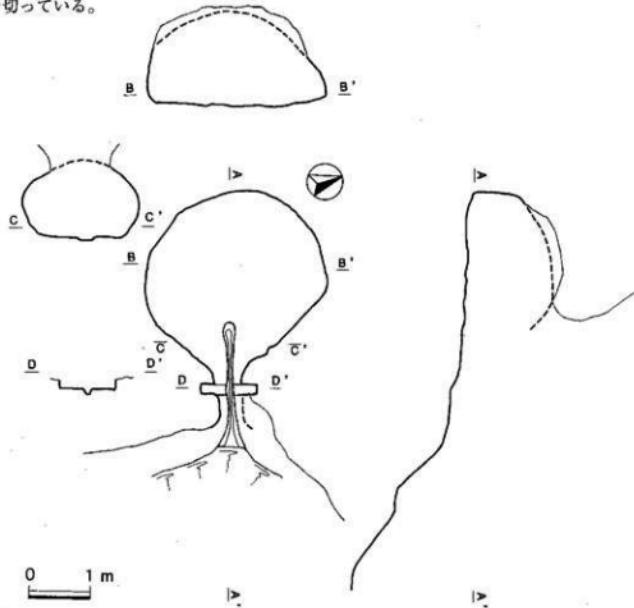
遺構 本横穴は欠下峠B横穴群2号横穴の南に位置する。玄室の主軸はN-72°-Eを指し、長さは

第45図 2号横穴出土遺物
1 索恵器 壙

III 調査結果 2. 各横穴群の構造と遺物

2.83m、最大幅は3.00m、高さは最大高が1.41mを測る。平面形は円形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。埋葬施設は残存していない。玄室の玄門に近い所から主軸に沿って排水溝が掘られている。

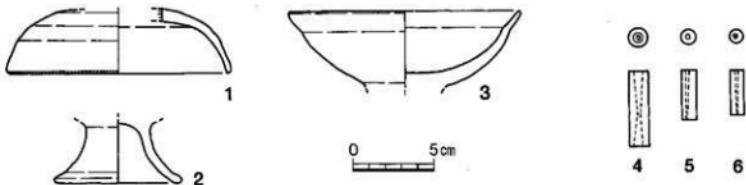
羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ0.42m、玄門部幅0.79m、羨門部幅0.46mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。玄室に繋がる排水溝は、羨道部の中央を突破口部に向かって掘られている。羨門部に主軸に直交する溝、長さ0.92m、幅0.16m、深さ0.13mが掘られている。中央の排水溝はその溝を切っている。



第46図 欠下峠C横穴群1号横穴平面・断面図

遺物 遺物は須恵器が9点（壙蓋片1点、高坏の脚部片1点、壙の口縁部片1点、壙の体部片3点、体部片3点）、土師器が2点（高坏の壙部片1点、体部片1点）、碧玉製の管玉が3点、鉄器片が1点の合計15点出土している。このうち、実測が可能な須恵器2点（壙蓋片1点、高坏の脚部片1点）、土師器の高坏の壙部片1点、管玉3点を図示した。

第52図の4の管玉は長さ4.80cm、外径1.20cm、孔径0.20～0.60cm、5の管玉は長さ2.95cm、外径0.95cm、孔径0.05～0.35cm、6の管玉は長さ2.85cm、外径0.85cm、孔径0.05～0.23cmある。



第47図 欠下峠C横穴群1号横穴出土遺物

1 須恵器 壙蓋片、2 須恵器 高坏の脚部片、3 土師器 高坏の壙部片、4～6 管玉

⑩薬師横穴群（第2図の36）

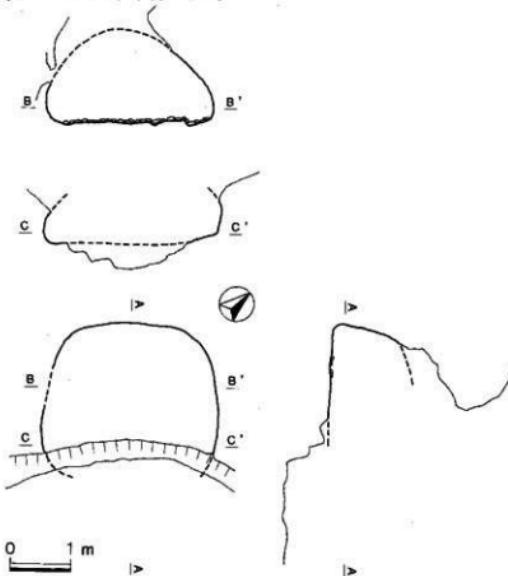
東に伸びる丘陵の南東斜面に構築され、5基からなる。

1号横穴（第48図）

遺構 本横穴は5基の中、最も北東に位置する。玄室の主軸はN-48°-Eを指す。崩壊により玄室の前面が無い。残存する長さは1.96m、最大幅は2.95m、高さは残存高が1.12mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。一部に礫床が残っている。埋葬施設は残存していない。奥壁に近い部分から遺物が出土している。

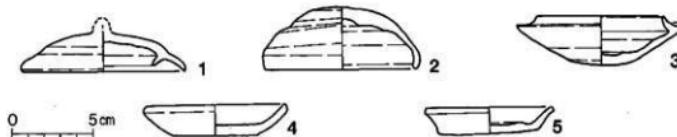
なお、玄室の西側壁に隣の2号に繋がる孔が開いているが、後世のものと思われる。

羨道部の状況等は消失しているため、不明である。



第48図 薬師横穴群1号横穴平面・断面図

遺物 遺物は須恵器が3点（坏身1点、坏蓋2点）、山茶碗の小皿2点の合計5点出土している。このうち、実測が可能な須恵器3点（坏身1点、坏蓋2点）、山茶碗の小皿2点を図示した。



第49図 薬師横穴群1号横穴出土遺物

1・2 須恵器 壊蓋、3 須恵器 壊身、4・5 山茶碗 小皿

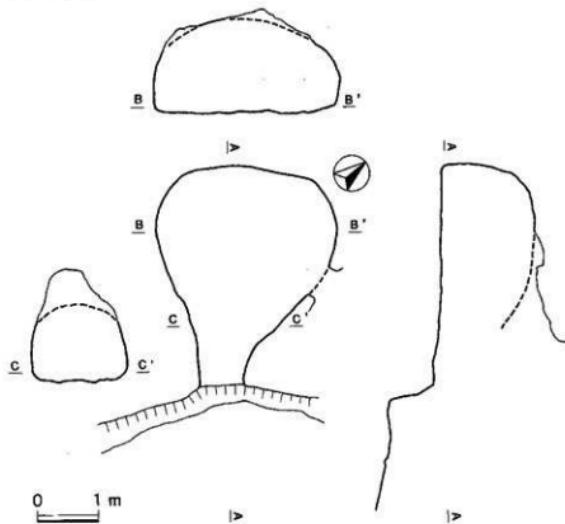
2号横穴（第50図）

遺構 本横穴は1号の南西隣に位置する。玄室の主軸はN-42°-Eを指し、長さは2.85m、最大幅は3.00m、高さは最大高が1.53mを測る。平面形は丸底のラスコ形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。埋葬施設は残存していない。なお、玄室の東側壁に隣の1号に繋がる孔が開いているが、後世のものと思われる。

III 調査結果 2. 各横穴群の構造と遺物

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。残存する長さ0.78m、玄門部幅1.06mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は残存しない。

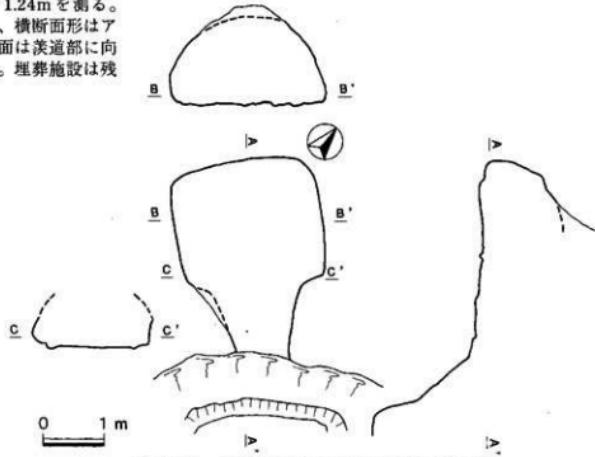
遺物 遺物は出土していない。



第50図 薬師横穴群2号横穴平面・断面図

3号横穴（第51図）

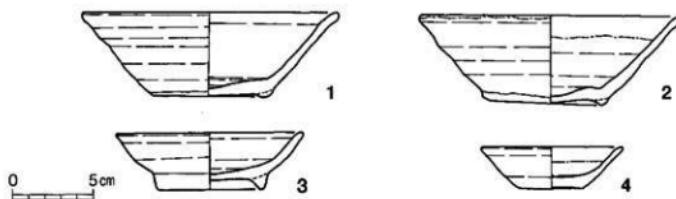
構造 本横穴は2号の南西隣に位置する。玄室の主軸はN-46°Eを指し、長さは2.12m、最大幅は2.46m、高さは残存高が1.24mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、横断面形はアーチ形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。埋葬施設は残存していない。



第51図 薬師横穴群3号横穴平面・断面図

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。残存する長さ1.05m、玄門部幅1.71mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は残存しない。

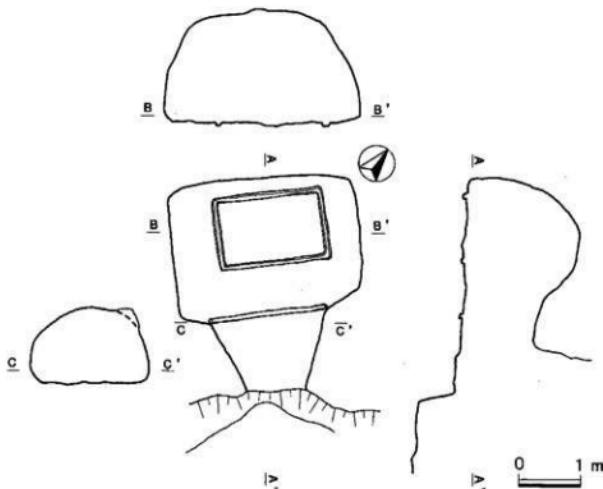
遺物 遺物は山茶碗が5点（碗2点、碗の底部片1点、皿1点、小皿1点）、鉢の口縁部片1点の合計6点出土している。このうち、実測が可能な山茶碗4点（碗2点、皿1点、小皿1点）を図示した。



第52図 薬師横穴群3号横穴出土遺物
1・2 山茶碗 碗、3 山茶碗 皿、4 山茶碗 小皿

4号横穴（第53図）

構造 本横穴は3号の南西隣に位置する。玄室の主軸はN-43°-Eを指し、長さは2.28m、最大幅は3.11m、高さは最大高が1.90mを測る。平面形は横長の隅丸方形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。埋葬施設は玄室の主軸に直交した長錐をもつ組合式石棺の堀方が1基残存している。玄室の中央よりやや奥壁寄りに位置する堀方の内法は幅1.02m、長さ1.68mある。板状の棺材が3枚、堀方の東側に散布していた。玄門部に主軸に直交する溝、長さ1.93m、幅0.07m、深さ0.05mが掘られている。排水溝は無い。

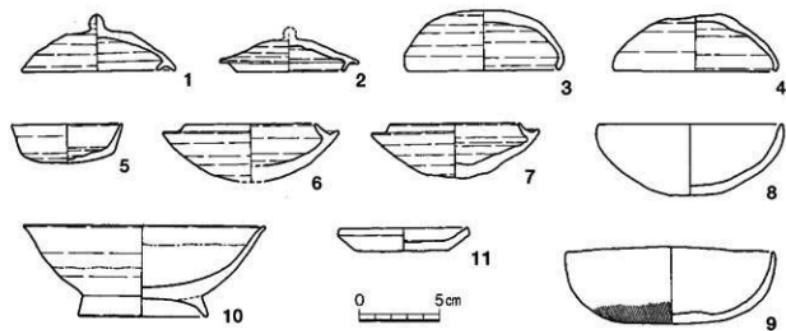


第53図 薬師横穴群4号横穴平面・断面図

遺物 遺物は須恵器が36点（壺身3点、壺蓋5点、平瓶片1点、高壺の壺部片1点、口縁部片7点、体部片19点）、土師器が44点（壺身3点、口縁部片4点、体部片35点、底部片2点）、山茶碗4点（碗2点、

III 調査結果 2. 各横穴群の遺構と遺物

碗の底部片1点、小皿1点)の合計84点出土している。このうち、実測が可能な須恵器7点(坏身3点、坏蓋4点)、土師器の坏身2点、山茶碗2点(碗1点、小皿1点)を図示した。



第54図 薬師横穴群4号横穴出土遺物

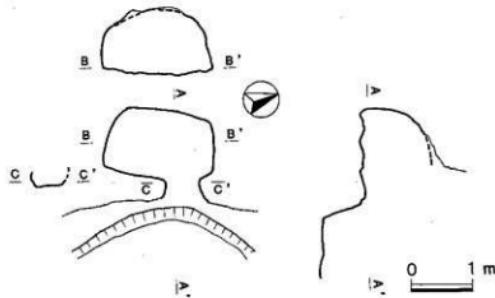
1~4 須恵器 壊蓋、5~7 須恵器 壊身、8・9 土師器 壊身、
10 山茶碗 碗、11 山茶碗 小皿

5号横穴 (第55図)

遺構 本横穴は4号の南西隣で、横穴群の最も南西に位置する。玄室の主軸はN-64°-Eを指し、長さは1.14m、最大幅は1.76m、高さは残存高が1.02mを測る。平面形は横長の隅丸方形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は搅乱を受けており、埋葬施設は残存しない。

羨道部は羨門部に向かって幅を広げている。残存する長さ0.30m、玄門部幅0.57mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は残存しない。

遺物 遺物は出土していない。



第55図 薬師横穴群5号横穴平面・断面図

①勝田ヶ谷横穴群 (第2図の48)

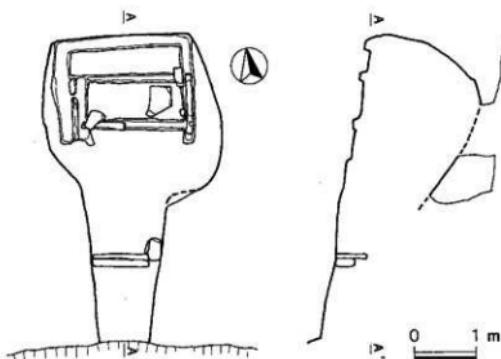
勝田ヶ谷横穴群は大恒A横穴群の北北西で、西に伸びる丘陵の南斜面に位置する。

1号横穴 (第56図)

遺構 玄室の主軸はN-11°-Wを指し、長さは2.50m、最大幅は2.88m、高さは最大高が1.92mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、横断面形はドーム形を呈している。床面は羨道部に向かって緩やかに傾斜する。

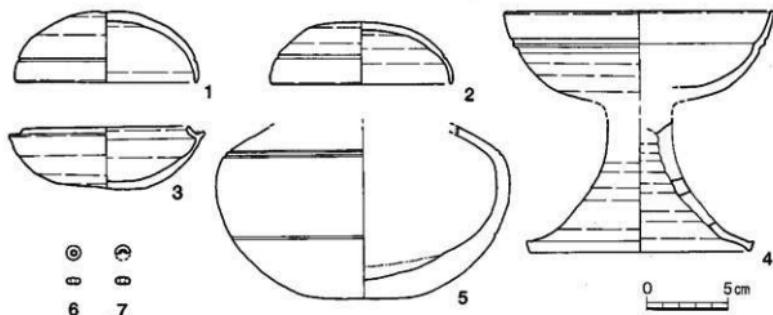
埋葬施設は玄室の主軸に直交した長軸をもつ組合式石棺の堀方が2基残存している。玄室の中央に位置する堀方の内法は幅0.63m、長さ1.72mある。北側に位置する堀方は、中央に在る堀方の北側部分を共有し、奥壁に付く形に配置されている。内法は幅0.42m～0.47m、長さ1.78mある。排水溝は無い。

羨道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ1.28m、玄門部幅1.75m、羨門部幅1.07mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。羨門部に封鎖石を思わせる板状の石(長さ0.92m×高さ0.50m、長さ0.92m×高さ0.32m)が2枚置かれている。幕道は長さ1.22m、最大幅1.07mある。



第56図 勝田ヶ谷横穴群1号横穴平面・断面図

遺物 遺物は須恵器が12点(坏身1点、坏蓋3点、壺の体部片2点、高坏1点、高坏の脚部片1点、高坏の口縁部片3点、頸部片1点)、土師器の坏身片1点、ガラス小玉が2点、鐵器片が1点の合計16点出土している。このうち、実測が可能な須恵器5点(坏身1点、坏蓋2点、高坏1点、壺の体部片1点)、ガラス小玉が2点を図示した。第62図6のガラス小玉は外径0.90cm、厚さ0.40cm、孔径0.20～0.35cm、7のガラス小玉は半分欠損しているが、外径0.95cm、厚さ0.50cm、孔径0.30～0.35cmである。両方とも青竹色を呈している。



第57図 勝田ヶ谷横穴群1号横穴出土遺物

- 1・2 須恵器 壺蓋、3 須恵器 壺身、4 須恵器 高坏、
5 須恵器 壺の体部片、6・7 ガラス小玉

III 調査結果 2. 各横穴群の遺構と遺物

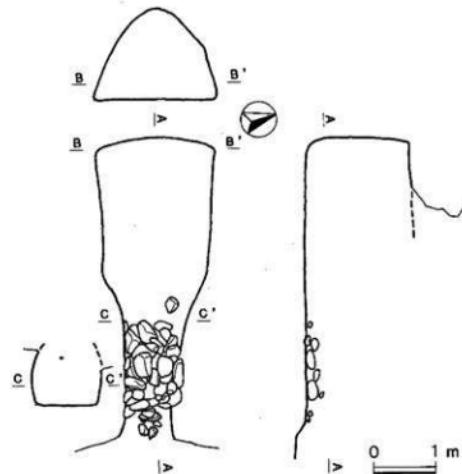
⑩田ヶ谷B横穴群（第1図の53）

田ヶ谷B横穴群は3基からなる。

1号横穴（第58図）

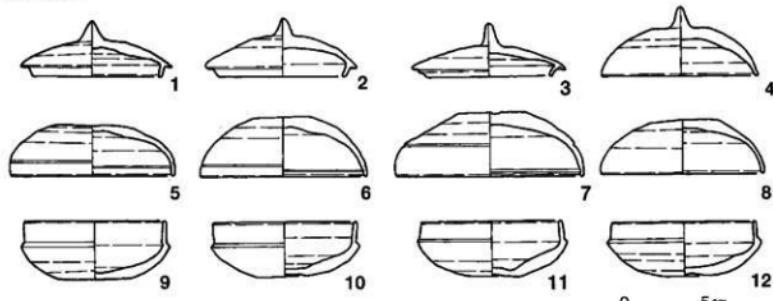
遺構 玄室の主軸はN-47°-Eを指し、長さは2.58m、最大幅は1.92m、高さは最大高が1.50mを測る。平面形は縦長の隅丸方形を呈し、横断面形は尖頭アーチ形を呈している。床面は平らである。埋葬施設は残存しない。遺物は主軸より南側に集中し、頸骨は奥壁の南隅から、大腿骨は奥壁寄りの中央部と北側から出土している。

該道部は羨門部に向かって幅を減じている。長さ2.33m、玄門部幅1.38m、羨門部幅0.89mを測る。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は川原石により封鎖され、下3段が残存している。残存する封頭石の高さは0.49m、範囲は0.98m×1.60mである。

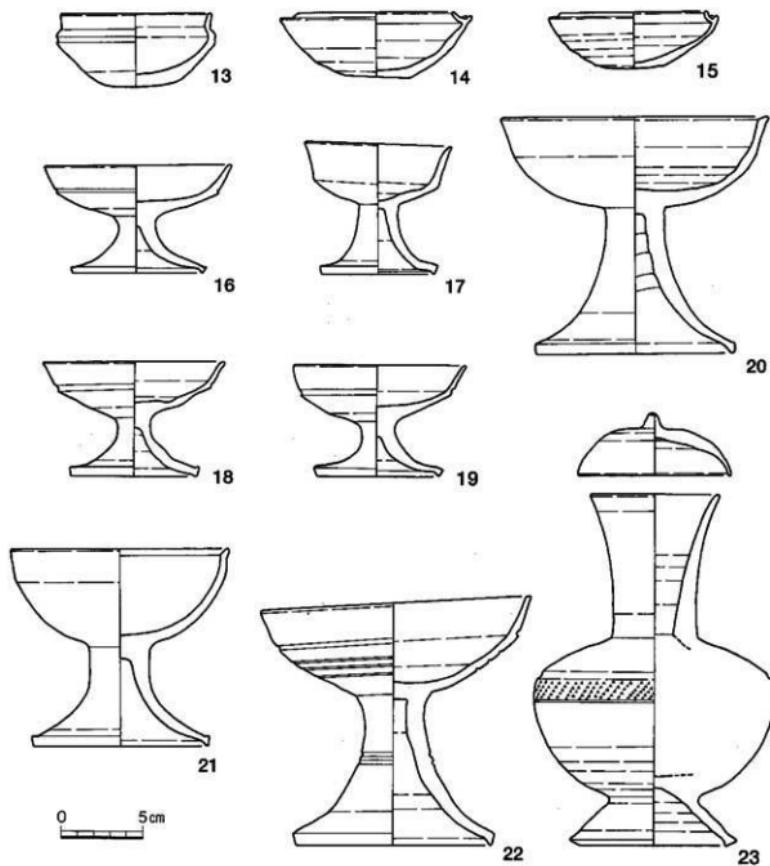


第58図 田ヶ谷B横穴群1号横穴平面・断面図

遺物 遺物は須恵器が25点（坏身8点、坏蓋8点、長頸壺1点、長頸壺の蓋1点、高坏7点）出土している。このうち、実測が可能な須恵器24点（坏身7点、坏蓋8点、長頸壺1点、長頸壺の蓋1点、高坏7点）を図示した。



第59図 田ヶ谷B横穴群1号横穴出土遺物（1）
1～8 須恵器 壊蓋、9～12 須恵器 壊身



第60図 田ヶ谷B横穴群1号横穴出土遺物（2）
13～15 須恵器 壊身、16～22 須恵器 高坏、23 須恵器 長頸壺、
24 須恵器 長頸壺の蓋

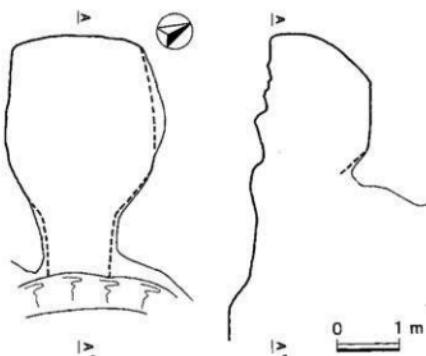
2号横穴（第61図）

遺構 玄室の主軸はN-62°-Eを指し、長さは2.98m、最大幅は2.40m、高さは最大高が1.65mを測る。平面形は継長の隅丸方形を呈している。床面は搅乱され、埋葬施設は残存しない。

狭道部は玄門部に向かって幅を減じている。残存する長さ0.93m、玄門部幅は凡そ1.40mある。高さは天井部が崩落しており不明である。排水溝は無い。閉塞施設は残存していない。

遺物 遺物は出土していない。

III 調査結果 2. 各横穴群の遺構と遺物

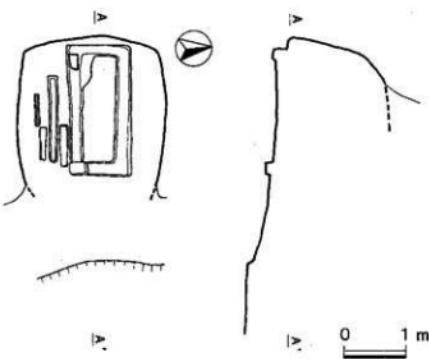


第61図 田ヶ谷B横穴群2号横穴平面・断面図

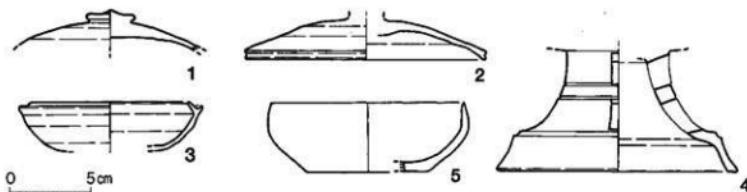
3号横穴 (第62図)

遺構 玄室の主軸はN-85°-Eを指し、残存する長さは2.46m、最大幅は2.40m、高さは残存高が1.74mを測る。平面形は圓角方形を呈している。埋葬施設は玄室の主軸に並行する長軸をもつ組合式石棺の場方が2基残存している。玄室の中央に位置する壙方の内法は幅0.50m~0.58m、長さ1.72mある。南側に位置する壙方は側壁に付く形に配置されている。内法は幅0.44m~0.50m、長さ1.40mある。排水溝は無い。羨道部は崩落しており不明である。また、閉塞施設は残存していない。

遺物 遺物は須恵器が15点（壙身片1点、壙蓋の口縁部片2点、長頸壺の口縁部片1点、高壺の脚部片1点、口縁部片1点、体部片9点）、土師器が70点（盤片1点、口縁部片13点、体部片53点、脚接合部3点）、綠釉陶器が1点の合計86点出土している。このうち、実測が可能な須恵器4点（壙身片1点、壙蓋片2点、高壺の脚部片2点、1点）、土師器の？片1点3点を図示した。



第62図 田ヶ谷B横穴群3号横穴平面・断面図



第63図 田ヶ谷B横穴群3号横穴出土遺物

1・2 須恵器 壙蓋片、3 須恵器壙身片、4 須恵器 高壺の脚部片、5 土師器 盤片

III 調査結果 3. 遺構計測表

3. 毛森山横穴群遺構計測表

() 内の数値は残存部の測定値

備考欄

遺構番号	1号	2号	3号
主軸方向	N-16°-E	N-28°-W	N-12°-W
玄室			
全長	1.95m	2.31m	3.89m
最大幅	1.96m	3.32m	2.32m
平面形	横長の楕円形	△角フラスコ形	丸底フラスコ形
横断面形	アーチ形	K-ム形	アーチ形
垂入点	(0.65m)	1.59m	(1.31m)
後退部			
全長	0.32m	1.53m	2.16m
玄門部幅	0.63m	1.39m	0.94m
奥門部幅	0.60m	0.75m	1.02m
壁面			
全長	1.68m	3.25m	3.51m
最大幅	1.80m	1.63m	2.08m
閉塞施設			
遺存状況	残存しない	残存しない	下3段が現存
封緘石の高さ			0.3m
封緘石の範囲			0.83×1.84m
襖み石の形態			3段
その他の施設			
玄室全長/最大幅	94%	70%	168%

大根山横穴群

遺構番号	1号	2号	3号	4号	5号
主軸方向	N-6°-W	N-7°-E	N-12°-E	N-22°-E	N-35°-E
玄室					
全長	3.21m	2.44m	3.68m	3.80m	3.73m
最大幅	3.40m	2.75m	2.90m	3.76m	3.92m
平面形	圓丸方形	円形	板状圓内形	円形	円形片袖
横断面形	K-ム形	K-ム形	アーチ形	△-ム形	K-ム形
最大高	1.92m	(1.72m)	1.90m	2.00m	2.19m
後退部					
全長	1.96m	1.77m	(1.73m)	(1.60m)	2.30m
玄門部幅	1.45m	1.18m	1.48m	1.38m	1.65m
奥門部幅	0.78m	0.94m			0.86m
壁面					
全長					
最大幅					
閉塞施設					
遺存状況	下4段残存	下2段残存	残存しない	残存しない	封緘石2個残存
封緘石の高さ	0.63m	0.25m			
封緘石の範囲	1.14×1.32m	1.63×0.88m			
襖み石の形態	4段	2段			
その他の施設	組合式石棺3基	組合式石棺	組合式石棺	組合式石棺2基	組合式石棺2基
玄室全長/最大幅	94%	89%	106%	101%	95%

大根山横穴群

遺構番号	1号
主軸方向	N-29°-W
玄室	
全長	4.45m
最大幅	3.48m
平面形	丸底フラスコ形
横断面形	アーチ形
垂入点	(1.60m)
後退部	
全長	2.69m
玄門部幅	0.95m
奥門部幅	1.28m
壁面	
全長	(1.60m)
最大幅	1.70m
閉塞施設	
遺存状況	封緘石5個残存
封緘石の高さ	
封緘石の範囲	
襖み石の形態	
その他の施設	
玄室全長/最大幅	128%

III 調査結果 3. 道構計測表

一の谷C種穴群

道構番号	1号	2号	3号	4号	5号
上輪方向	N-39°-E	N-37°-E	N-31°-E	N-7°-E	N-35°-W
玄室					
全長	1.11m	(2.50m)	4.19m	1.18m	(1.42m)
最大幅	2.25m	3.05m	3.45m	1.81m	2.58m
平面形	楕円形	楕丸形	丸底ラスコ形	楕丸形	楕丸形
横断面形	アーチ形	アーチ形	ドーム形	尖端アーチ形	ドーム形
最大高	(0.90m)	(1.98m)	2.12m	1.22m	(1.49m)
側道部					
全長	1.10m		1.42m	1.40m	
玄門部幅	1.42m		1.45m	1.41m	
奥門部幅	0.62m		1.10m	1.12m	
側道					
全長	(0.90m)		1.44m		
最大幅	(0.75m)		1.10m		
附壁施設					
遺存状況	残存しない	残存しない	残存しない	残存しない	残存しない
封緘石の高さ					
封緘石の範囲					
積み石の形態					
その他の施設		組合式石棺	組合式石棺		
玄室全長／最大幅	63%	68%	100%	66%	52%

一の谷C種穴群

道構番号	1号	2号	3号	4号
上輪方向	N-17°-E	N-44°-E	N-45°-E	N-55°-E
玄室				
全長	3.22m	1.05m	2.54m	1.86m
最大幅	3.15m	1.09m	2.53m	1.25m
平面形	楕丸形	楕長椭円形	楕丸形	楕長椭丸形
横断面形	ドーム形	アーチ形	アーチ形	尖端アーチ形
最大高	1.90m	0.90m	1.98m	1.12m
側道部				
全長	2.17m	1.38m	(0.86m)	(0.78m)
玄門部幅	1.72m	1.03m	1.25m	0.82m
奥門部幅	1.28m	1.05m	(1.04m)	
側道				
全長				
最大幅				
附壁施設				
遺存状況	下段残存	残存しない	残存しない	残存しない
封緘石の高さ	0.19m			
封緘石の範囲	1.03×1.52m			
積み石の形態	1段			
その他の施設	組合式石棺	壁床	組合式石棺	壁床
玄室全長／最大幅	102%	63%	100%	149%

一の谷D種穴群

道構番号	1号	2号	3号	4号
上輪方向	N 7°-E	N-45°-E	N-43°-E	N-45°-E
玄室				
全長	1.87m	0.92m	0.96m	1.32m
最大幅	2.12m	1.30m	1.42m	1.48m
平面形	方形	楕長椭円形	楕長椭円形	円形
横断面形	アーチ形	アーチ形	アーチ形	アーチ形
最大高	(1.50m)	0.90m	0.94m	1.20m
側道部				
全長	1.13m	1.26m	1.20m	1.23m
玄門部幅	1.29m	0.68m	1.08m	0.89m
奥門部幅	0.84m	0.66m	0.74m	0.65m
側道				
全長	3.10m	3.20m	2.38m	
最大幅	2.90m	1.88m	2.22m	
附壁施設				
遺存状況	4段残存	残存しない	残存しない	残存しない
封緘石の高さ	0.64m			
封緘石の範囲	0.98×1.12m			
積み石の形態	4段			
その他の施設	組合式石棺			
玄室全長／最大幅	89%	71%	60%	89%

III 調査結果 3. 道標計測表

久下神A横穴群

道標番号	1号
主軸方向	N - 48° - W
玄室	
全長	2.00m
最大幅	2.88m
平面形	横長楕円形
横断面形	アーチ形
最大高	1.66m
後退部	
全長	(0.94m)
玄門部幅	1.18m
奥門部幅	
作造	
全長	
最大幅	
開塞施設	
遺存状況	残存しない
封納石の高さ	
封納石の範囲	
積み石の形態	
その他の施設	
玄室全長／最大幅	75%

久下神B横穴群

道標番号	1号	2号
主軸方向	N - 31° - W	N - 36° - E
玄室		
全長	2.61m	2.20m
最大幅	4.25m	2.94m
平面形	横長楕円形	横長楕円方形
横断面形	H-ム形	H-ム形
最大高	(2.44m)	(1.85m)
後退部		
全長	1.64m	2.02m
玄門部幅	1.25m	1.76m
奥門部幅	1.03m	1.12m
作造		
全長	3.08m	4.72m
最大幅	1.96m	5.38m
開塞施設		
遺存状況	下1段残存	残存しない
封納石の高さ	0.20m	
封納石の範囲	1.40×1.38m	
積み石の形態	1段	
その他の施設	組合式石棺	無合式石棺 2
玄室全長／最大幅	61%	75%

久下神C横穴群

道標番号	1号
主軸方向	N - 72° - E
玄室	
全長	2.83m
最大幅	3.00m
平面形	円形
横断面形	アーチ形
最大高	1.41m
後退部	
全長	0.42m
玄門部幅	0.72m
奥門部幅	0.46m
作造	
全長	(0.61m)
最大幅	(1.09m)
開塞施設	
遺存状況	残存しない
封納石の高さ	
封納石の範囲	
積み石の形態	
その他の施設	
玄室全長／最大幅	91%

III 調査結果 3. 構造計測表

薺野ヶ谷横穴群

構造部分	1号	2号	3号	4号	5号
主軸方向	N-15° - E	N-42° - E	N-46° - E	N-43° - E	N-64° - E
玄室					
全長	(1.90m)	2.85m	2.12m	2.28m	1.11m
最大幅	2.95m	3.00m	2.40m	3.11m	1.78m
平面形	圓丸方形	丸底ラスコ形	隅丸方形	横長圓丸方形	橢長圓丸方形
横断面形	アーチ形	ドーム形	アーチ形	ドーム形	ドーム形
最高高	(1.12m)	1.06m	(1.24m)	1.90m	(1.02m)
側道部					
全長		(0.78m)	(1.05m)	(1.23m)	(0.30m)
玄門部幅		1.78m	1.71m	1.90m	0.57m
側門部幅					
移道					
全長					
急人幅					
閉塞施設					
遺存状況	残存しない	残存しない	残存しない	残存しない	残存しない
封緘石の高さ					
封緘石の範囲					
積み石の形態					
その他の施設	壁床			組合式石棺	
玄室全長／最大幅	60%	95%	86%	73%	65%

勝田ヶ谷横穴群

構造番号	1号
主軸方向	N-11° - W
玄室	
全長	2.50m
最大幅	2.88m
平面形	圓丸方形
横断面形	ドーム形
最高高	1.92m
側道部	
全長	1.28m
玄門部幅	1.75m
側門部幅	1.07m
移道	
全長	(1.22m)
最大幅	(1.07m)
閉塞施設	
遺存状況	板状封緘石 2枚
封緘石の高さ	0.50m
封緘石の範囲	
積み石の形態	
その他の施設	組合式石棺 2基
玄室全長／最大幅	87%

田ヶ谷横穴群

構造番号	1号	2号	3号
主軸方向	N-74° - E	N-62° - E	N-53° - E
玄室			
全長	2.58m	2.98m	(2.46m)
最大幅	1.92m	2.95m	2.40m
平面形	横長圓丸方形	縦長圓丸方形	圓丸方形
横断面形	尖頭アーチ形		
最高高	1.60m	1.64m	(1.74m)
側道部			
全長	2.33m	(0.93m)	
玄門部幅	1.38m	(1.40m)	
側門部幅	0.89m		
移道			
全長			
急人幅			
閉塞施設			
遺存状況	下3段残存	残存しない	残存しない
封緘石の高さ	0.45m		
封緘石の範囲	0.98×1.60m		
積み石の形態	3段		
その他の施設			組合式石棺
玄室全長／最大幅	134%	124%	163%

III 調査結果 4. 山土土器調査表

4. 毛森山横穴群出土土器観察表

回数 番号	遺物名 遺物量	種別・器種	性状	形態	調査	組成	色調	施七	備考
第5回 1	閉鎖横穴群 2号横穴 1-1-10	灰塵型 灰身	口徑 詫高 最大径 (11.75)	底部はほぼ平ら。体部 は内側し、口縁部との 間に受けを持つ。口縁 部は内側する	外面：底部はヘラ削り 体部へ口縁部はナゲ彫 内面：全体ナゲ彫調査	良好	灰N 5 5/6	黒色粒子。1 mm次の砂粒子を含む	1/4枚存
第7回 1	閉鎖横穴群 3号横穴 2-2-2	上部器 壺	口徑 詫高 最大径 此後 15.66 16.20 16.20 9.00	半丸から球錐形に開き ながら立ち上がり。体 部上方に最大径を持 つ。開口部は「く」の字 形で、口縁部は内側に 内凹弧形に開く。底部 には内側がある。	外面：口縁部は横ナ ギ。体部へ近隣には施位 と側壁の削除目跡。底 部に木炭の付着。内面 は内側に開く。底部 は側壁の削除目跡	良	明赤褐色5Y R 5/6	普通。1~3mm大 きな砂粒子を多く含む	ほぼ完形
第9回 1	大括入横穴群 1号横穴 3-9-1	灰塵器 灰壺	口徑 詫高 最大径 (10.20)	体部は直線的に開いて 下がる。口縁部は直角 に下がる	外面：体部へ口縁部は 横ナギ。口縁部との底 部へ垂直の施位。 内面：横ナギ。アラブ 字が見られる。口縁部に 「×」の施位を施す	良好	灰7.5Y T/1	黒色粒子を含む	口縫部から体部 2/3は欠損
第9回 2	大括入横穴群 1号横穴 3-11-1	須毛器 灰壺	口徑 詫高 最大径 (10.90) 3.40	体部は内側しながら下 がり。口縁部も内側する	外面：灰身部はへた切 り。体部へ口縁部は横 ナギ。体部上方は器身 との境に「×」の施位を施す 内面：横ナギ	良好	灰N 6	黒色粒子を直 角に含む	天井部欠損
第9回 3	大括入横穴群 1号横穴 8-9-2	土師器 壺	口徑 詫高 最大径 (12.00)	体部は内側し、口縁部 は直立する	外面とも磨耗のため 調査は不明瞭	良	橙2.5Y 6/6	普通。黒色粒子、 砂粒子を多く含む	1/10枚存
大括入横穴群 1号横穴 8-7	土師器 壺?	口徑 詫高 最大径 (11.40)	体部は内側し、口縁部 は直立的外反する	外面とも磨耗のため 調査は不明瞭	良	黄灰2.5Y 6/1	普通。黒色粒子を 含む	1/10枚存	
第11回 1	大括入横穴群 2号横穴 4-8	灰塵器 灰壺	口徑 詫高 最大径 (8.35) 3.95	平らな突起部からゆる やかに内側しながら下 がり。口縁部は直角に 内側する	外面：灰身部はへた切 り。体部へ口縁部は横 ナギ。体部と口縁部に 「×」の施位を施す 内面：横ナギ	良好	灰N 6	黒色粒子を含む	口縫部2/欠損 4-11と接合
第11回 2	大括入横穴群 2号横穴 4-4	須毛器 灰壺	口徑 詫高 最大径 (10.65) 4.40 -	円筒状の突起部から緩 やかに内側しながら下 がり。口縁部は直角に 内側する	外面：灰身部はへた切 り。体部へ口縁部は横 ナギ。体部と口縁部に 「×」の施位を施す 内面：横ナギ	良好	灰N 5 灰N 6	黒色粒子を含む	人井頭表面に 「×」の施位
第11回 3	大括入横穴群 2号横穴 4-1-1	灰塵器 灰壺	口徑 詫高 最大径 (8.70) 3.80 (11.45)	丸柱ある底盤から緩 やかに内側しながら下 がり。体部と口縁部に 「×」の施位を受け持 つ。口縁部は内側する	外面：灰身部はへた切 り。体部へ口縁部は横 ナギ。自然端がかかる。 内面：横ナギ	良好	灰N 6	黒色粒子を含む	
第11回 4	大括入横穴群 2号横穴 4-9	灰塵器 灰壺	口徑 詫高 最大径 (10.60) (4.10) (11.00)	平底から内側しながら 立ち上がり。口縁部と 側壁との間に受けを持つ。 口縁部は内側する	外面：底部はへた切 り。体部へ口縁部は横 ナギ。内面：横ナギ	良好	灰N 7	黒色粒子を含む	1/2枚存。 1.0と接合
第11回 5	大括入横穴群 2号横穴 4-12	灰塵器 灰壺	口徑 詫高 最大径 (9.50) 3.95 11.65	丸底から立ち上がり内 側しながら立ち上がる。 口縁部と側壁との間に 受けを持つ。口縁部は内 側する	外面：底部はへた切 り。体部へ口縁部は横 ナギ。内面：横ナギ	良好	灰N 6	黒色粒子を含む	光形
第11回 6	大括入横穴群 2号横穴 4-16-2	土師器 壺	口徑 詫高 最大径 (10.00) 3.60 -	丸底から立ち上がるや かに内側しながら立ち上 がる。口縁部は直線的に 開く	外面とも磨耗のため 調査は不明瞭。外反全 体に施設が見られる	良	橙2.5Y R 6/8	黒。黒色粒子を含む	1/1枚存
第11回 7	大括入横穴群 2号横穴 4-16-18	上部器 壺	口徑 詫高 最大径 9.30 3.45	丸底から立ち上がるや かに内側しながら立ち上 がる。口縁部は直線的に 開く	外面とも磨耗のため 調査は不明瞭。外反全 体に施設が見られる	良	橙2.5Y R 6/8	黒	口縫部が細かく欠 損
第11回 8	大括入横穴群 2号横穴 4-6	七輪器 壺	口徑 詫高 最大径 12.30 -	体部下平に屈曲し、直 線的に大きくなっている	外面とも磨耗のため 調査は不明瞭	良	橙2.5Y T/8	黒。砂粒子を含む	脚火孔。片端1 3火孔 4-14と接合

III 調査結果 4. 出土土器観察表

登録番号	遺物名	種別・器種	基準	形態	調査	測定	色調	胎土	備考	
	大加八横穴群 2号横穴 4-1-2	裏山器 壁面	口径 器高 最大径	19.95 (19.95)	体部は内窓しながら下がり、口縁部は内窓する	外面：体部へ斜面付 ナダ。体部と口縁部との間に一条の凸溝を施す 内面：横ナダ	良好	底N 5	黒	口縁部1/4残存
	大加八横穴群 2号横穴 4-2	上部器 壁面	口径 器高 最大径	19.00 (19.00)	体部は内窓しながら立ち上がり、口縁部は内窓する	外面：天井部はヘラ削り ナダ。体部と口縁部との間に一条の凸溝を施す 内面：横ナダ	良	底2.5Y6/8	黒、褐色粒子を僅かに含む	口縁部1/4残存 4-5と接合
	大加八横穴群 2号横穴 4-3	裏山器 壁面	口径 器高 最大径	9.90 (9.95)	体部は内窓しながら立ち上がり、口縁部は僅かに内窓する	外面：天井部はヘラ削り ナダ。体部と口縁部との間に一条の凸溝を施す 内面：横ナダ	良好	底N 6	黒	天井部欠損 4-7と接合
	大加八横穴群 2号横穴 4-13	裏山器 横断面 底面	口径 器高 最大径	9.35 (9.35)	腹部は「く」の字状に内窓し、開きながら立ち上がり、口縁部は外側を斜めに曲面している	外面：横ナダ。口縁部に一束の凸溝を施す 内面：横ナダ	良好	底N 5	黒、黑色粒子を含む	口縁部の1/5残存
	大加八横穴群 2号横穴 4-16-1	裏山器 壁面	口径 器高 最大径	5.70 (5.70)	平底から腰やかに内窓しながら立ち上がる	外面：底部はヘラ削り ナダ。口縁部は「ノ」字状に内窓される。底部中央に自然軸がある	良好	底4.5Y7/1	黒、黑色粒子を含む	
第13回 1	大加八横穴群 2号横穴 5-5-1	土師器 壁面	口径 器高 最大径	11.15 4.00	丸底から内窓しながら立ち上がる	外面：単純のため開窓は不規則 内面：横ナダ	良い	底2.5Y K7/4	黒、青母を含む	1/3残存
	大加八横穴群 2号横穴 5-8-2	土師器 壁面	口径 器高 最大径	10.00 (10.00)	ゆるやかに内窓しながら立ち上がり、口縁部は斜面で腰を寄せている	外面：体部に斜面底。 口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良	底2.5Y K7/4	黒、青母を含む	口縁部1/4残存
	大加八横穴群 3号横穴 5-13	土師器 壁面	口径 器高 最大径	11.30 (11.30)	体部はゆるやかに内窓しながら立ち上がり、口縁部は斜面で腰を寄せている	外面：口縫部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	底4.5Y K6/4	黒、青母、黑色粒子を含む	口縁部1/4残存
第15回 1	大加八横穴群 4号横穴 6-2	裏山器 横断面	口径 器高 最大径	8.90 (8.90)	胃部は外反気泡に内傾する。口縁部は垂直にならっ	外面：横ナダ。底部に自然軸がある 内面：横ナダ	良好	底2.5Y 6/1	黒、砂粒子を含む	口縁部1/4残存
	大加八横穴群 5号横穴 7-2	裏山器 横断面	口径 器高 最大径	9.20 15.70 16.10	丸底から内窓しながら立ち上がり、最大径は体部と半径にある。肩部には規則的に内傾し、腹部は「く」の字状に内窓する。口縁部は斜面で腰を寄せている	外面：底部はヘラ削り ナダ。口縫部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	底N 6	黒、黑色粒子を含む	ほぼ光沢
第21回 1	大加八横穴群 2号横穴前庭 7-2	裏山器 横断面	口径 器高 最大径	7.00 3.85 7.90	平底から内窓しながら立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する	外面：底部はヘラ削り ナダ。口縫部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	底2.5Y 6/1	黒、黑色粒子を含む	1/2残存
第23回 1	一の谷八横穴群 3号横穴 10-9	裏山器 壁面	口径 器高 最大径	12.35 3.40	丸底から大きく突いて立ち上がり、口縁部はさらに外反する	外面：底部はヘラ削り ナダ。口縫部は横ナダ 内面：横ナダ。口縁部の一部に自然軸がある	良好	底2.5Y 6/1	黒、白色粒子を多く含む	2/3残存 10-18と接合
第23回 2	一の谷八横穴群 3号横穴 10-10-2	裏山器 壁面	口径 器高 最大径	15.00 (12.6)	外側は半球状を呈す。斜面底部はさらに内傾している。体部中位に、一条の凸溝を施している。腹部は「ひ」の字状に開き、口縁部を斜めに面取りしている	外面：横ナダ。脚部に自然軸がある 内面：横ナダ。腹部の見込みに自然軸がある	良好	底2.5Y6/1	黒	脚部1/2残存 脚部1/3残存
第23回 3	一の谷八横穴群 3号横穴 10-10-1	土師器 壁	口径 器高 最大径	15.70 (16.40)	体部中位よりやや上方に斜面底部をもつ。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は斜めに開く	外面：摩耗のため開窓は不規則 内面：口縫部は横ナダ 底部は斜めのナダ 内面下は横、底部のナダ	良	底2.5Y K7/4	普通、1~3mmの大形砂粒子を含む	1/5残存

III 調査結果 4. 出土上器觀察表

回収番号	遺物名 遺物番号	種別・部類	法量	形態	剖面	構成	色調	胎土	備考
	一の谷A横穴群 2号横穴 10-1-3	灰窓器 罐	口径 最大径 高さ (14.10)	平底から内側しながら立ち上がり。体部上位に最大径があり、その下位に径1.2cmの孔を空ける	外面：底部はヘラ削り 体部下位にはヘラ削りの痕跡ナメ。体部上位へ 後傾ナメ。体部上手へ 前傾ナメ	良好	灰H 7	黒。白色粒子を多く含む	口縁部欠損
	一の谷A横穴群 3号横穴 10-1-19	灰窓器 直	口径 最高 底高 (12.00)	底部から直線的に開き。口縁部には新歯が三角形で並ぶ	外面：口部がかかる 内面：横ナメ	良好	灰黃2.5Y H/2	黒。白色粒子を多く含む	2/7残存
第21回 1	一の谷C横穴群 1号横穴 13-1	灰窓器 人面	口徑 最高 底高 壁高 5.50	円錐形の火井部から内側立ち上がり、「人」字形に並んで2つの耳孔が直線的に開く	外面：体部は切合せ部 あり。口部がかかる。 内面：口部は横ナメ。 耳孔部には「人」字形の溝を放す。	良好	灰黃2.5Y H/1	黒。砂粒子を多く含む	口縁部3/4残存
第22回 1	一の谷C横穴群 1号横穴 14-2	土師器 罐	口径 最高 底高 壁高 16.15 2.85 10.50	平底から外反しながら立ち上がり、口縁部も外反する	外面：底部は方角か らヘラ削り。体部へロ 繩部は横ナメ。底部へロ 繩部は横ナメ	良	赤10R 5/6	黒。當母。白色粒 子。白色粒子を含む	完形
第23回 2	一の谷C横穴群 2号横穴 14-3	土師器 罐	口径 最高 底高 壁高 (15.50) 3.15 (11.90)	平底から外反しながら立ち上がり、「人」字形の火井部も外反する	外面：底部は一方角か らヘラ削り。体部へロ 繩部は横ナメ。底部へロ 繩部とも丹塗り	良	赤10R 5/6	黒。當母。白色粒 子。白色粒子を含む	1/4残存
第25回 3	一の谷C横穴群 2号横穴 14-4	土師器 直	口径 最高 底高 壁高 15.60 2.95 10.80	平底から外反しながら立ち上がり、「人」字形の火井部も外反する	外面：底部は一方角か らヘラ削り。体部へロ 繩部は横ナメ。底部へロ 繩部とも丹塗り	良	赤10R 5/6	黒。當母。白色粒 子。白色粒子を含む	完形
第31回 1	一の谷C横穴群 3号横穴 15-1	灰窓器 壺蓋	口径 最高 底高 壁高 16.75 4.25 3.35 2.55	手振り状の大井部から人きり開きながら下がる。口縁部は屈曲して開いている	外面：横ナメ 内面：横ナメ	不良 生焼け	灰N 4	青赤	
第33回 2	一の谷C横穴群 3号横穴 15-16	土師器 小型壺	口径 最高 底高 壁高 7.20 7.50 8.20	丸底から内側して立ち上がる。口縁部は外反する	外面：ナメ	良好	橙7.5Y R 7/6	黒。當母。黑色粒 子を含む。	注江完形
第34回 1	一の谷D横穴群 1号横穴 15-2	灰窓器 高坪	口径 最高 底高 壁高 最大径 15.80 4.45 是大径	底部は丸底。肩部は大きく述べ	外面：横ナメ 内面：ナメ。坪部に白 色釉がかかる	良好	灰白2.5Y H/1	黒。白色粒子を含む	接合部のみ
第40回 1	矢下神B横穴群 1号横穴 17-1-30	灰窓器 壺蓋	口径 最高 底高 壁高 15.80 4.45	ほぼ平らな火井部から内側しながら下がる	外面：火井部は火窓型 体部へロ繩部は横ナメ 内面：火井部は屈曲して 開いている	良好	灰N 6	黒。白色。黑色 粒子を含む	完形
第40回 2	矢下神B横穴群 1号横穴 17-1-31	灰窓器 壺蓋	口径 最高 底高 壁高 13.60 4.05	丸底のある火井部から内側しながら下がる。口縁部はほぼ直進に下がる	外面：火井部はヘラ削 りの後、横ナメ。底部へロ 繩部は横ナメ	良好	灰N 6	黒。黑色粒子を含 む	口縁部1/2欠損
第40回 3	矢下神B横穴群 1号横穴 17-1-32	灰窓器 壺蓋	口径 最高 底高 壁高 13.85 4.00	半らな火井部から直線的に大きく開き、口縁部は今や内側する	外面：火井部へ体部 に自然釉がかかる。体部 へロ繩部は横ナメ	良好	灰N 6	黒。白色粒子を含 む	口縁部1/3欠損
第40回 4	矢下神B横穴群 1号横穴 17-1-33	灰窓器 壺蓋	口径 最高 底高 壁高 13.00 4.50	半らな火井部から内側しながら下がり、体部中位で内側する	外面：火井部はヘラ削 り。体部へロ繩部は横 ナメ。底部へロ繩部と 其の腹に一束の試掘を施す	良好	灰N 6	黒。白色粒子を含 む	口縁部1/2欠損 第40回18(17-1-49) と対
第40回 5	矢下神B横穴群 1号横穴 17-1-34	灰窓器 壺蓋	口径 最高 底高 壁高 13.50 3.60	斜めの火井部から内側しながら下がる。口縁部はほぼ直進がある	外面：火井部はヘラ削 り。体部へロ繩部は横 ナメ。底部へロ繩部と 其の腹に一束の試掘を施す	良好	灰N 4. 灰N 6	黒。白色粒子を多 く含む	第40回18(17-1-49) と対
第40回 6	矢下神B横穴群 1号横穴 17-1-34	須山器 壺蓋	口径 最高 底高 壁高 13.10 3.65	斜めの火井部から内側しながら下がる。口縁部はほぼ直進がある	外面：火井部はヘラ削 り。体部へロ繩部は横 ナメ。底部へロ繩部と 其の腹に一束の試掘を施す	良好	灰N 6	黒。白色粒子を含 む	口縁部1/2欠損

III 調査結果 4. 出土土器観察表

図版 番号	遺構名 遺物番号	種別・鉢形	法差	形態	調査	造成	色調	胎土	備考	
第40回 7	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-36	須山形 壁面	口徑 露高 最大径	13.10 3.85	ほぼ平らな天井部から内側 ながら立ち上がり、 口縁部は密度に下がる	外面：天井部はヘラ削り り、体部～口縁部は横ナダ 内面：横ナダ。ノタ目 鉛起	良好	灰N6	黒、墨色・白色粒子を含む	第40回16(17-1-48) と対
第40回 8	次下縁B横穴群 2号横穴 17-1-37	須恵器 壁面	口徑 露高 最大径	14.12 4.65	平らな天井部から内側 しながら立ち上がり、 口縁部は密度に下がる	外面：天井部はヘラ削り り、体部～口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰G5Y8/1	黒、墨色・白色粒子を含む	第40回14(17-1-51) と対
第40回 9	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-35	須恵器 壁面	口徑 露高 最大径	13.00 4.30 13.60	丸味のある天井部から内側 的に大きく開き、 口縁部との境には内側 に凹部がある	外面：天井部はヘラ削り り、体部～口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰N5	黒、黑色粒子を含む	第40回19(17-1-55) と対
第40回 10	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-39	須山形 壁面	口徑 露高 最大径	10.50 3.90	丸味のある天井部から内側 ながら立ち上がり、 口縁部は密度に下がる	外面：天井部は木綿擦 体部～口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰N5	黒、白色粒子を含む	
第40回 11	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-41	須恵器 壁面	口徑 露高 最大径	16.00 3.65	中央が幅かに込んだ天井部 から内側ながら立ち上 がる。口縁部は密度に下 がる	外面：天井部は木綿擦 体部～口縁部は横ナダ 内面：体部～口縁部は一条の 比較を有する 内面：天井部に指印し 跡、横ナダ	良好	灰N5 にぶい焼E5Y 6/4	黒、墨色・白色粒子を含む	
第40回 12	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-42	須山形 壁面	口徑 露高 最大径	11.50 3.90	平らな天井部から直線的 に内側に開きながら立 上がり、 口縁部が大きい 焼き込みが多い	外面：天井部はヘラ削り り、体部～口縁部は横ナダ 内面：天井部に指印し 跡、横ナダ	良好	にぶい赤褐色 YR3/3	黒、墨色・褐色粒子を含む	
第40回 13	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-40	須恵器 壁面	口徑 露高 最大径	10.10 4.50	天井部は馬蹄状を呈 し、口縁部は直線的の 開き	外面：天井部はヘラ削り り、体部～口縁部は横ナダ 内面：天井部に指印し 跡、横ナダ	良好	灰N5	黒	
第40回 14	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-31	須山形 壁面	口徑 露高 最大径	13.30 4.80 15.38	丸味のある天井部から内側 に内側ながら立ち上 がる。口縁部との 間に受けを有つ。口縁 部は内側する	外面：底部はヘラ削り りの後、横ナダ。体部～ 口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰G5Y8/1	黒、墨色・白色粒子を含む	第40回8(17-1-37) と対
第40回 15	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-45	須山形 壁面	口徑 露高 最大径	11.65 4.20 14.20	上方が幅かに内側から内 側ながら立ち上 がる。口縁部との間で受け を有つ。口縁部は内 側する	外面：底部はヘラ削り りの後、横ナダ。体部～ 口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰N6	黒、墨色・白色粒子を含む	第40回7(17-1-95) と対
第40回 16	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-49	須山形 壁面	口徑 露高 最大径	11.80 4.20 13.75	丸味のある天井部から内側 ながら立ち上 がる。口縁部との間で受け を有つ。口縁部は内 側する	外面：底部は木綿擦、 体部～口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰G5Y6/1	黒、墨色粒子を含む	第40回5(17-1-38) と対
第40回 17	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-50	須山形 壁面	口徑 露高 最大径	11.40 4.20 13.85	平らな天井部から内側 ながら立ち上 がる。口縁部との間で受け を有つ。口縁部は内 側する	外面：底部はヘラ削り りの後、横ナダ。体部～ 口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰N6	黒、墨色粒子を含む	口縫部の一部欠損
第40回 18	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-38	須恵器 壁面	口徑 露高 最大径	11.40 4.20 13.30	丸味のある天井部から内側 ながら立ち上 がる。口縁部との間で受け を有つ。口縁部は内 側する	外面：底部はヘラ削り りの後、横ナダ。体部～ 口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰N6	黒、墨色粒子を含む	第40回4(17-1-33) と対
第40回 19	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-52	須恵器 壁面	口徑 露高 最大径	11.53 4.60 13.60	丸味から直線的に大き く開き、口縁部との間 に受けを持つ。口縁部は内 側する	外面：底部はヘラ削り りの後、口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰N6	黒、墨色粒子を含む	第40回9(17-1-38) と対
第40回 20	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-46	須恵器 壁面	口徑 露高 最大径	9.75 4.80 11.70	丸味から直線的に大き く開き、口縁部との間 に受けを持つ。口縁部は内 側する	外面：底部はヘラ削り りの後、9面の取扱を有 する。体部～口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰N6	黒、墨色・白色粒子を含む	
第40回 21	次下縁B横穴群 1号横穴 17-1-45	須山形 壁面	口徑 露高 最大径	9.30 4.60 11.50	丸味から直線的に内側 ながら立ち上 がる。口縁部との間で受け を有つ。口縁部は内側する	外面：底部はヘラ削り りの後、9面の取扱を有 する。体部～口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰N4	黒、2~4mm大の 砂粒を含む	

III 調査結果 4. 出土上器觀察表

図版 番号	遺物名 遺物番号	種別・基材	法長	形態	表面	施成	色調	加工	備考
第41回 22	矢下鉢目横穴器 1号横穴 17-1-54	須恵器 高杯 口径 器高 脚径	9.50 8.90 8.00	片側は平底から内側しながら立ち上がり、口縁部は幅広に外側に向く。腹部は幅広に内側に向く。縦断面は倒めに歪曲している。焼成度が大きい。	外面：横ナメ 内面：横ナメ	良好	灰白N 7	黒、黒色・白色粒子を多く含む	
第41回 23	矢下鉢目横穴器 1号横穴 17-1-55	須恵器 高杯 口径 器高 脚径	12.20 9.00 8.55	片側は平底から腰やかに内側しながら立ち上がり、口縁部は幅広に内側に向く。脚部は「八」の字状に開き、縦断面は倒めに歪曲している。焼成度が大きい。	外面：横ナメ。脚部ト 内側に擦痕による深い 凹溝が見られる 内面：横ナメ	良好	灰N 6	黒、黒色・白色粒子を含む	
第41回 24	矢下鉢目横穴器 1号横穴 17-1-56	須恵器 高杯 口径 器高 脚径	14.95 16.40 11.10	片側は平底から腰やかに内側しながら立ち上がり、脚部は「八」の字状に開き、縦断面は倒めに歪曲している。焼成度が大きい。	外面：横ナメ 内面：横ナメ	良好	灰N 6	黒、黒色・白色粒子を含む	口縁部の一部欠損
第41回 25	矢下鉢目横穴器 1号横穴 17-1-57	須恵器 高杯 口径 器高 脚径	12.75 20.00 12.60	片側は平底から腰やかに内側しながら立ち上がり、脚部は「八」の字状に開き、縦断面は倒めに歪曲している。焼成度が大きい。	外面：脚の近辺はへたり あり、脚部ト内側に擦痕 がある。脚部は横ナメで、 体部中盤にへたり切りによ る斜めの透窓が複数枚 を有す。 内面：横ナメ。脚の上 位にしづり痕	良好	灰N 4	黒、砂粒子を多く 含む	脚部の一部欠損
第41回 26	矢下鉢目横穴器 1号横穴 17-1-58	須恵器 丸	口径 器高 最大径 (10.35)	体側は内側しながら立 ち上がり、脚部ト腹に は最大径を持つ。口縁部 は直円に立つ	外面：体側下部はヘラ 削り、体側へは擦痕け どりがある。腹に横溝 がある。腹に縫合跡 がある。内側に縫合跡 がある。	良好	暗灰N 3	黒、砂粒子を含む	1/6版存
第41回 27	矢下鉢目横穴器 1号横穴 17-1-59	須恵器 高付板 口径 器高 最大径 脚径	10.00 24.30 16.00 13.45	体側は丸底から内側し ながら立ち上がり。体 部上半は最大径を持 つ。脚部は「八」の字 状に開き、縦断面は 倒めに歪曲している。 脚は三瓣式に透かしを 有する	外面：底面はへたり あり、脚部ト腹に擦痕け どりがある。腹に横溝 がある。内側に縫合跡 がある。	良好	灰N 5	黒	完形
第41回 28	矢下鉢目横穴器 1号横穴 17-1-60	須恵器 長脚壺 口径 器高 最大径 脚径	16.85 8.80	丸底から内側しながら 立ち上がり。体側は 脚部より腹にかけて は最大径を持つ。脚部 は直円に立ち上がり ラック式に開く。脚部 が方形の點付け窓合 が付く	外面：底面はへたり あり。体側ト手平口縁部 は横ナメ。口縁部の一 部へ体側下半で自然 継ぎがある。	良好	灰白2.6Y 7/1	黒。1~2mmの 砂粒子を含む	口縁部の一部欠損
第41回 29	矢下鉢目横穴器 1号横穴 17-1-61	須恵器 低板 口径 器高 最大径 脚径	19.30 34.70 29.60	底部は丸底。体側は縦 條状を呈する。肩部に一 対の横状窓合がある。肩 部は腰やかに外反する。 脚部は直円に開く。	外面：体側全体に可見 の擦痕。腰部に縦合窓見 られる。口縁部は横ナメ で、体側へは擦痕けど りがある。	良好	灰10Y5/1	黒、砂粒子を含む	口縁部の一部欠損
第41回 30	矢下鉢目横穴器 1号横穴 17-1-62	須恵器 縁板 口径 器高 最大径	7.20 21.00 15.60	体側は、外側は腰や かに外反している。 内側はやや立ち上がりに なっている。肩部に一 対の横状窓合がある。 脚部は直円に開く。	外面：口縁部へ内側上半 に自然継ぎがある。口縁部 は横ナメで、内側に自然継 ぎがある。	良好	灰白N5Y 7/1	黒、黒色粒子を含む	完形
第42回 31	矢下鉢目横穴器 1号横穴 17-1-63	須恵器 縁板 口径 器高 最大径	18.80	体側は斜状を呈する。 口縁部は内側しながら 開く	外面：体側全体にカキ モチ模様。体側中盤 に横窓合がある。内側に は横窓合がある。底面に 脚部の擦痕を有する。 内側：口縁部は横ナメ	良好	灰2.5Y 6/1	黒、白色粒子を含む	山紋部欠損
第42回 32	矢下鉢目横穴器 1号横穴 17-1-64	須恵器 広口壺 口径 器高 最大径	15.40 28.80 27.49	丸底から内側しながら 立ち上がり。体側中盤 に横窓合がある。内側に は横窓合がある。脚部は直 円に開く	外面：底面へ体側下半 は叩き目。体側小切へ は横窓合まで擦痕がある。 内側へ体側下半まで 自然継ぎがある。底面に 脚部の擦痕を有する。 内側：口縁部は横ナメ	良好	黄灰2.5Y 6/1	黒、黑色粒子を含 む	手袖上半の、脚欠 損

III 調査結果 4. 出土十器観察表

団版 番号	遺物名 遺物番号	種別・特徴	法量	形態	調査	使用	色調	紹介	備考	
第42回 33	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-9	土師器 壁壺	口徑 器高 最大径	11.30 3.75 11.80	丸底のある天井部から内側しながり下がる。口縁部との間に腰窓とし、口縁部をやや内側する。	外面： 摩耗により不明瞭。 内面： 口縁部は横ナデ 内面： 摩耗により不明瞭。 内面： 口縁部は横ナデ	良	標準2.5Y R 7/6	術。砂粒子を多く含む	
第42回 34	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-17	土師器 壁壺	口徑 器高 最大径	14.50 5.65	平らな火口部から腰や 口に内側しぬがら下がり、口縁部は開き気味に下がる。	外面： 摩耗により不明瞭。 内面： 口縁部は横ナデ	良	標準2.5Y R 6/6	普通。砂粒子を多く含む	第42回35(17-1-13)と対
第42回 35	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-13	土師器 壁壺	口徑 器高 最大径	12.90 4.20 14.00	平らな火口部から腰や 口に内側しぬがら立ち上がる。口縁部との間に 腰窓とし、口縁部は内側する。	外面： ナデ	良	標準2.5Y R 7/6	術。褐色粒子を多く含む	第42回34(17-1-17)と対
第42回 36	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-19	土師器 壁壺	口徑 器高 最大径	12.30 4.70 14.65	火口部から腰だらかるや 口に内側しぬがら立ち上がる。口縁部との間に受けつけ無い。口 縁部は内側する。	外面斑状に剥落。外 面全体に叩き目が見ら れる	良	標準2.5Y R 7/6	術。褐色粒子を福 に含む	完形
第42回 37	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-20	土師器 壁壺	口徑 器高 最大径	12.10 3.85 13.40	丸底のある底部から腰や 口に内側しぬがら立ち上がる。口縁部との間に受けつけ無い。口 縁部は内側する。	外面： 横ナデ 内面： 横ナデ	良	標準2.5Y R 7/6	術。褐色粒子を多く含む	完形
第42回 38	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-4	土師器 壁壺	口徑 器高 最大径	12.40 4.10 15.10	丸底のある底部から腰や 口に内側しぬがら立ち上 がり、口縁部との間に受け つけ無い。口縁部は内側する。	外面： ナデ	良	標準2.5Y R 7/6	術。褐色粒子を含む	完形
第42回 39	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-66	土師器 高壺	口徑 器高 脚性	16.80 14.15 10.40	腰窓がある底部から腰や 口に内側しぬがら立ち上 がり、口縁部との間に受け つけ無い。腰窓は「く」の 字の字形に開き、底面部 は斜面。	外面とも、摩耗によ り不明瞭	良	標準2.5Y R 7/6	術。2mmの大砂粒 子を含む	腰窓1/4欠損
第43回 40	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-3	土師器 高壺	口徑 器高 脚性	18.00 16.00 12.00	腰窓は底部で弧曲し、 強的に大きく開く。 腰窓は「く」の字の字形に 開き、底面部は斜面。	外面： 摩耗により不明 瞭 内面： 横ナデ。脚にし ばり虹が認められる	良	標準2.5Y R 7/6	術。口縁部の一部欠損	
第43回 41	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-16	土師器 高壺	口徑 器高 脚性	13.40 15.20 10.50	腰窓は底面に近い底部 から内側しぬがら立ち上 がり、体部中位で最も 大きい。口縁部は腰窓に 対応し、脚部は「く」の 字の字形に開き、底面部 は斜面。	外面： 腰窓は体部上半 部ナデ。体部下半部は 横ナデ。脚部は脚日廣 内面： 腰窓は横ナデ。 脚にしばり虹が認め られる	良	標準2.5Y R 7/6	術。赤色・褐色 粒子を含む	完形
第43回 42	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-69	土師器 壁壺	口徑 器高 脚性	(24.40)	腰窓は底面から屈曲し て強的に大きく開く。 腰窓は「く」の字の字形に 開き、底面部は斜面。	外面： 腰窓の体部は横 ナデ。脚部は横ナデ。 脚部は不規則。脚部 は横ナデ。	良好	標準2.5Y R 6/6	術。1～2mmの大 砂粒子を含む	脚部1/4残存。脚部 上半段存
第43回 43	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-11	土師器 坯	口徑 器高 最大径	(10.20) 9.60 11.90	丸底から内側しぬがら 立ち上がる。体部中位 に最大径を持つ。腰窓は 「く」の字の字形に開き、 口縁部は直線的に開く。 口縁部は極端に外況化 する。	外面とも腰窓により 不明瞭	良	標準2.5Y R 6/6	やや粗。砂粒子を 多く含む	口縫部2/3欠損 体部1/3欠損
第43回 44	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-12	土師器 坯	口徑 器高 最大径	9.85 11.00 12.70	丸底から内側しぬがら 立ち上がる。体部中位 に最大径を持つ。腰窓は 「く」の字の字形に開き、 口縁部は直線的に開く。 口縁部は極端に外況化 する。	外面： 腰窓はヘラ削り の後、横ナデ。体部～ 脚部は横ナデ。	良	標準2.5Y R 7/6	褐色。1～2mmの大 砂粒子を多く含む	13.00完形
第43回 45	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-60	土師器 壱	口徑 器高 最大径	12.65	平らな底部から内側しぬがら 立ち上がる。体部中位 に最大径を持つ。腰窓は 「く」の字の字形に開き、 口縁部は外況化して立 ち上る。	外面： 腰窓は脚毛目。 体部は横ナデ。脚部は 横ナデ。	良	ぶい地7/4	褐色。1～2mmの大 砂粒子を多く含む	口縫部欠損
第43回 46	下下縁B横穴群 1号横穴 17-1-15	土師器 長脚壺	口徑 器高 最大径	10.70 16.80 13.50	丸底から内側しぬがら 立ち上がる。腰窓は「く」 の字の字形に開き、口 縁部は直線的に開く。 口縁部は外况化して立 ち上る。	外面： 底部～腰窓中位 は横ナデ。脚部は横ナ デ。脚上部は横ナデ。 内面： 不明瞭	良	標準2.5Y R 7/6	褐色。1～2mmの大 砂粒子を多く含む	口縫部3/3欠損

III 調査結果 4. 出土土器観察表

調査 番号	遺物名 遺物番号	種別・断面	寸法	形態	調査	構成	色調	特上	備考
	矢下鉢C横穴群 1号機穴 17-1-21	土器部 磨	口径 断面 最大径 底高 (9.80)	断面は「く」の字状に 扁平し、内縁部は直線的 に開き、端部は直進 に立つ	外面：横ナデ。 端部 の削毛目状 内面：横ナデ	良	灰 にかい縫2.5 YR7/4	普通。砂粒子を多く含む	口縫部1/2残存
	矢下鉢C横穴群 1号機穴 17-1-38	土器部 高杯	口径 断面 最大径 底高 8.00 11.00	断面の底部は平底で、ば らむる字状に開き、端部は さらにも開く	外面：不明瞭 内面：不明瞭。脚上位 にしばり痕	良	明赤燒2.5Y R8/6	普通。褐色松子を 多く含む	所持大鏡、脚部 2/5欠損
第45回 1	矢下鉢C横穴群 2号機穴 17-1	復原部 坂	口径 断面 最大径 底高 9.10 9.95 5.45	丸底から内側しながら 上がり、全体的に 直線的で、内縁部は 直線的に開く	外面：底部はヘラ削 り、体部～口縫部は横 ナデ。一部内縁がかかる 内面：横ナデ	良好	暗灰N3	普通。砂粒子を多 く含む	先形。 底部外縁に「」 の墨記号
第47回 1	矢下鉢C横穴群 1号機穴 27-3	復原部 坂	口径 断面 最大径 底高 (13.50)	体部は内側しながら 上がり、縫縫部を直面 している	外面：舟井部はヘラ削 り、体部～口縫部は横 ナデ。ロ唇部に横押縫 真による焼け目がある 内面：横ナデ	良好	灰N6	普通。3mm大の砂粒 7を含む	1/3残存
第47回 2	矢下鉢C横穴群 1号機穴 27-4	復原部 高杯	口径 断面 最大径 底高 (7.60) 3.85	断面は「へ」の字状に開 く。直縫部は高い	外面とも横ナデ	良好	灰N4	普通	1/3残存
第47回 3	矢下鉢C横穴群 1号機穴 27-6	土器部 高杯	口径 断面 最大径 底高 (14.30) 4.80	断面は平底から内側に がら立ち上がり、口 縫部は直線的に反す る	外面とも難純により 不明瞭	良	暗2.5Y及 7/8	普通	环部2/3残存
	矢下鉢C横穴群 1号機穴 27-7	復原部 底の口 坂	口径 断面 最大径 底高 (20.80)	外気柱体に開く	外面：横ナデ 内面：横ナデ	良好	灰5Y6/1	普通。栗色粒子・砂 粒子を含む	山腹部1/2残存
第49回 1	復原横穴群 1号機穴 22-2	復原部 坂	口径 断面 最大径 底高 9.90 10.36	外縫部は直線的に開 き、口縫部はやや内側 する。かみあわせ する。天井部頂点につま みが付いていた箇がある	外面：自然焼がかかる 内面：横ナデ	良好	灰N4	普通。黒色粒を多 く含む	つまみ欠損
第49回 2	復原横穴群 1号機穴 22-4	復原部 坂	口径 断面 最大径 底高 9.40 3.90 9.80	天井部に弓張り状を呈 し、口縫部は分厚く内 側する	外面：天井部はヘラ削 り、体部～口縫部は横 ナデ 内面：横ナデ。内外面 ともノタ目が強く残る	良好	灰N6	普通	先形
第49回 3	復原横穴群 1号機穴 22-1	復原部 坂	口径 断面 最大径 底高 7.90 3.10 10.49	丸底から直線的に開 き、口縫部との間に 凹を持つ。口縫部は外 気柱体に内側する	外面：底部はヘラ削 り。体部～口縫部は横 ナデ 内面：横ナデ	良好	灰N5	普通	先形
第49回 4	復原横穴群 1号機穴 22-5	山茶碗 小豆	口径 断面 底高 8.55 1.95 5.20	底から直線的に開 き。口縫部を尖らせ ている	外面：底部に回転糸切 れ。体部～口縫部は横 ナデ 内面：横ナデ	良好	灰白2.5Y 7/1	普通。砂粒子を含 む	先形
第49回 5	復原横穴群 1号機穴 22-6	山茶碗 小豆	口径 断面 底高 7.85 1.65 6.20	平底から直線的に開 く。口縫部はやや外反す る	外面：底部に回転糸切 れ。体部～口縫部は横 ナデ 内面：横ナデ	良好	灰白2.5Y 7/1	普通。砂粒子を含 む	先形
第52回 1	復原横穴群 3号機穴 24-1-1	山茶碗 粗	口径 断面 底高 15.60 5.30 6.90	底の中央部が窪む。体 部は直線的に開く。裏 平な貼り付け高台付 く 焼き込みがある	外面：底部に回転糸切 れ。体部～口縫部は横 ナデ 内面：横ナデ	良	灰黄2.5Y 7/2	普通。砂粒子を含 む	山腹部1/4欠損
第52回 2	復原横穴群 3号機穴 24-1-2	山茶碗 粗	口径 断面 底高 15.80 5.50 7.00	底の中央部が窪む。体 部は直線的に開く。裏 平な貼り付け高台付 く 焼き込みがある	外面：底部に回転糸切 れ。体部～口縫部は横 ナデ 内面：横ナデ。口縫部 から体部中盤に底があ る	良	灰黄2.5Y 7/2	普通。砂粒子を含 む	口縫部1/3欠損
第52回 3	復原横穴群 3号機穴 24-2	山茶碗 粗	口径 断面 底高 11.35 3.65 6.40	平底から直線的に開く。 断面が三角形の基 り付け高台が付く	外面：底部に回転糸切 れ。体部～口縫部は横 ナデ 内面：横ナデ。底部に 重ね焼き痕	良	灰黄2.5Y 7/2	普通。砂粒子を含 む	先形
第52回 4	復原横穴群 3号機穴 24-4-2	山茶碗 小豆	口径 断面 底高 8.75 2.65 3.80	平底から直線的に開く	外面：底部に回転糸切 れ。体部～口縫部は横 ナデ 内面：横ナデ。口縫部 ～体部半位に灰被があ る	良好	灰白2.5Y 7/1	普通。砂粒子を含 む	

III 調査結果 4. 出土土器観察表

区分 番号	遺構名 種類	種別・器種	出量	形態	調査	焼成	色調	出土	備考
	裏部横穴群 3号横穴 24-3	櫛山器 細	口柄 器底 最大径 (29.80)	体部はやや内窓し、口 縁部にかけて直線的に 凹む。口縁部は尖ら せている	外面：横ナゲ 内面：横ナゲ	良好	灰青褐10% R5/2	赤。砂粒子を含む	口縁部1/4既存
	裏部横穴群 3号横穴 24-4-1	山茶碗 細	口径 器底 最大径 6.30	平底に断面が三角形の 貼り付け高部が付く	外面：底面に凹凸有明 り張。横ナゲ 内面：横ナゲ	良好	灰青2.5Y R1	普通。白色砂粒子 を含む	底器のみ
第54回 1	空師横穴群 4号横穴 25-1	鏡恵器 坪蓋	口径 器底 最大径 9.65 2.95 1.00	半径 約1.5cm の大きさで開き、口 縁部は内窓する。内窓 部は内傾する。口縁部 は直線状のつまみが 付く	外面：つまみがナゲ。 天井部はへラ削り。口 縁部は内窓する。内窓 部は内傾する。天井部頂 部につまみの痕がある	良好	黄灰2.5Y R1	赤。黑色・白色粒 子を含む	光感
第54回 2	裏部横穴群 4号横穴 25-7-2	鏡忠器 坪蓋	口径 器底 最大径 8.40 2.95 0.70	天井部から直線的に 広がる開きがなじ下が る。天井部頂部につま みの痕がある	外面：天井部はへラ削 りの痕。横ナゲ。底部 へ口縁部は横ナゲ 内面：横ナゲ	良好	褐灰10Y R5/1	赤。黑色・白色粒 子を含む	1/4欠損
第54回 3	裏師横穴群 4号横穴 25-3-1	鏡恵器 坪蓋	口径 器底 最大径 9.35 3.85 10.05	天井部は円錐形を呈 す。口縁部は内窓する	外面：天井部にはへラ削 り。天井部にへラ削 り。下割り。口縁部は へ口縁部は横ナゲ 内面：横ナゲ	良好	灰N 6	赤	第54回2(25-2-1) と對
第54回 4	裏部横穴群 4号横穴 25-6-3	鏡恵器 坪蓋	口径 器底 最大径 (10.00) 3.60	互いのある天井部から 底部にかけて内窓 がなじ立ち上がりする。	外面：天井部はへラ削 り。天井部から直線的に 広がる開きがなじ下が る	良好	灰N 5	赤。白色粒子を含 む	1/2既存
第54回 5	裏部横穴群 4号横穴 25-7-1	鏡恵器 坪蓋	口径 器底 最大径 6.95 2.45	丸底から底盤し、直線 的に開きながせらじ下 がる	外面：底盤はへラ削 り。底盤へ口縁部は横 ナゲ 内面：横ナゲ	良好	灰N 6	赤。砂粒子を含む	1/2既存
第54回 6	裏師横穴群 4号横穴 25-6-1	鏡恵器 坪身	口径 器底 最大径 (8.20) (3.40) 11.00	丸底から底盤し、内窓 しながら立ち上がりする。 口縁部は内傾する	外面：底部はへラ削 り。底盤へ口縁部は横 ナゲ 内面：横ナゲ	良好	灰N 5	赤	1/2既存
第54回 7	空師横穴群 4号横穴 25-2-1	鏡恵器 坪身	口径 器底 最大径 8.05 3.45 10.45	丸底から直線的に大き く開きながら立ち上がる。 口縁部は内窓する	外面：底部にへラ削 り。口縁部は内窓する。 内窓部は横ナゲ 内面：横ナゲ	良好	灰N 6	赤	光感 第54回3(25-3-1) と對
第54回 8	裏師横穴群 4号横穴 25-2-3	上部器 外身	口径 器底 最大径 (11.20) 4.50	丸底のある底盤から直 線的に開き、底盤中段 から内窓する	内面と底盤により 不明瞭	灰	灰N 5 R6/4	赤。白色粒子を少 し含む	1/4既存
第54回 9	裏部横穴群 4号横穴 25-2-2	上部器 外身	口径 器底 最大径 (12.90) (4.65)	丸底から底盤から内窓 しながら立ち上がり、 底盤部は直ぐで開き がなじ立つて内窓する	外面：底盤へ底盤下部 に内窓の跡が立ぼ。そ の跡は不明瞭 内面：不明瞭	灰	褐8Y R6/6	赤。白色粒子を多く含 む	1/2既存
第54回 10	裏師横穴群 4号横穴 25-4	山茶碗 細	口径 器底 最大径 (13.10) 3.00 8.00	底盤から底盤から内窓 しながら立ち上がり、 底盤部は直ぐで開き がなじ立つて内窓する	外面：底盤はへラ削 り。底盤へ口縁部は横 ナゲ。口縁部と底盤 の接合部は横ナゲ 内面：横ナゲ。口縁部 から底盤まで横がかかる	良好	灰オリーブ 5Y 5/2	赤。砂粒子を含む 体路2/3欠損	
第54回 11	裏師横穴群 4号横穴 25-3-2	山茶碗 小足	口径 器底 最大径 7.90 1.90 6.79	底盤から底盤から内窓 しながら立ち上がり、 底盤部は直ぐで開き がなじ立つて内窓する	外面：底盤に凹凸有明 り張。底盤へ口縁部は 横ナゲ。口縁部と底盤 の接合部は横ナゲ 内面：横ナゲ	良好	灰白10Y R7/1	普通。砂粒子を含 む	完形
	空師横穴群 4号横穴 25-6-2	鏡山器 坪蓋	口径 器底 最大径 (8.70)	体部は内窓しながら下 がり。口縁部は直線的に 下がる	外面：底盤へ口縁部は 横ナゲ。口縁部と底盤 の接合部は横ナゲ 内面：横ナゲ	良好	灰N 6	赤	2/3既存
	裏師横穴群 4号横穴 25-6-4	鏡恵器 壁面	口径 器底 最大径 (16.00)	体部は底やかに内窓し ながら立ち上がり、 底盤部は直ぐで開き がなじ立つて外反する	外面：底盤へ口縁部は 横ナゲ。底盤がかかる 内面：横ナゲ	良好	灰灰2.5Y R7	赤。黑色粒子を含 む	1/2既存

III 調査結果 4. 出土土器経験表

回収 番号	遺物名 遺物番号	種別・部類	径量	形態	測定	表面	底成	色調	胎十	備考
	高井横穴群 4号横穴 25-7-5	須山器 平底	口径 底面 厚	6.10 16.50 9.60	平底から内側しながら立ち上がり、全体の最高部は底面と同程度。口縁部は底面より高く立つ。	外面：底面はヘラ削り。全体的に底面と同程度。口縁部は底面より高く立つ。内面：底面は底面より高く立つ。	良好	黄灰2.5Y 7/1	施。黑色粒子を多く含む。	口縁部～全体1/4段存
	高井横穴群 4号横穴 25-7-3	山形器 瓶	山形 瓶高 底径	(8.00)	平底から底やかに内側しながら立ち上がり。口縁部は底面より高く立ち上がり、「！」の字状に底面が高く立ち上がりが付く。	外面：横ナデ 内面：横ナデ	良好	黄灰2.5Y 3/1		1/7段存
	高井横穴群 4号横穴 25-7-4	山形器 瓶	口径 底面 底径	(13.00) 6.65 7.70	平底から底やかに内側しながら立ち上がり。口縁部は底面より高く立ち上がり、「！」の字状に底面が高く立ち上がりが付く。	外面：横ナデ 内面：横ナデ	良好	黄灰2.5Y 6/1	施。砂利子を含む	1/10段存
	高井横穴群 4号横穴 25-7-5	土師器 手身	口径 底面 底径	(9.80) 1.95 (6.80)	平底から底深めに大きくなっている。	外面と底面により不規則	良	にい赤5Y 1/1	施。白色粒子を多く含む。	1/5段存
第57回 1	勝田ヶ谷横穴群 1号横穴 28-10-2	須山器 叶蓋	山形 瓶高	11.10	天井部は底面より早く、内底ながら下がる。	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部は横ナデ。口縁部は底面より高い位置に「！」の字状に底面を施す。	不良 生けけ	灰5Y4/1	施。白色粒子を僅 少含む。	3/5段存
第57回 2	勝田ヶ谷横穴群 1号横穴 28-8-2	須山器 叶蓋	山形 瓶高 最大径	11.10 4.40	丸底から底やかに内側しながら立ち上がる。	外面：天井部はヘラ削り。体部～口縁部は横ナデ。口縁部は底面より高い位置に「！」の字状に底面を施す。	良好	灰白N 7	施。白色粒子を含む。	1/2段存
第57回 3	勝田ヶ谷横穴群 1号横穴 28-3-1	須山器 手身	口径 底面 底径	10.00 3.90 12.00	丸底から底やかに内側しながら立ち上がる。口縫部との間に突出を持つ。口縫部は底面より高く立つ。	外面：底面はヘラ削り。体部～口縫部は横ナデ。口縫部は底面より高い位置に「！」の字状に底面を施す。	良好	灰N 6	施。白色粒子を含む。	1/3段存 底面に「！」の范 影記入
第57回 4	勝田ヶ谷横穴群 1号横穴 28-6-2	須山器 平底	山形 瓶高 底径	(16.50) (15.00) (12.50)	割離は内底しながら立ち上がる。脚は「-」の字状に張き、二方向に二段の脚をもつて入れられる。底面は斜めに面取りしている。	外面：外底は底面に張り付いている。底面は横ナデ。脚部は横ナデ。二脚に自然隙がある。	良好	灰N 4	施。白色粒子を含む。	手筋1/2段存。 脚部1/2段存
第57回 5	勝田ヶ谷横穴群 1号横穴 28-1	須山器 直?	口径 底面 最大径	- 18.10	丸底から内側しながら立ち上り、全体の上位に最大径を持つ。	外面：底面は底面に張り付いている。底面は横ナデ。脚部は横ナデ。二脚に自然隙がある。	良好	灰白5Y7/1	施。黑色・白色粒子を含む。	体筋1/3段存
	勝田ヶ谷横穴群 1号横穴 28-2	須山器 直?	口径 底面 最大径	(15.40)	側面に平らな底面から底やかに内側しながら立ち上り、全体の上位に最大径を持つ。背筋は内側気孔で内側をもつ。	外面：全体に自然隙がある。全体的に「-」の字状に張り付いている。内面：横ナデ。底面に自然隙がある。	良好	灰オリーブ 5Y4/2	施。黑色粒子を多く含む。	体筋1/3段存
	勝田ヶ谷横穴群 1号横穴 28-6-1	須山器 高杯 脚部	山形 脚部	(12.00)	側面は直線的に「-」の字状に張り付いており、全体の上位に最大径を持つ。背筋は内側気孔で内側をもつ。	外表面とも横ナデ。外 面に灰がかかる。	良好	灰N 6	施	2/3段存
	勝田ヶ谷横穴群 1号横穴 28-10-1	土師器 手身	口径 底面	(12.30)	全体は底やかに内側しながら立ち上がる。	外表面とも横ナデ。全体に灰がかかる。	良	墨S Y 8/6	施。1~3mmの砂利子を含む。	口縫部1/3段存
	勝田ヶ谷横穴群 1号横穴 28-10-3	須山器 叶蓋	口径 底面	(10.90) 3.20	人井部は傷倒り状を呈し、内側しながら立ち上がる。	外表面：天井部はヘラ削り。体部～口縫部は横ナデ。内面：横ナデ。	良好	灰N 4	施。白色粒子を多く含む。	1/1段存
第59回 1	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-20-1	須山器 叶蓋	かえり口径8.10 底面 最大径 つまみ筋 つまみ高	3.60 9.50 1.90 1.35	人井部は傷倒り状を呈し、内側ながら立ち上がる。	外表面：全体に灰がかかる。天井部はヘラ削り。体部～口縫部は横ナデ。つまみはナデ。内面：横ナデ。	良好	灰5Y6/1	施。黑色粒子を含む。	元青

III 調査結果 4. 出土器観察表

団体 番号	遺物名 遺物番号	種別・器種	状態	形態	病害	地城	色調	記号	備考
第59回 2	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-5	須恵器 环甌	かえり口徑7.70 内径7.35 高さ9.5 底大径3.6 つまみ径1.36 つまみ高1.16	天井部は少しきり状を呈す。頂点に乳頭状のつまみが付く。かえりは内傾する	外面：天井部はヘラ削り、つまみはナダ。休部は横ナダ。全体に灰がかかる 内面：横ナダ	良好	灰5Y6/1	赤、黒色粒子を含む	光形 第59回10(中1-19) 1)と対
第59回 3	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-13	須恵器 环甌	かえり口徑7.75 内径7.40 高さ9.5 底大径3.6 つまみ径1.40 つまみ高1.45	天井部は少しきり状を呈す。頂点に乳頭状のつまみが付く。かえりは外反錐形で内傾する	外面：全体に灰跡がかかる 内面：横ナダ	良好	灰5Y6/1	赤、黒色粒子を含む	光形 第59回12(中1-2)と対
第59回 4	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-16 1	須恵器 环甌	口徑9.70 高さ4.46 底大径3.6 つまみ径1.38	天井部は少しきり状を呈す。頂点に乳頭状のつまみが付く	外面：天井部に灰がかかる 天井部はヘラ削り 内面：天井部は横ナダ、つまみはナダ 内面：横ナダ	良好	灰5Y6/1	赤、黒色粒子を含む	光形
第59回 5	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-11	須恵器 环甌	口徑8.80 高さ3.20	平らな天井部から内傾した後下る。口縁部は直底で下がる	外面：天井部はヘラ削り、休部へ口縁部に横ナダ。休部より底部との境に一重の沈線を残す 内面：横ナダ。口縁部に一重の沈線を残す	良好	灰N 5	赤、黒色粒子を含む	光形
第59回 6	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-16-3	須恵器 环甌	口徑10.20 高さ3.95	平らな天井部から内傾した後下がる。口縁部まで下がる	外面：天井部はヘラ削り、休部へ口縁部に横ナダ。休部より口縁部との境に「金の沈線」がある 内面：横ナダ。口縁部に一重の沈線を残す	良好	灰N 5	赤、白色粒子を含む	光形
第59回 7	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-22	須恵器 环甌	口徑11.50 高さ4.00	平らな天井部から内傾した後下がる。口縁部まで下がる	外面：天井部はヘラ削り、休部へ口縁部に横ナダ。休部より底部との境に一重の沈線を残す 内面：横ナダ。口縁部に一重の沈線を残す	良好	灰N 4	赤、白色粒子を含む	光形 天井部外面に「 」の痕記号
第59回 8	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-16-2	須恵器 环甌	口徑10.10 高さ3.40	平らな天井部から内傾した後下がる。口縁部まで下がる	外面：天井部はヘラ削り、休部へ口縁部に横ナダ。休部より底部との境に一重の沈線を残す 内面：横ナダ。口縁部に一重の沈線を残す	良好	灰N 4	赤、黑色粒子を含む	光形
第59回 9	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-20-2	須恵器 环甌	口徑8.70 高さ3.20 底大径4.40 最大径9.40	平らな天井部から内傾した後下がる。口縁部まで下がる	外面：底部へ休部上に一重のクレーブ。休部へ口縁部に横ナダ。休部より底部との境に一重の沈線を残す 内面：横ナダ	良好	灰5Y6/1	赤、黑色粒子を含む	口縁部の一部欠損、ほぼ完形
第59回 10	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-19-1	須恵器 环甌	口徑8.90 高さ3.15 底大径3.10 最大径9.35	中央が陥んだ底部から内傾した後下がる。口縁部との境に受け皿化粧し、口縁部は直底で外傾する	外面：底部へ休部上に一重のクレーブ。休部へ口縁部に横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰3Y6/1	赤、黑色粒子を含む	光形 第59回2(中1-3)と対
第59回 11	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-10	須恵器 环甌	口徑8.60 高さ3.50 底大径2.80 最大径9.30	中央が陥んだ底部から内傾した後下がる。口縁部との境に受け皿化粧し、口縁部は直底で内傾する	外面：底部はヘラ削り、休部へ口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰5Y6/1	赤、黑色粒子を含む	光形
第59回 12	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-2	須恵器 环甌	口徑8.85 高さ3.45 底大径4.30 最大径9.60	中央が陥んだ底部から内傾した後下がる。口縁部との境に受け皿化粧し、口縁部は直底で内傾する	外面：底部はヘラ削り、休部へ口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰5Y6/1	赤、黑色粒子を含む	光形 第59回3(中1-3)と対
第59回 13	[田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-8	須恵器 环甌	口徑9.20 高さ4.60 底大径3.90 最大径9.85	丸やから底部的に開きながら立ち上がる。休部は直底で内傾する	外面：底部はヘラ削り、休部へ口縁部は横ナダ。休部より底部との境に一重の沈線を残す 内面：横ナダ	良好	灰N 5	赤、1~3mmの砂粒子を含む	光形 底面外に「 」の痕記号
第59回 14	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-21	須恵器 环甌	口徑9.50 高さ3.90 底大径11.85	平底から底やから内傾した後下がる。口縁部との境に受け皿化粧し、口縁部は直底で内傾する	外面：底部はヘラ削り、休部へ口縁部は横ナダ 内面：横ナダ	良好	灰2Y5/1	赤、黑色粒子を含む	ほぼ完形

III 調査結果 4. 出土土器類好表

図版番号	遺物名 遺物番号	種別・器種	重量	形態	調査	構成	色調	胎土	備考	
第60回 15	田ヶ谷櫻穴群 1号櫻穴 中1-20-3	須恵器 环身	山野 高野 坂大怪	8.95 3.50 10.60	丸輪のあらは直部から直輪的に大きくなっているが、口部とその間の受け止めを押す。口部は灰灰褐色で内側は白。	外観：直部はヘラ削り。体部～脚部は輪ナギ。ノタ目が見られる。	良好	灰N 4	黒。黑色粒子を多く含む	丸形
第60回 16	田ヶ谷櫻穴群 1号櫻穴 中1-6	須恵器 高杯	口径 脚高 脚径	11.30 6.75 7.95	所詮は平底から大きくなっているが、立ち上がり、口部は直輪的で脚部は輪ナギの「T」の字状に開く。輪部は斜めに面取りしている。空洞部は高い焼き混みがある。	外観：片底部はヘラ削りの後、横ナギ。全体にナギ。口部とその間に1条の直線を施す。内側：横ナギ	良好	褐5Y R 4/1	黒。1~2mmの大白色粒子を多く含む	丸形
第60回 17	田ヶ谷櫻穴群 1号櫻穴 中1-4	須恵器 高杯	口径 脚高 脚径	8.95 8.15 6.90	片部は丸底から直輪的に大きくなっているが、立ち上がり、口部は直輪的で脚部は輪ナギの「T」の字状に開く。輪部は斜めに面取りしている。空洞部は高い焼き混みがある。	外観：横ナギ 内側：横ナギ	良好	灰N 5	黒	ほぼ丸形。脚の 端大怪
第60回 18	田ヶ谷櫻穴群 1号櫻穴 中1-15	須恵器 高杯	口径 脚高 脚径	11.15 7.20 7.70	片部は平底から直輪的に大きくなっているが、立ち上がり。口部はやや外反する。脚部は「T」の字状に開く。輪部は斜めに面取りしている。空洞部は高い焼き混みがある。	外観：片底部はヘラ削りの後、横ナギ。全体にナギ。口部と脚部との間に太女の背の字の直線を施す。内側：横ナギ	良好	褐5Y R 4/1	黒。1~2mmの大白色粒子を多く含む	丸形
第60回 19	田ヶ谷櫻穴群 1号櫻穴 中1-18	須恵器 高杯	口径 脚高 脚径	(10.55) (7.00) 7.55	所詮は平底から大きくなっているが、立ち上がり。口部は直輪的で脚部は「T」の字状に開く。輪部は斜めに面取りしている。焼き混みが大きい。	外観：全体に横ナギ。口部と脚部との間に太女の背の字の直線を施す。内側：横ナギ	良好	灰N 6	黒。1~2mmの大白色粒子を多く含む	脚部1/4折 脚部1/2折
第60回 20	田ヶ谷櫻穴群 1号櫻穴 中1-12	須恵器 高杯	口径 脚高 脚径	(16.30) 14.00 12.00	片部は丸底から内斂しながら立ち上がる。口部は直輪的で脚部は輪ナギの「T」の字状に開く。輪部は斜めに面取りしている。空洞部は高い焼き混みがある。	外観：片底部から全体が立ち上がり、口部は直輪的で脚部は輪ナギの「T」の字状に開く。輪部は斜めに面取りしている。空洞部は高い焼き混みがある。	良好	灰白2.5Y 7/1	黒。黑色粒子を含む	脚部1/12残存
第60回 21	田ヶ谷櫻穴群 1号櫻穴 中1-1	須恵器 高杯	口径 脚高 脚径	13.25 12.30 10.70	片部は内斂しながら立ち上がる。口部は直輪的で脚部は輪ナギの「T」の字状に開く。輪部は斜めに面取りしている。脚部は脚部1/2に焼かれていて、空洞部は高い焼き混みがある。	外観：片部は横ナギ。J/3に焼かれていて、脚部は横ナギ。1/2に焼かれていて、脚部は脚部1/2に焼かれていて、空洞部は高い焼き混みがある。	良好	灰白2.5Y 7/1	黒。白色・黒色粒子を含む	脚部1/4欠損 脚部2/3欠損
第60回 22	田ヶ谷櫻穴群 1号櫻穴 中1-16	須恵器 高杯	口径 脚高 脚径	16.70 16.10 12.00	所詮は内斂しながら立ち上げる。口部は直輪的で脚部は輪ナギの「T」の字状に開く。輪部は斜めに面取りしている。空洞部は高い焼き混みが大きい。	外観：全体に横ナギ。口部と脚部との間に太女の背の字の直線を施す。脚部は横ナギ。1/2に焼かれていて、脚部は脚部1/2に焼かれていて、空洞部は高い焼き混みがある。	良好	灰白2.5Y 7/1	黒。黑色・白色粒子を少し含む	ほぼ丸形
第60回 23	田ヶ谷櫻穴群 1号櫻穴 中1-14	須恵器 脚付豆類器	口径 脚高 最大径 脚径	7.80 12.85 15.00 9.00	体部上半に最大径を持つ。底面は直輪的でつまみ付く。体部は横やかに焼きながら下がる。	外観：底面～体部下部はラフ削り。体部上部～山根部は横ナギ。最大径の部分に、横状窓孔による透視制限突起。その下部に斜めに「T」の字状に開く。輪部は斜めに面取りしている。	良好	灰白10Y R 2/1	黒。黑色粒子を含む	丸形
第60回 24	田ヶ谷櫻穴群 1号櫻穴 中1-19-2	須恵器 高杯	口径 脚高 つまみ径 つまみ高	9.50 3.90 1.23 0.90	大口部は口部を直輪的でつまみ付く。体部は横やかに焼きながら下がる。	外観：天井部はヘラ削り。体部～口部は横ナギ。つまみはナギ。内側：横ナギ	良好	灰白6Y R 1/1	黒。黑色粒子を含む	口部脚1/4欠損

III 調査結果 4. 出土器物表

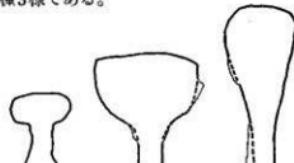
頭版 番号	遺構名 遺物番号	種別・器種	法集	形態	測定	施成	色調	追十	備考
	田ヶ谷横穴群 1号横穴 中1-9	須山器 破片	口径 器高 最大径 4.20	平底から大きく開いて立ち上がり、屈曲して直線的に開く 焼きぬきが大きい	外側：底面はヘラ削り、体部へ口輪部は楕円 内面：底面に斜止ナガ 体部へ口輪部は楕円 底部下半から共通 に底がかかる	良好	灰N 4	赤	完形
第63回 1	田ヶ谷横穴群 3号横穴 2-1-4	須山器 破片	口径 器高 つまみ棒 3.05 つまみ高 0.85	火葬器は弓張り状を呈す。 頂点に底で底面の つまみが付く。体部は 縦々かに開いた下がる	外面：縫跡がかかる 内面：横ナガ	良好	暗オリーブ 5Y 4/4	赤、黑色粒子を多 く含む	体部中位以下欠損
第63回 2	田ヶ谷横穴群 3号横穴 2-1-3	須山器 破片	口径 器高 (14.80)	平らな天井部から大き く傾きながら下がる。 口輪部は垂直、底ん につまみが付いた後 縫跡が認められる	外側：自然釉がかかる 内面：口輪部に一束の 縫跡を有す 内面：横ナガ	良好	灰オリーブ 5Y 6/2	赤	1/4残存
第63回 3	田ヶ谷横穴群 3号横穴 2-1-1	須山器 破片	口径 器高 (9.80) (3.20) 最大径 (11.45)	体部下部は直角な形 ながら上がる。口輪部 との間の受けを持つ。 口輪部は内側する	外側：体部～口輪部は 縫跡がかかる 内面：横ナガ	良好	褐色10V R 6/1	赤	1/4残存
第63回 4	田ヶ谷横穴群 3号横穴 2-1-5	須山器 高杯	口径 器高 (14.80)	脚部は「ハ」の字狀に 開き、底をつけた形 に「ハ」の字狀に開 く。口輪部は二段の透 かしを入れる	外側とも全体に横ナ ガ、外面部の透かしの範 囲に二条の比較、段の形 分に二段の入り、底縁を 遮る	良好	灰N 6	赤、黑色粒子を 多く含む	脚部1/4残存
第63回 5	田ヶ谷横穴群 3号横穴 2-1-1	土師器 盆	口径 器高 底径 (12.00) 1.30 (7.60) (12.00)	平底から直線的に開き ながら立ち上がる。口 輪部は直立し、底縁を 丸めている	内外面とも夢耗により 不規則	良好	相5Y R 6/6	青赤、褐色粒子を 含む	1/4残存
	田ヶ谷横穴群 3号横穴 2-1-2	須山器 灰陶壺	口径 器高 (9.50)	縦やかに外反しながら 立ち上りラッパ状に開く	内外面：口輪部は横ナ ガ	良好	灰N 4	赤	1/3残存
	田ヶ谷横穴群 3号横穴 2-2	縫接陶器 小壺	口径 器高 底径 10.00 2.00 4.75	平底から縦やかに内開 して立ち上がる	外側：底部～体部上半 はヘラ削り。縫跡がか かる 内面：横ナガ、重ね腹 がリットルある	良好	浅黄7.5Y 7/3	赤	完形

IV まとめ

各横穴群の玄室の平面形状・規模を見ると、構築された岩盤の性質に起因する相違を考慮しても、様々な形状が見られる。

横穴群毎の平面形状は以下の通りである。

僧込横穴群は1号横穴が小規模な横長の楕円形、2号横穴が三角フラスコ形、3号横穴が丸底フラスコ形と3種3様である。

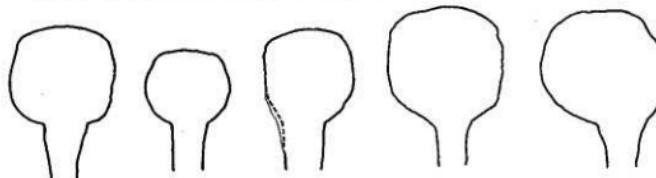


1号横穴

2号横穴

3号横穴

大恒A横穴群は1号横穴が隅丸方形、2号横穴が円形、3号横穴が縦長の楕円形、4号横穴が円形、5号横穴が円形片袖で、ほとんどが円形かまたは円形に近い形状をしている。規模は1・4・5号横穴がほぼ同じ規模で、3号横穴がそれに続き、2号横穴が小規模である。いずれも組合式石棺を伴い、2・3・4号横穴は主軸に直交して配置し、2・3号横穴は1基ずつ、4号横穴は2基ある。1・5号横穴は主軸に並行して配置し、1号横穴は3基、5号横穴は2基ある。



1号横穴

2号横穴

3号横穴

4号横穴

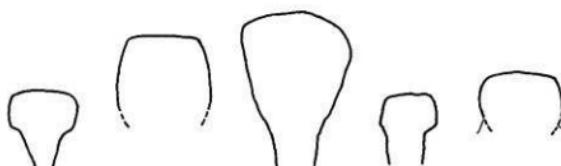
5号横穴

大恒B横穴群は1号横穴のみで、丸底フラスコ形を呈し、薬師横穴群の2号横穴に類似している。規模は薬師横穴群の2号横穴よりやや大きい。



1号横穴

一の谷A横穴群は1号横穴が横長の楕円形、2号横穴が隅丸方形、3号横穴が丸底フラスコ形、4号横穴が横長の隅丸方形、5号横穴が横長の楕円形を呈している。1号横穴と4号横穴が同じ形状で、規模もほぼ同じであるが、それ以外は統一性がない。なお、2号横穴と3号横穴は長軸に並行する組合式石棺を1基ずつ伴っている。



1号横穴

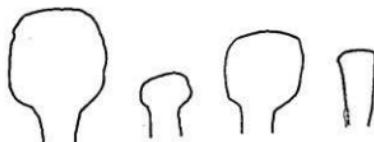
2号横穴

3号横穴

4号横穴

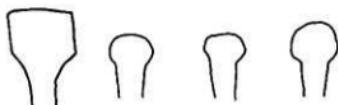
5号横穴

一の谷C横穴群は1号横穴が隅丸方形、2号横穴が横長の楕円形、3号横穴が隅丸方形、4号横穴が縱長の隅丸方形を呈している。1号横穴は一の谷A横穴群の2号横穴に類似し、同様に長軸に並行する組合式石棺を1基伴っている。2号横穴と4号横穴は形状が異なるが極めて小規模で、いずれも森床を伴っている。



1号横穴 2号横穴 3号横穴 4号横穴

一の谷D横穴群は1号横穴が方形、2・3号横穴が横長の楕円形、4号横穴が円形を呈している。1号横穴は奥壁に付く組合式石棺を1基作っている。2・3・4号横穴は、形状は多少異なるが、極めて小規模であるところが共通している。



1号横穴 2号横穴 3号横穴 4号横穴

欠下峠A横穴群は1号横穴のみで、横長の楕円形を呈している。形状や規模が類似する横穴はない。



1号横穴

欠下峠B横穴群は1号横穴が横長の楕円形、2号横穴が横長の隅丸方形を呈している。1・2号横穴ともに主軸に直交して配置された組合式石棺を伴っている。1号横穴は1基、2号横穴は2基ある。



1号横穴

2号横穴

欠下峠C横穴群は1号横穴のみで、円形を呈している。形状や規模が類似する横穴はない。



1号横穴

薬師横穴群は1号横穴が隅丸方形、2号横穴が丸底フラスコ形、3号横穴が隅丸方形、4・5号横穴が横長の隅丸方形を呈している。1号横穴は礫床を伴い、4号横穴は主軸に直交して配置された組合式石棺を1基伴っている。5号は極めて小規模である。



1号横穴 2号横穴 3号横穴 4号横穴 5号横穴

勝田ヶ谷横穴群は1号横穴のみで、隅丸方形を呈している。主軸に直交して配置された組合式石棺を2基伴っている。形状や規模が類似する横穴はない。



1号横穴

田ヶ谷横穴群は1号横穴が縦長の隅丸方形、2号横穴がやや縦長の隅丸方形、3号横穴が隅丸方形を呈している。3号横穴は主軸に並行して配置された組合式石棺を1基伴っている。2・3号横穴は形状が類似するが、1号横穴とは異なる。



1号横穴 2号横穴 3号横穴

以上のように、強いて類似性のある横穴群を挙げれば大恒A横穴群くらいである。標高による位置関係については記録がないので比較することは出来ない。

次に、各横穴から出土した遺物から横穴が構築された年代、あるいは追葬された年代を概観する。なお、借込横穴群の1号横穴、大恒B横穴群の1号横穴、一の谷A横穴群の1号横穴と4号横穴、一の谷C横穴群の4号横穴、一の谷D横穴群の2・3・4号横穴、欠下町A横穴群の1号横穴、薬師横穴群の2号横穴と5号横穴、田ヶ谷横穴群の2号横穴は出土遺物が無いため対象から除外してある。

須恵器の編年については、遠江須恵器編（鈴木 2001）を用いた。

借込横穴群の2号横穴は須恵器の壺身の口径が10cm前後で、小型化が進んだ遠江IV期前葉に相当し、7世紀中葉と考えられる。3号横穴は土師器の壺から6世紀後半と考えられるが、定かではない。

大恒A横穴群の1号横穴は須恵器が遠江IV期前葉に相当し、土師器の壺が7世紀、鉄鏃は6世紀後半から7世紀初頭に見られる特徴を示していることから、7世紀初頭から中葉と考えられる。2号横穴は須恵器が遠江IV期前葉に相当し、7世紀中葉と考えられる。3号横穴は土師器の壺身が6世紀末頃と思われるが、定かではない。4号横穴は須恵器の短頸壺の口縁部片が出土しているが、この破片から時期を推測するのは困難である。5号横穴は須恵器の広口壺が遠江IV期前葉に相当し、7世紀中葉と考えられる。

一の谷A横穴群の2号横穴は須恵器の?が遠江III期末葉に相当するとと思われ、7世紀前半と考えられる。3号横穴は須恵器が遠江V期前半、土師器の壺が8世紀に相当し、8世紀前半と考えられる。

--の谷B横穴群の1号横穴は須恵器の大壺が遠江IV期前葉に相当し、7世紀中葉と考えられる。2号横穴は土師器の壺から8世紀前半と考えられる。3号横穴は須恵器の壺蓋が遠江V期前半に相当し、8世紀前半と考えられる。

一の谷D横穴群の1号横穴は須恵器片が2点出土しているが、この破片から時期を推測するのは困難である。

欠下B横穴群の1号横穴は、須恵器の坏身の口径が11.40～13.30cmと9.30～9.75cmとに分かれること、高坏の中に無蓋長脚2段透のもの（遠江Ⅲ期前葉）があること、土師器の模倣坏蓋・坏身や蓋が6世紀に相当し、鉄鎌が6世紀後半から7世紀初頭に見られる特徴を示していることから、6世紀後半と考えられるものと、須恵器の中に遠江Ⅳ期前半から後半に相当するものとがあり、組合式石棺は1基であるが、7世紀中・後半に追葬が行われた可能性がある。2号横穴は須恵器の堆が遠江Ⅲ期後葉に相当すると思われ、7世紀前半と考えられる。組合式石棺は2基あり、同時期のものか追葬されたものかは、少ない出土遺物から想定できない。

欠下C横穴群の1号横穴は須恵器が遠江Ⅲ期後葉に相当すると思われ、7世紀前半と考えられる。

薬師横穴群の1号横穴は須恵器が遠江Ⅳ期前半に相当し、7世紀中葉と考えられる。また、山茶碗の小皿は器高が低く底径がやや大きいことから13世紀前半と考えられ、追葬あるいは再利用されたと考えられる。3号横穴は山茶碗のみが出土し、碗の口縁部が直線的に開くか、僅かに外反し、高台の断面形状が低い三角形が低く潰れていることから、13世紀前半と考えられる。4号横穴は須恵器の坏蓋が「かえり」が有り、乳頭状のつまみが付き、口径が9cm大であることから遠江Ⅳ期前半に相当し、7世紀中葉と考えられる。また、山茶碗の碗は口縁部が緩やかに外反し、高台の断面形状が三角形で高い高台が付くことから、12世紀前半と考えられ、追葬あるいは再利用されたと考えられる。

勝田ヶ谷横穴群の1号横穴は須恵器が遠江Ⅲ期後葉に相当すると思われ、7世紀前半と考えられる。

田ヶ谷横穴群の1号横穴は須恵器が遠江Ⅳ期後半に相当すると思われ、7世紀後半と考えられる。3号横穴は須恵器の坏身が遠江Ⅳ期前半に相当し、坏蓋が遠江Ⅳ期前半に相当することから、7世紀後半に構築され、8世紀前半に追葬が行われたと考えられる。

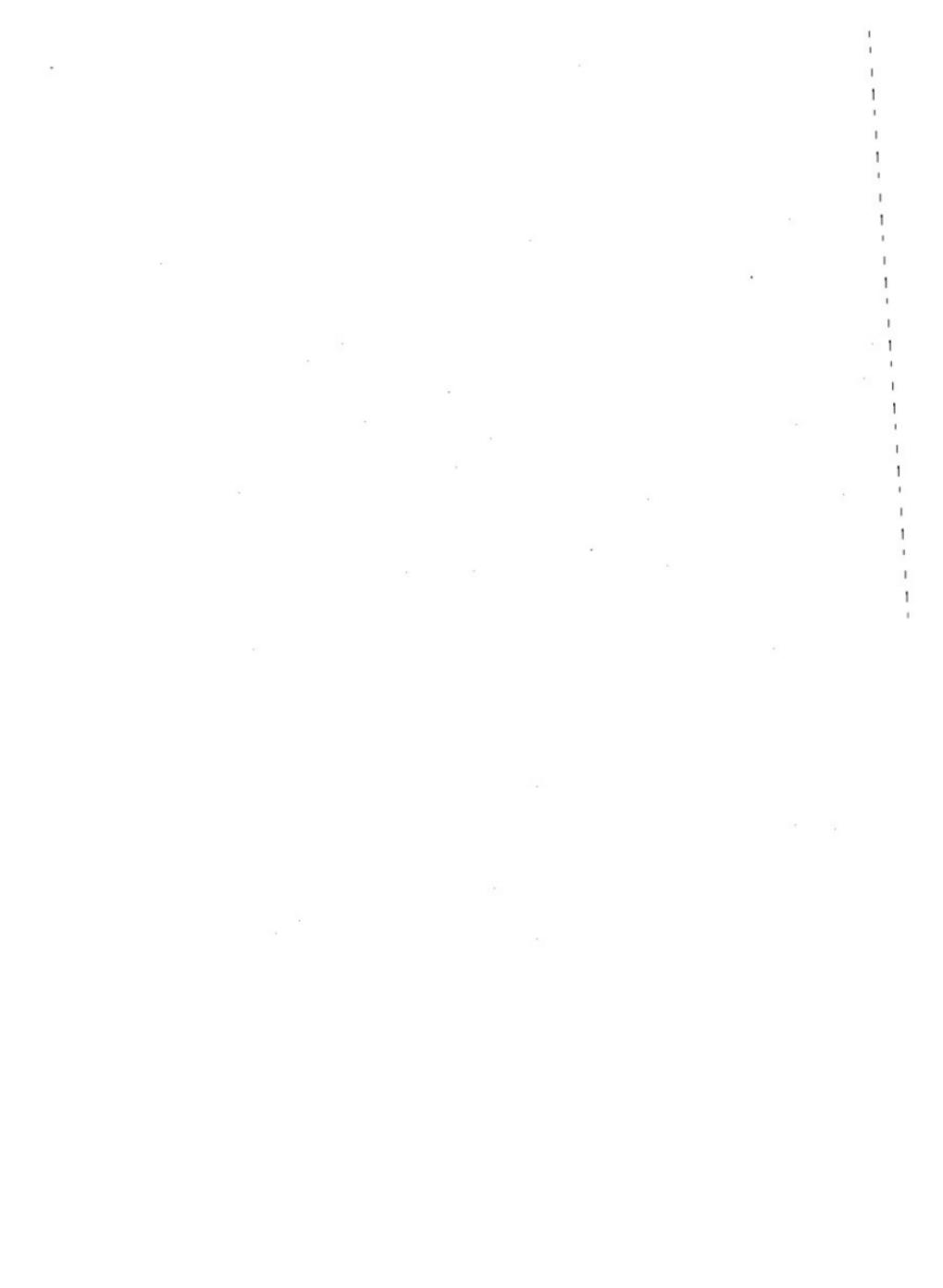
以上のように、毛森山横穴群は薬師横穴群の3号横穴が13世紀前半である以外は、6世紀後半から8世紀前半に構築され、田ヶ谷横穴群は7世紀後半に構築されている。ただし、毛森山横穴群は調査された32基の内、半分の16基が時期不明であり、横穴群全体を掌握できたとは言えない。

最後になるが、本報告書は、冒頭から繰り返し述べているように、当時の調査の様相が一切不明であり、充分なデータも残されていない状況下で、現存する資料の中でしか記載できない。したがって、この報告書は内容的に概報に近く、報告書としては不完全な部分が多くあるであろう。これは、調査後から報告書作成に至るまでに28年という長期間を要したことによるが、実際の作業が連続として行なわれたものではなく、実情は中断し作業が行なわれていないのである。こうしたことは、様々な要因があり、それらを今、ただ批判するだけでは何も解決しない。当時、遺跡に対する理解の低さや発掘調査が実施できる職員体制がない中で、開発計画が持ち上がり早急に発掘調査を実施しなければならない状況で、外部の調査員を急きょ依頼して調査したが、整理作業までは考慮されていなかったのではないか。こうした様々な行き違いの中で、起こり得るものである。しかし、毛森山の各横穴群は、その立地や分布、横穴の形態等、当該地域の様相を考察する時、特に重要な位置を占め、様々なデータを与えてくれるものと考えている。こうした貴重な資料を眠らせておくには億びなく、広く公開すべきものと考える。また、そのことが、当時の発掘調査等に携わった人々の労苦に報いるものである。この度、各方面的関係各位からご尽力をいただき、ようやく「毛森山横穴群」発掘調査報告書が刊行できた。内容的に不備な点やご批判等多々あると思うが、皆様方にご一読いただきご教示願いたい。

参考文献

- ・平野吉郎 「遠江における横穴群の分布と年代」「遠江の横穴群」 静岡県教育委員会 1983年
- ・閔 義則 「古墳時代後期鉄鎌の分布と編年」「日本古代文化研究 3号」 PHALANX 古墳文化研究会 1986年
- ・渡辺康弘他 「岩滑清水ヶ谷横穴群・岩滑松ヶ谷横穴発掘調査報告書」 大東町教育委員会 1988年
- ・渡辺康弘 「鳥見ヶ谷横穴群発掘調査報告書」 大東町教育委員会 1990年
- ・鬼澤勝人 「玉体横穴群発掘調査報告書」 大東町教育委員会 1991年
- ・鬼澤勝人 「下土方青谷横穴群発掘調査報告書」 大東町教育委員会 1993年
- ・松井一明 「遠江における横穴墓の伝播と展開」「静岡県考古学研究 No.33」 静岡県考古学会 2001年
- ・大東町教育委員会 「大東町文化財地名表・分布地図」 大東町教育委員会社会教育課 2001年
- ・森 咲史他 「兼情横穴群・兼情遺跡・帝积山砦」 大東町教育委員会 2002年

写 真 図 版





1. 借込横穴群1号横穴（左上）・2号横穴（右下）



2. 借込横穴群1号横穴



3. 借込横穴群2号横穴



4. 借込横穴群3号横穴



1. 大恒A横穴群 左から5号・4号・3号・2号・1号横穴



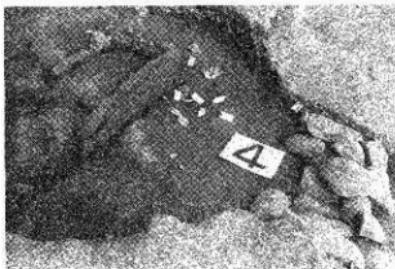
2. 大恒A横穴群 1号横穴



3. 大恒A横穴群1号横穴玄室



4. 大恒A横穴群2号横穴



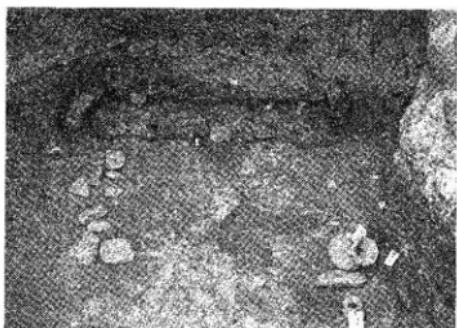
5. 大恒A横穴群2号横穴玄室



1. 大恒A横穴群 5号横穴（左）・4号横穴（中）
・3号横穴（右）



2. 大恒A横穴群3号横穴



3. 大恒A横穴群3号横穴玄室



4. 大恒A横穴群4号横穴



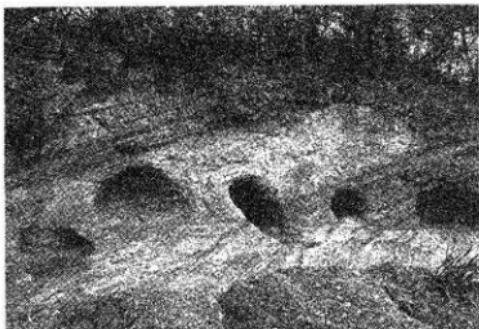
5. 大恒A横穴群5号横穴



6. 大恒A横穴群5号横穴玄室



1. 大恒B横穴群1号横穴



2. 一の谷A横穴群 左から1号・2号・3号・4号・
5号横穴



3. 一の谷A横穴群1号横穴



5. 一の谷A横穴群3号横穴



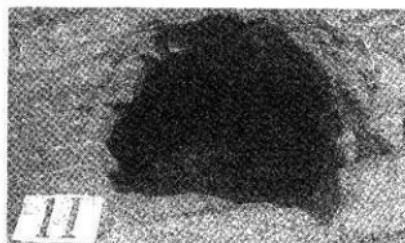
4. 一の谷A横穴群2号横穴



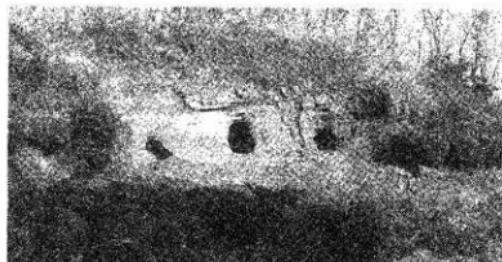
1. 一の谷A横穴群3号横穴玄室



3. 一の谷A横穴群5号横穴



2. 一の谷A横穴群4号横穴



4. 一の谷C横穴群 左から4号・3号・2号横穴



5. 一の谷C横穴群1号横穴



6. 一の谷C横穴群2号横穴



1. 一の谷C横穴群3号横穴



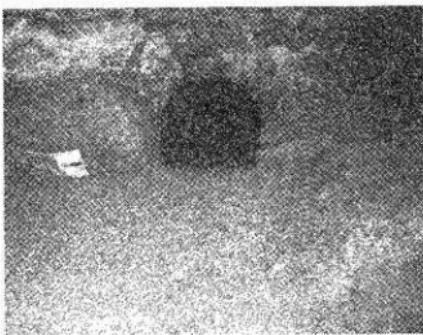
2. 一の谷C横穴群4号横穴



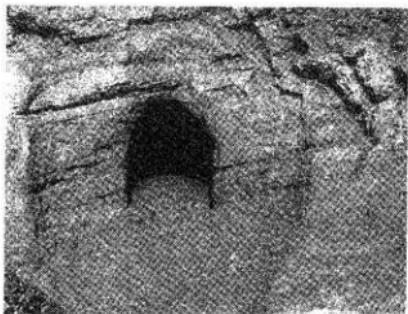
3. 一の谷D横穴群1号横穴（右下）・2号横穴（左上）



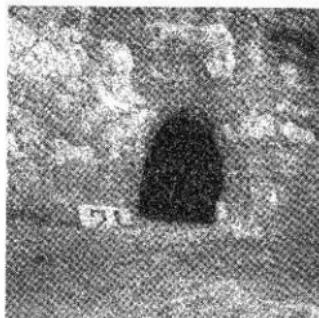
4. 一の谷D横穴群1号横穴



5. 一の谷D横穴群2号横穴



1. 一の谷D横穴群3号横穴



2. 一の谷D横穴群4号横穴



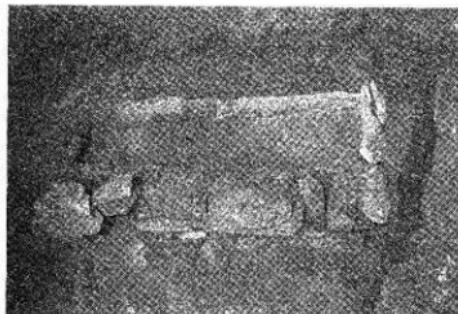
3. 欠下岬A横穴群1号横穴



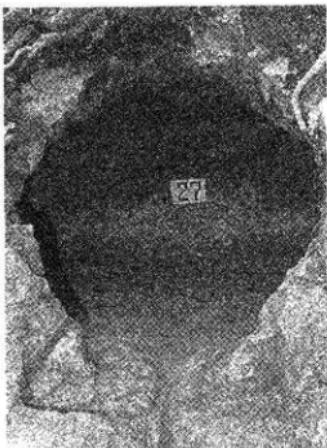
4. 欠下岬B横穴群1号横穴



6. 欠下岬B横穴群2号横穴



5. 欠下岬B横穴群1号横穴玄室



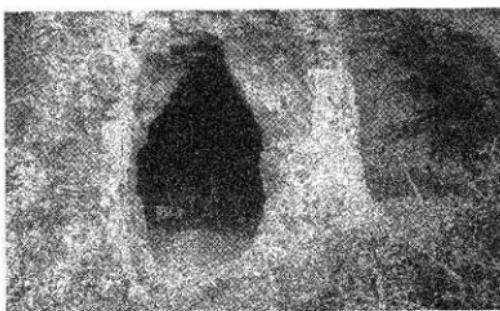
1. 欠下岬C横穴群1号横穴



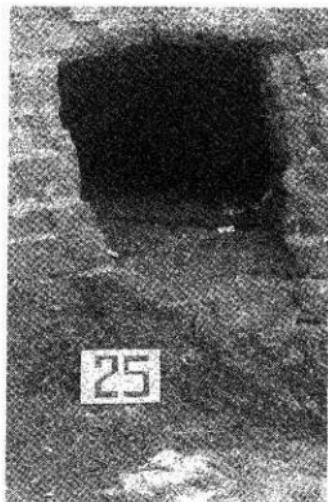
2. 薬師横穴群 左から5号・4号・3号・2号
・1号横穴



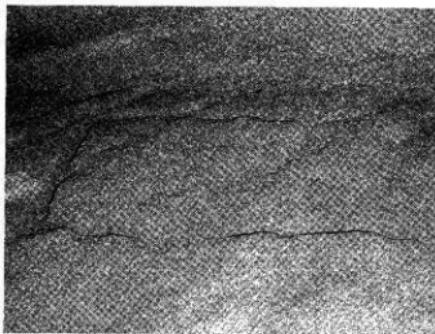
3. 薬師横穴群1号横穴



4. 薬師横穴群2号横穴



1. 萩師横穴群4号横穴



2. 萩師横穴群4号横穴玄室



3. 萩師横穴群5号横穴



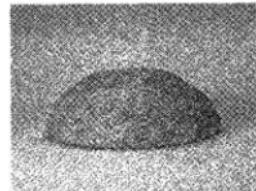
4. 田ヶ谷横穴群3号横穴玄室



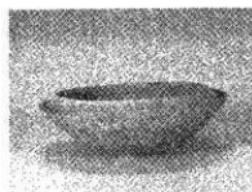
1. 僧込横穴群3号横穴
土師器 茶 (2-2-2)



2. 大恒A横穴群1号横穴
鉄鎚



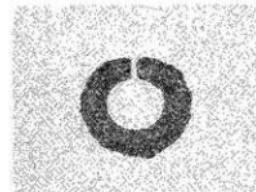
3. 大恒A横穴群2号横穴
須恵器 壱蓋 (4-8)



4. 大恒A横穴群2号横穴
須恵器 壱身 (4-12)



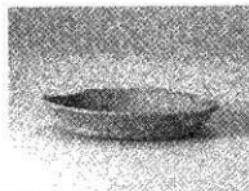
4. 大恒A横穴群2号横穴
須恵器 壱身 (4-12)



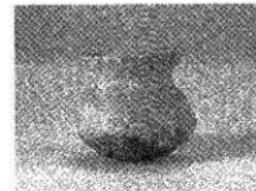
6. 大恒A横穴群3号横穴
耳環



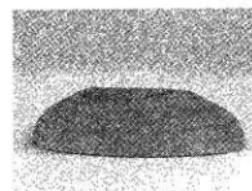
7. 大恒A横穴群5号横穴
須恵器 広口壺 (7-2)



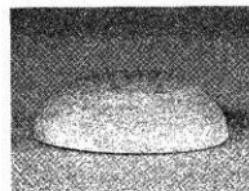
8. 一の谷C横穴群2号横穴
土師器 盆 (14-2)



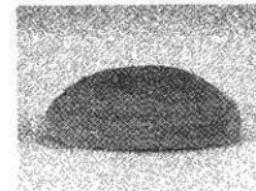
9. 一の谷C横穴群3号横穴
土師器 小型壺 (15-16)



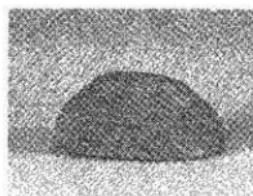
10. 欠下岬B横穴群1号横穴
須恵器 壱蓋 (17-1-30)



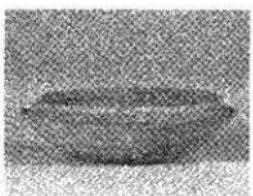
11. 欠下岬B横穴群1号横穴
須恵器 壱蓋 (17-1-37)



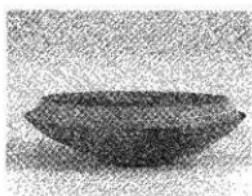
12. 欠下岬B横穴群1号横穴
須恵器 壱蓋 (17-1-41)



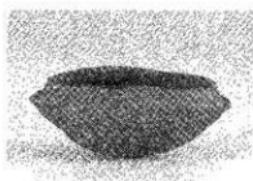
1. 欠下岬B横穴群1号横穴
須恵器 壺蓋 (17-1-40)



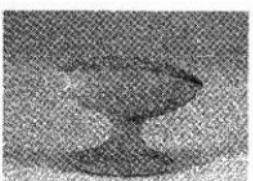
2. 欠下岬B横穴群1号横穴
須恵器 壺身 (17-1-48)



3. 欠下岬B横穴群1号横穴
須恵器 壺身 (17-1-18)



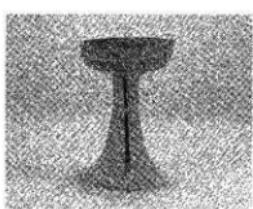
4. 欠下岬B横穴群1号横穴
須恵器 壺身 (17-1-45)



5. 欠下岬B横穴群1号横穴
須恵器 高壺 (17-1-54)



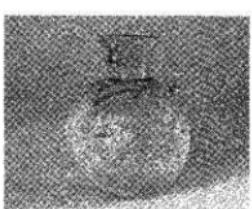
6. 欠下岬B横穴群1号横穴
須恵器 高壺 (17-1-56)



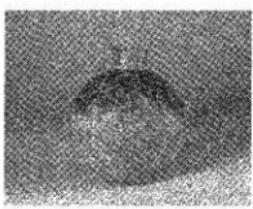
7. 欠下岬B横穴群1号横穴
須恵器 高壺 (17-1-57)



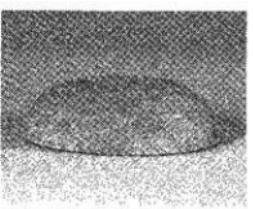
8. 欠下岬B横穴群1号横穴
須恵器 脚付壺 (17-1-53)



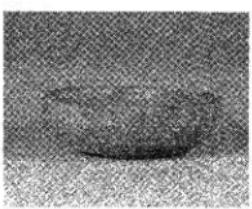
9. 欠下岬B横穴群1号横穴
須恵器 提瓶 (17-1-61)



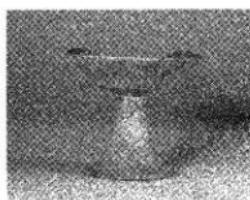
10. 欠下岬B横穴群1号横穴
須恵器 横瓶 (17-1-65)



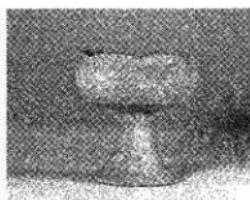
11. 欠下岬B横穴群1号横穴
土師器 壺蓋 (17-1-17)



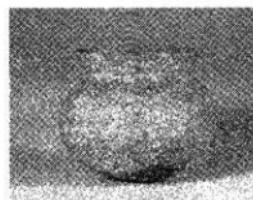
12. 欠下岬B横穴群1号横穴
土師器 壺身 (17-1-13)



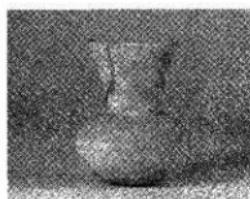
1. 欠下峠B横穴群1号横穴
土師器 高坏 (17-1-3)



2. 欠下峠B横穴群1号横穴
土師器 高坏 (17-1-16)



3. 欠下峠B横穴群1号横穴
土師器 堵 (17-1-12)



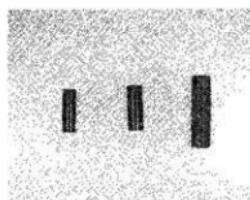
4. 欠下峠B横穴群1号横穴
土師器 壺 (17-1-15)



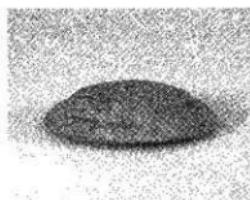
5. 欠下峠B横穴群1号横穴
鉢



6. 欠下峠B横穴群2号横穴
須恵器 塗 (17-1)



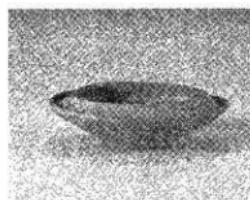
7. 欠下峠C横穴群1号横穴
管玉



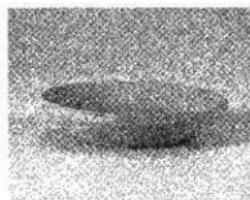
8. 葉師横穴群1号横穴
須恵器 壱蓋 (22-2)



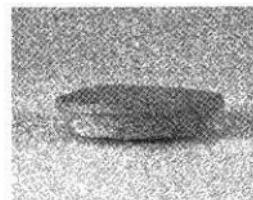
9. 葉師横穴群1号横穴
須恵器 壱蓋 (22-4)



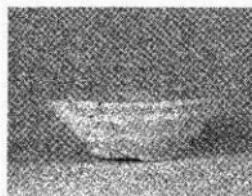
10. 葉師横穴群1号横穴
須恵器 壱身 (22-1)



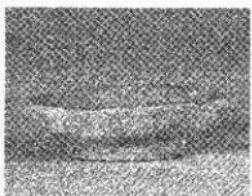
11. 葉師横穴群1号横穴
山茶碗 小皿 (22-5)



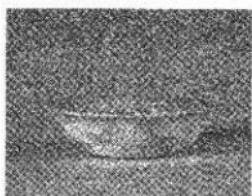
12. 葉師横穴群1号横穴
山茶碗 小皿 (22-6)



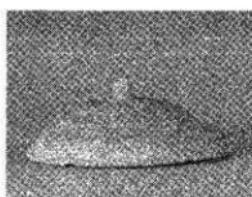
1. 薬師横穴群3号横穴
山茶碗 碗 (24-1-2)



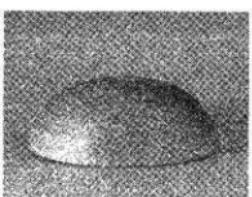
2. 薬師横穴群3号横穴
山茶碗 皿 (24-2)



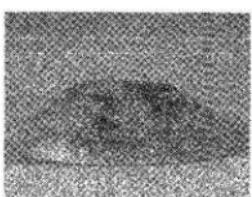
3. 薬師横穴群3号横穴
山茶碗 小皿 (24-4-2)



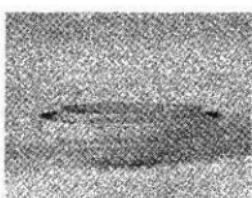
4. 薬師横穴群4号横穴
須恵器 壺身 (25-1)



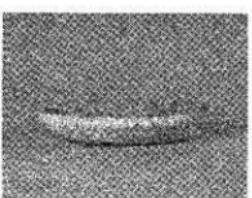
5. 薬師横穴群4号横穴
須恵器 壺身 (25-3)



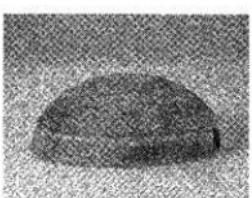
6. 薬師横穴群4号横穴
須恵器 壺身 (25-6-3)



7. 薬師横穴群4号横穴
須恵器 壺身 (25-2-1)



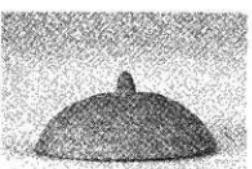
8. 薬師横穴群4号横穴
山茶碗 小皿 (25-3-2)



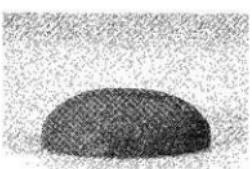
9. 勝田ヶ谷横穴群1号横穴
須恵器 壺蓋 (28-10-2)



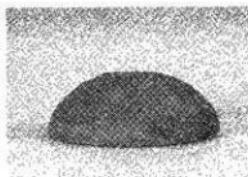
10. 勝田ヶ谷横穴群1号横穴
ガラス小片



11. 田ヶ谷B横穴群1号横穴
須恵器 壺蓋 (1-16-1)



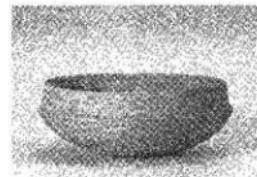
12. 田ヶ谷B横穴群1号横穴
須恵器 壺蓋 (1-11)



1. 田ヶ谷B横穴群1号横穴
須恵器 壊蓋 (1-16-3)



2. 田ヶ谷B横穴群1号横穴
須恵器 壊身 (1-19-1)



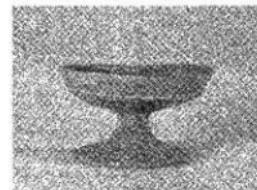
3. 山ヶ谷B横穴群1号横穴
須恵器 壊身 (1-10)



4. 田ヶ谷B横穴群1号横穴
須恵器 壊身 (1-8)



5. 山ヶ谷B横穴群1号横穴
須恵器 壊身 (1-20-3)



6. 田ヶ谷B横穴群1号横穴
須恵器 高坏 (1-6)



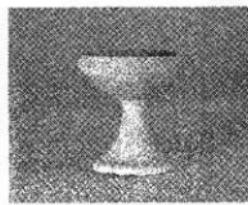
7. 田ヶ谷B横穴群1号横穴
須恵器 高坏 (1-4)



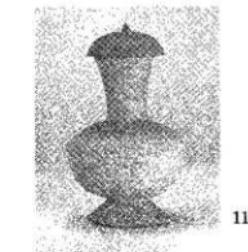
8. 田ヶ谷B横穴群1号横穴
須恵器 高坏 (1-15)



9. 田ヶ谷B横穴群1号横穴
須恵器 高坏 (1-1)



10. 田ヶ谷B横穴群1号横穴
須恵器 高坏 (1-16)



11. 田ヶ谷B横穴群1号横穴
須恵器 蓋付長頸壺 (1-14、1-19-2)

報告書抄録

ふりがな	けもりやまおうけつぐんはくつちょうさほうこくしょ							
書名	毛森山横穴群発掘調査報告書							
副書名								
シリーズ名								
編著者名	鬼澤勝人							
編集機関	大東町教育委員会社会教育課							
所在地	〒437-1491 静岡県小笠郡大東町三俣620番地							
発行年月日	平成16年12月20日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
毛森山横穴群	静岡県小笠郡 大東町中・西 之谷、田ヶ谷	22447	36°39'~ 49 53			昭和51年 3月		土地 改良
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
毛森山横穴群	横穴	古墳時代	横穴	須恵器・土師器				
田ヶ谷横穴群	横穴	古墳時代	横穴	須恵器・土師器				

毛森山横穴群発掘調査報告書

平成16年12月20日発行

発行：大東町教育委員会
編集：大東町教育委員会社会教育課

〒437-1491 静岡県小笠郡大東町三俣620番地
電話：0537-72-1121

印刷：有限会社文書サービス

